

平成29年度業務実績報告書

平成30年6月
独立行政法人国立美術館

目 次

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	3
1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開	3
(1) 多様な鑑賞機会の提供	3
① 所蔵作品展	3
② 企画展	4
③ 東京国立近代美術館フィルムセンターの映画上映会・展覧会	6
④ 巡回展	7
(2) 美術創造活動の活性化の推進	7
① 新しい芸術表現への取組	7
② 公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）	9
(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上	10
① 情報通信技術（ICT）を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等	10
② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実	12
③ インフォメーションデータセンター（IDC）の確立	14
(4) 教育普及活動の充実	14
① 幅広い学習機会の提供（講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等）	14
② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業	17
(5) 調査研究の実施と成果の反映・発信	20
① 調査研究一覧	20
② 調査研究成果の発信	21
(6) 快適な観覧環境の提供	22
① 高齢者、障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境の形成	22
② 入場料金、開館時間等の弾力化	24
③ キャンパスメンバーズ制度の実施	27
④ ミュージアムショップ、レストラン等の充実	27
2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承	29
(1) 作品の収集	29
(2) 所蔵作品の保管・管理	31
(3) 所蔵作品の修理・修復	33
(4) 所蔵作品の貸与	34
3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与	36
(1) 国内外の美術館等との連携・協力等	36
(2) ナショナルセンターとしての人材育成	37
(3) 国内外の映画関係団体等との連携等	38
II 業務運営の効率化	43
1 業務運営の取組	43
2 組織体制の見直し	45
3 契約の点検・見直し	45
4 共同調達の推進	46
5 給与水準の適正化等	47
6 情報通信技術を活用した業務の効率化	47

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）, 収支計画及び資金計画等	49
1 自己収入の確保	49
2 保有資産の有効利用・処分	49
3 予算	49
4 収支計画	50
5 資金計画	51
6 貸借対照表	52
7 短期借入金	52
8 重要な財産の処分等	52
9 剰余金	52
Ⅳ その他主務省令で定める業務運営に関する事項	54
1 内部統制・ガバナンスの強化	54
2 施設・設備に関する計画	55
3 人事に関する計画	55
4 関連公益法人	57
別表 1 所蔵作品展	58
別表 2 企画展	58
別表 3 映画上映会（フィルムセンター）	60
別表 4 展覧会（フィルムセンター）	61
別表 5 地方巡回展・巡回上映等	61
別表 6 調査研究一覧	62
別表 7 展覧会図録における執筆	68
別表 8 研究紀要における執筆	71
別表 9 館ニュースにおける執筆	72
別表 10 館外の学術雑誌, 学会等における調査研究成果の発信	75
別表 11 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催	92
別表 12 シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築	95

（別紙 1）独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

(1) 多様な鑑賞機会の提供

平成 29 年度は、各館が多彩な展覧会を開催するとともに、開館時間延長や臨時開館など来館者の利便性の向上に努め、また、開催時期やテーマなど利用者のニーズにこたえる時宜にかなったイベントを開催するなど様々な工夫を凝らした結果、来館者数が過去最高となったことが特徴である。

① 所蔵作品展

所蔵作品展は、研究成果、利用者のニーズ等を踏まえ、別表 1 のとおり実施した。

各館の取組の特徴は以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

(本館)

特集「東山魁夷」で、国民的人気を誇る日本画家、東山魁夷の代表作《道》をはじめ、所蔵する日本画 17 点を、所蔵品ギャラリー2 部屋を用いて公開した。東山は人気作家であるため貸出しの依頼が多く、まとめて展示できる機会が少ないが、今回一挙に公開したことで来館者から高い人気を得た。また、特集に合わせて、日本語の音声ガイドにおいて東山魁夷本人の肉声（講演会記録を活用）による解説を提供したところ、音声ガイドの貸出が普段の 10 倍以上にのびた。これは、来館者のニーズを館側で的確に汲み取り、サービスとして提供できた成果であるといえる。

(工芸館)

工芸館の開館 40 周年を記念して 4 本の展覧会を開催するとともに、関連イベントや教育プログラムを年間通じて実施した。中でも、「工芸館開館 40 周年記念所蔵作品展 名工の明治」展は、平成 26 年から進めてきた鑄金家鈴木長吉による《十二の鷹》の修復事業の成果を初めて一般公開したもので、政府の「明治 150 年」施策の関連イベントにも位置づけられた。明治の精神を今に伝える名工たちの工芸作品 111 点の展示により、名工たちの技と表現が現代にいかにかに継承されたかを紹介したもので、時宜を捉えたテーマ設定と貴重な作品を次代に継承するための修復事業の成果発信という複合的な観点で実施したが、来館者の関心も高く、国民の関心に応えることができたといえる。

イ 京都国立近代美術館

研究員の研究テーマによる小企画として、「キュレトリアル・スタディズ 12 泉／Fountain 1917-2017」を開催した。マルセル・デュシャンの《泉》の発表から 100 年を迎えることにちなみ、所蔵する《泉》を 1 年間展示するとともに、国内外の現代作家などをゲストキュレーターとして招へいし、《泉》のための企画展示を 5 回実施した。また、各会期に合わせてゲストキュレーターによる様々な切り口のレクチャーや対談を実施したことで、現代美術に関心を持つ若い世代のニーズに応え、多くの来館者を得た。

ウ 国立西洋美術館

テオドール・シャセリオー《アクタイオンに驚くディアナ》、印象派展の女性画家の初収蔵作品であるベルト・モリゾの《黒いドレスの女性（観劇の前）》など新規収蔵作品の紹介・展示を積極的に行ったほか、2017 年がロダン没後 100 年に当ることから、小企画展「《地獄の門》への道—ロダン素描集『アルバム・フナイユ』」を開催した。

エ 国立国際美術館

所蔵作品展「ライアン・ガンダーによる所蔵作品展—かつてない素晴らしい物語」を企画展「ライアン・ガンダー —この翼は飛ぶためのものではない」と同時に開催し、館全体を使用して企画展と所蔵作品展を連動させた大型の企画となった。これは、企画展出品作家であるライアン・ガンダーが構成したものである。学芸員による学術的な見地とは大きく異なる、造形作

家ならではの自由な観点により構成された所蔵作品展には、企画展来館者の約8割が足を運んでおり、来館者の興味をうまく惹き出し、回遊性をもたらす成果を上げたといえる。

② 企画展

企画展は、来館者のニーズに対応しつつ、以下の観点に留意して別表2のとおり実施した。

- イ 国際的視野に立ち、アジア諸地域を含め海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。
- ロ 展覧会テーマの設定や他の芸術文化との連携による展示方法等について方向性を提示することに取り組む。
- ハ メディアアート、アニメ、建築、ファッションなど我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。
- ニ 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に取り組む。
- ホ その他

各館の取組の特徴は以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

(本館)

「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」は、国際交流基金との共催によりMAXXI国立21世紀美術館（ローマ）とバービカン・センター（ロンドン）を巡回し、非常に好評を博した企画の凱旋展である。これまで国内の展覧会では十分に紹介されてこなかった日本の住宅建築のクオリティの高さや多様性について、53人の建築家による88の家を取り上げて、模型、写真、映像及び図面等の展示や時代背景に関する画家や写真家やファッションデザイナー等他ジャンルの作家の作品の展示など、これまでにない規模と手法（系譜学）で紹介したもので、建築を学ぶ学生や子供連れの親子、外国人など様々な層の来館者に好評を得た。また、個人住居の原寸大模型を制作・展示したほか、前庭にオリジナルの小屋をワークショップにより設置してこれをカフェ的空間として活用するなどの工夫により専門家向けと思われるがちな建築展の敷居を下げたことなども来館者数の増につながったといえる。

「没後40年 熊谷守一 生きるよろこび」は、没後40年を迎えた画家 熊谷守一に関する最新の解釈や新出の資料をもとに、「仙人」と呼ばれた熊谷のこれまでのイメージを覆すもので、色彩学や音響学研究の痕跡を示す日記やノート類など新出の資料をもとに新たな解釈を加え、熊谷の科学的な緻密な思考などこれまで知られていなかった意外な側面を明らかにするなど、近年観客の関心が薄れていた日本近代洋画家の再評価を図ったものである。

(工芸館)

「マルセル・ブロイヤーの家具：Improvement for good」では、モダンデザインを確立したハンガリー生まれのデザイナー マルセル・ブロイヤーの家具デザインを取り上げた。本展は、海外ではドイツのバウハウス・デッサウ財団より13点、スイスのヴィトラ・デザイン・ミュージアムより9点、また、国内のコレクションより12点、更に工芸館が数年前から国内外の美術館の所蔵調査を行いながら収集を進めてきたブロイヤーの家具7点を合わせて展示し、作品数は少ないながらもブロイヤーのデザインの核心について凝縮した形で紹介した。世紀を超えてデザインに影響を及ぼし続けるブロイヤーを単独で取り上げた国内初の企画であるとともに、工芸館の作品調査の成果を発信できただけでなく、調査活動を通じて海外主要美術館との関係が強化されたことも大きな成果である。

「工芸館開館40周年記念特別展 陶匠 辻清明の世界—明る寂びの美」では、没後10年という節目に焼き締め陶（陶器を、釉薬を用いず高温によって焼成する技法）の担い手として知られた辻清明の作品を紹介した。辻は生前一部の陶芸ファンの間では人気が高かったが、その

全貌はあまり知られていなかった。没後の回顧展は今回が初めてであるが、没後 10 年を経て人々の記憶が薄れつつあるこの機に個展として取り上げ、辻の陶芸作品だけでなく、本人の自筆の書や愛蔵の収集品、実際の作陶の様子がわかる映像など多面的な展示を行うことで、改めて作陶活動の全貌に迫るとともに、日本の伝統的な焼き締め陶の魅力も伝える企画とした。遺族等に同意を得て作品を撮影可とした結果、SNS 等での発信による大きな広報効果が得られた。

イ 京都国立近代美術館

「技を極めるーヴァン クリーフ&アーペル ハイジュエリーと日本の工芸」では、フランスが誇るハイジュエリーのメゾンであり、世界的に有名なヴァン クリーフ&アーペルのハイジュエリーと超絶技巧といわれる日本の明治期の工芸作品を組み合わせ展示し、両者の共通点・相違点を具体的に検証した。海外の記者向けの内覧会を開催したところ、10ヶ国 43 団体が参加した。各国記者へ個別に説明する機会を設けた結果、多くの海外メディアで取り上げられ、フランスと日本の文化を紹介することに貢献した。

「ゴッホ展 巡りゆく日本の夢」では、日本でも人気の高い画家であるゴッホと日本美術の関係というテーマで、新しい知見も盛り込む学術的価値の高い内容を目指したものである。ゴッホが日本の浮世絵や文献からどのような影響を受けていたかに焦点を当て、作品を比較できるような展示にしたことから、幅広い関心を集めることができた。また、開館前の朝の時間を利用して親子向けイベント「ファミリー・アワー：美術館でゴッホモーニング」を実施するなどの工夫を盛り込み、多くの入館者を得ることができた。

ウ 国立西洋美術館

「アルチンボルド展」は、「寄せ絵」の考案者として知られていながら全体像の紹介が行われていなかった 16 世紀の画家に関する日本初の展覧会である。近年欧米で開催された展覧会における新たな知見を踏まえ、宮廷のアートディレクターとしての活動の紹介、有名な「寄せ絵」と同時代の類似作例との比較展示などにより、アルチンボルドの作品と当時の美術・文化との関わりを幅広く紹介した。また、展示室入口前のロビーにおいて、「アルチンボルドメーカー」（来館者の顔を認識して「寄せ絵」風の 3D 画像に変換する装置）など、若年層にも親しみやすい関連展示を行ったところ、多くの来館者に好意的な評価を得るだけでなく SNS 発信による広報効果も非常に高かった。

「北斎とジャポニスムーHOKUSAI が西洋に与えた衝撃」では、ジャポニスム（19 世紀末～20 世紀初頭の西洋美術における日本趣味）という文化現象の中でも、葛飾北斎作品の受容に的を絞ったという点で世界初の展覧会である。国内外の美術館や個人が所蔵する西洋美術約 200 点と、北斎の作品約 100 点を比較展示することで、ジャポニスムにおける北斎の重要性を明らかにし、実際にどのような影響関係があったのか具体的に検証した。また、北欧や東欧といったジャポニスム研究が近年深化した地域の作品や、知名度の高くない作家の作品も多く取り上げ、西洋近代美術と北斎とのかかわりを網羅的かつ明確に示した点でこれまでのジャポニスム展とは一線を画した学術的意義のある企画であり、海外の評価も高かった。西洋美術館において日本美術を展示したことで、新たな来館者層の開拓につながったことも成果といえる。

エ 国立国際美術館

「ライアン・ガンダーー —この翼は飛ぶためのものではない」では、世界的な評価が高まるライアン・ガンダーの作品を、国内の国公立美術館で初めて紹介した。本展は、世界的に活躍するコンセプチュアル・アーティストであるライアン・ガンダーの重要作と新作約 60 点による過去最大規模の個展であり、大規模なインスタレーション作品やボランティアが参加する一過性のパフォーマンス作品など多様な作品を出品することで、作家の幅広い活動を総合的に紹介した。美術に詳しくなくとも大人から子供まで楽しめる作品も多く含み、また、前述のとおり所蔵作品展とも連動させて館全体を使って一体的な展示とすることで、親子連れや学生など幅

広い客層を呼び込むことに成功した。更に、全作品を撮影可とすることで、SNS 等での発信による大きな広報効果が得られた。

「開館 40 周年記念展「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」」では、国立国際美術館開館 40 周年を記念し、国内の美術館では取り上げられる機会が少ないパフォーマンスという表現領域を展覧会テーマの一つとすることで、今後の美術館における展示の可能性を探った。国立国際美術館の展示室以外のパブリック・ゾーン等も活用したかつてない規模の展覧会であり、絵画・彫刻・写真・映像・パフォーマンス作品等国内外 45 作家 139 点を展示した。パフォーマンス作品の收藏、そして展覧会会期を通じてのパフォーマンスの実施は、SNS でも積極的に情報発信し、専門家や一般の鑑賞者から注目を集めるとともに高い評価を受けた。また、会期中の毎週金曜日・土曜日の夜間開館時間帯に出品作家によるパフォーマンスやトークを実施することで夜間の来館者増を図った。

オ 国立新美術館

「国立新美術館開館 10 周年 チェコ文化年事業 ミュシャ展」では、アール・ヌーヴォーのポスター作家として日本で知名度の高いミュシャの晩年の超大作《スラヴ叙事詩》全 20 点がチェコ国外で世界初公開された。本国チェコにおいてもめったに公開されない《スラヴ叙事詩》全点を展示することでミュシャの画業の新たな側面を紹介し、ミュシャ研究の新たな展開の契機ともなる大きな成果を上げた。縦 6 メートル横 8 メートルにもなる大作の展示は国立新美術館の展示室の規模があって初めて実現できたものであり、また、展示の様子を会期前からホームページで配信したり、一部作品を撮影可としたところ、SNS による広報効果が高まり、全会期を通じた 1 日平均の入館者数が 8,000 名を超える大きな反響を呼ぶものとなった。

「サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980 年代から現在まで」では、ASEAN 設立 50 周年を記念し、国立新美術館と森美術館との共同企画・2 館同時開催という形式で、これまで国内では注目されることが少なかった東南アジアの現代美術を紹介した。ASEAN 地域 10 か国 16 都市を 2 年半にわたり調査し、400 件を超えるアーティストの創作現場等を訪問した情報をもとに合計 86 組のアーティストを取り上げることとした本展は、東南アジアにおける 1980 年代以降の現代アートを紹介する展覧会として過去最大規模の展示となった。国際的には高い注目を集めながら日本においては紹介の機会が少なく馴染みの薄い地域であったが、森美術館との同時開催としたことで相乗的に広報効果が高まったこと、一部の作品を撮影可としたところ来館者による SNS 発信が増えたことも広報効果を上げることに繋がった。また、海外からの注目も集め、外国人来館者も多かった。

「国立新美術館開館 10 周年 安藤忠雄展—挑戦—」では、世界的に知名度の高い建築家安藤氏の創作活動を包括的に紹介する初めての大回顧展である。本展では安藤氏の生い立ちなどパーソナルな部分から導入し、普段目にすることの出来ないスケッチや建築図面、模型、映像などの資料に加えて代表的建築の一つである《光の教会》を原寸大で再現展示するなど展示スペースの規模を生かした国立新美術館だからこその展示構成によりその約半世紀にわたる創作活動の全貌を系統立てて紹介した。会期中には安藤氏が自ら語るギャラリートークを 31 回実施したほか、野外展示場の《光の教会》において実際にウェディング・セレモニーを 3 回開催するなど多様なイベントを開催した。通常、建築展はその専門的な内容から来館者層が限られる傾向にあるが、展示構成の工夫やイベント等の実施により、専門家や建築を学ぶ学生だけでなく、専門知識がない一般来館者の興味関心にもこたえるものとなり、多数の入館者を得た。

③ 東京国立近代美術館フィルムセンターの映画上映会・展覧会

東京国立近代美術館フィルムセンター（以下、「フィルムセンター」という。）の映画上映会・展覧会は、別表 3 及び別表 4 のとおり実施した。

取組の特徴は以下のとおりである。

上映会「よみがえるフィルムと技術」では、一般社団法人 日本映画テレビ技術協会 (MPTE) の創立 70 周年を記念し、日本映画を支えた各技術パートである撮影・照明・美術・録音などの表現と、フィルム・アーカイブを支えるラボの技術を再評価した。本上映会では、フィルムセンターが平成 27 年度から平成 28 年度にかけて復元した日本映画 3 プログラムと、フィルムセンター所蔵作品 10 プログラムを組んで上映した。復元作品は土日に 2 回上映するとともに、研究員による復元プロセスを解説するトークイベントも併せて開催した。また、平成 29 年度文化庁「美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業」として、本会中に「NFC & MPTE アーカイブセミナー」を開催し、お披露目上映した復元作品についての専門家向けの解説を行った。トークイベントを含めた本上映企画と専門家向けのセミナーを並行して開催することにより、一般の観客に向けた教育普及企画と専門家同士の交流を深める企画の双方を実現できたことは大きな成果である。

上映会「映画プロデューサー 佐々木史朗」では、1970 年代末から現在に至るまで様々な映画監督の作品プロデュースに関わってきた佐々木史朗を特集し、歴史的かつ体系的に検証される機会の少なかった 80 年代以降の日本の映画監督たちの動向を明らかにした。本上映会は、佐々木史朗がプロデュースした多くの監督の中から 18 人を選び、各監督 1 作の計 18 作でプログラムを構成した。また、全作品の上映後に佐々木氏本人によるトークイベントを開催し、映画プロデューサーという仕事、制作方針、作家の個性を活かした作品を生み出す佐々木氏ならではの試み等について、鑑賞者が理解を深める機会となった。また、トークの内容自体が貴重な証言であるが、更にトーク後に関係者が訂正や証言の追加をするなどしたことにより、映画史の記録としても重要な情報を蓄積することができた。

展覧会「ポスターで見る映画史 Part.3 SF・怪獣映画の世界」は、実際の映画ではなくポスターで映画史を紹介するシリーズの第 3 回である。「特撮」という日本で高度な進化を遂げた技術を擁したジャンルについて、『キングコング』、『ゴジラ』、『スター・ウォーズ』シリーズなど、海外にもファンを生んだ日本の怪獣映画や世界を席卷した SF 映画の黄金期など映画の系譜やイラストレーションの歴史とも関連付けで映画文化を紹介した。普段はフィルムの収蔵状況等の制限から上映事業では取り上げることが難しいジャンルについて積極的に取り上げるとともに、フィルムセンターの独立に当たり広報面でも力を入れたところ、紙面にも取り上げられるなど反響を呼び、一日当たりの平均入館者数がフィルムセンター企画展史上最多となった。

また、独立を前に、初の館外展示を行った。東京駅丸の内口「行幸地下ギャラリー」を会場に「東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵 映画ポスター名品選」を開催した。展示品は、所蔵する映画ポスターの中から特に価値の高い 30 点を精選してデジタル化・複製したもので、東京駅の地下で観光客やビジネスマンの目に留まるという好立地での開催で、認知度の向上に努めた。

④ 巡回展

地方巡回展及び巡回上映等は、別表 5 のとおり実施した。

(2) 美術創造活動の活性化の推進

① 新しい芸術表現への取組

新しい芸術表現への取組については、各館以下のとおり実施した。

ア 東京国立近代美術館		
(本館)		
事業(展覧会等)名	ジャンル	取組内容

企画展「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」	建築	戦後の個人住宅を系譜学で分析・紹介する国内外で初の試み。東京国立近代美術館研究員が企画し、MAXXI 国立21世紀美術館（ローマ）、パービカン・センター（ロンドン）を巡回した後、東京国立近代美術館に凱旋した。
所蔵作品展「MOMAT コレクション」	映像	出光真子《Make up》（1978年）、田中功起《一つのプロジェクト、七つの箱と行為、美術館にて》（2012年）、高嶺格《ジャパニ・シンδροーム》（2011-12年）、Chim↑Pom《Black of Death 2013》（2013年）など近年収蔵した映像作品を紹介した。
(フィルムセンター)		
事業（展覧会等）名	ジャンル	取組内容
上映会「自選シリーズ 現代日本の映画監督6 石井岳龍」	映像、音楽	映像と音の関係性を追求してきた石井監督の経歴上重要な作品でありながら、映画館では本格的に上映されてこなかった短篇作品を収集・上映した。
企画展「人形アニメーション作家 持永只仁」	アニメーション	国産アニメーション映画の中でも、これまで本格的に紹介されてこなかった先駆的な映画作家の業績を歴史的に検証した。
「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業」(BDCプロジェクト)	アニメーション	平成28年度にBDCプロジェクト（「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業」（文化芸術振興費補助金））により公開したウェブサイト「日本アニメーション映画クラシックス」において、更なる活用の促進に向け、著名な作家や評論家による作品解説等、作品理解を深めるための情報追加を行った。
「こども映画館」(地方巡回含む)「映画の教室」	アニメーション	日本アニメーション生誕100年記念として「こども映画館」及び「映画の教室」で日本のアニメーションを対象にプログラムを作成・上映した。また、その一部を巡回上映用のプログラムとし、巡回用プリントの作製・収蔵を行った。
新千歳空港国際アニメーション映画祭2017「中国アニメーション特集」	アニメーション	平成28年度に引き続き、同映画祭実行委員会との共催により、平成29年度は中国アニメーション特集が開催されるにあたり、中国アニメーションの記念碑的な名作『長篇漫画 西遊記 鐵扇公主の巻』(萬籟鳴監督, 1941)を紹介した。
Kawaii & Epikku Manga and Animé Museum; かわいいとエピックマンガ&アニメ大観覧会	アニメーション	第5回ヴィボー・アニメーションフェスティバル(VAF)との共催により、『春の唄』『漫画 瘤取り』『ポン助の春』等の日本アニメーション映画6作品及び、フィルムセンターのオンライン展示「大藤信郎記念館」から選定した大藤関連資料の画像の複製を、映画祭の一部門として行われた展覧会に出品した。
イ 国立国際美術館		
事業（展覧会等）名	ジャンル	取組内容
企画展「ライアン・ガンダー — この翼は飛ぶためのものではない」	映像作品、インスタレーションほか	新しいタイプのコンセプチュアル・アートで国際的評価が高まっているライアン・ガンダーの映像作品3点やベルトコンベアを使った大掛かりなインスタレーション作品などを紹介した。
企画展「開館40周年記念年展「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」」	映像、パフォーマンス、メディア・アート(映像)ほか	開館40周年を記念し、過去40年のコレクションとパフォーマンスやメディア・アートなどの新たな分野の作品を関連づけて紹介することで美術館活動の可能性を探った。
所蔵作品展「コレクション — 風景表現の現在」	映像	これまでにあまり例のない身体に振動を与えるような大音量とシンクロした映像表現を特徴とするログズギャラリーの《DELAY_2008.10.15》(2009年)を、防音対策を施した展示施設を設けることによって常時上映した。
ウ 国立新美術館		
事業（展覧会等）名	ジャンル	取組内容

企画展「国立新美術館開館 10 周年 草間彌生 わが永遠の魂」	映像	日本を代表する現代美術家である草間彌生が 1960 年代に行ったハプニングの記録映像、及び映像作品を上映し、映像作品の草創期の貴重な作例として紹介した。
企画展「サンシャワー: 東南アジアの現代美術展 1980 年代から現在まで」	映像	東南アジアの現代美術における多様な形式と内容を示す映像作品を展示した。
企画展「国立新美術館開館 10 周年 安藤忠雄展—挑戦—」	建築	日本を代表する建築家の足跡を、図面や模型だけでなく実際の建築を実寸大で再現したり大規模な映像を用いたりして、観客が体感できるように紹介した。
企画展「国立新美術館開館 10 周年 新海誠展「ほしのこえ」から「君の名は。」まで」	アニメーション, 映画	日本を代表するアニメーション作家の全貌を多数の映像を用いて紹介した。
イベント「TOKYO ANIMA!2017」 「インターカレッジアニメーションフェスティバル (ICAF) 2017」 「イントゥ・アニメーション」	アニメーション	若い世代による新しい表現を紹介すると同時に、若手が作品を発表する場の創出に貢献した。
イベント「六本木アートナイト 2017」	デザイン, 音楽, 映像, 演劇, 舞踊	様々な施設が集積する六本木の街に、多様な作品を点在させ、非日常的な体験を作り出すアートの祭典。生活の中でアートを楽しむという新しいライフスタイルの提案に寄与した。メインプログラムアーティストの蜷川実花や同時期開催の「サンシャワー展」参加アーティストによる屋外インスタレーションの他、吉本直子のインスタレーション及びワークショップ、アニメーション特集「TOKYO ANIMA!2017」(再掲)、高木正勝の映像作品によるコンサートを開催した。
企画展「未来を担う美術家たち 20th DOMANI・明日展 文化庁新進芸術家海外研修制度の成果」	絵画, 彫刻, インスタレーション, メディア・アート	絵画や彫刻、インスタレーションやメディア・アートなど、多様な素材と表現の作家を選定し、様々なジャンルの新しい芸術の創出に取り組む現代美術家たちを紹介した。また、本展の開催 20 回目を記念し、出品作家やゲストによる対談等を計 13 回実施した。
		計 18 件

② 公募団体等への展覧会会場の提供 (国立新美術館)

公募展団体数：計 74 団体

年間利用室数：延べ 3,500 室/年

稼働率：100% (目標：100%)

入館者数：1,198,009 人

- 1 公募団体等から寄せられた意見や要望も参考としつつ、公募展の効率的な開催準備と円滑な運営を図るため、以下の取組を実施。
 - ・ 作品搬入出時の車両の入退館時間の指定や駐車場の割り振りを団体ごとに実施。
 - ・ 作品用エレベータの使用時間の割り振りや使用備品の事前配置等の徹底。
 - ・ 審査、展示等に必要な備品の充実。
 - ・ 展示作品の素材や陳列方法等について、施設の管理運営上問題の生じる可能性のある公募団体等との事前協議の徹底。
 - ・ 公募展運営サポートセンターにおいて、使用公募団体等に関する電話 (国立新美術館公募展案内ダイヤル) への問合せ対応の実施。
 - ・ 公募展のポスター掲示や公募展開催案内チラシの作成及び配布による広報の実施。
 - ・ 館ホームページの公募展紹介ページに、文字情報に加えポスター等の画像情報を掲載することにより広報を充実。
 - ・ 公募展と企画展の観覧料の相互割引について、実施団体の情報を館内で周知。

- 2 館を使用する公募団体等が実施する教育普及活動に対し、講堂及び研修室の提供や運営管理上必要な助言、参加者の動線の確保等のサポートを実施。また、館ホームページへの情報掲載、館内でのチラシの配布及びポスターの掲示等により、普及・広報の支援を実施。
- 3 平成 31 年度に公募展示室を使用する 74 団体（野外展示場のみ使用団体を含む。）を決定。

(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上

① 情報通信技術 (ICT) を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等

ア ホームページアクセス件数

館名	アクセス件数 (ページビュー)	
	実績	目標
本部	1,371,251	5,952,350
東京国立近代美術館 (本館・工芸館・フィルムセンター含む)	6,985,317	11,613,099
京都国立近代美術館	5,611,240	2,360,880
国立西洋美術館	24,792,525	10,242,595
国立国際美術館	3,063,877	2,547,497
国立新美術館	17,992,724	10,701,915
計	59,816,934	43,418,336

イ 所蔵作品データ等のデジタル化と公開

館名	画像データ						テキストデータ					
	デジタル化件数		累積公開件数	公開率		デジタル化件数		累積公開件数	公開率			
	新規	累計		実績	目標	新規	累計		実績	目標		
東京国立	0	11,041	7,622	57.7%	57.2%	238	12,222	11,460	86.7%	87.4%		
近代美術	18	4,531	3,237	85.1%	33.7%	82	5,137	※1 4,352	114.4%	98.4%		
館	—	—	—	—	—	4,740	174,470	—	—	—		
京都国立近代美術館	531	8,428	7,379	59.1%	18.2%	226	14,627	※1 14,007	112.2%	100.9%		
国立西洋美術館	2,198	19,238	206	3.4%	3.8%	15	※2 6,107	4,848	80.0%	85.7%		
国立国際美術館	471	8,276	4,681	58.9%	49.8%	261	9,133	※1 8,190	103.0%	98.7%		
計	3,218	51,514	23,125	53.2%	35.2%	5,562	221,696	42,857	98.5%	94.0%		

【注 1】「デジタル化件数」は、各館のローカルシステムにおける画像及びテキストデータの登録件数である（フィルムセンターについては、ローカルシステムである NFCD への映画フィルム及び映画関連資料のテキストデータ登録件数を掲載している。）。

【注 2】「累計公開件数」は、「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」(<http://search.artmuseums.go.jp/>)における画像及びテキストデータの公開件数である。

【注 3】上表のほか、フィルムセンターでは「東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵映画フィルム検索システム」(<http://nfcdb.momat.go.jp/>)において日本劇映画のテキストデータ 7,405 件を、国立西洋美術館では「国立西洋美術館所蔵作品データベース」(<http://collection.nmwa.go.jp/artizeweb/>)において作品のテキストデータ 5,705 件及び画像データ 5,552 件を、国立新美術館では「ANZAI フォトアーカイブ」(<http://db.nact.jp/anzai/>)においてアーカイブズ資料のテキストデータ 3,217 件をそれぞれ公開している。

※1 工芸館、京都国立近代美術館、国立国際美術館では、複数で一揃いの作品を個別に掲載しているため、テキストデータの公開率が高くなっている。

※2 国立西洋美術館では、1 作品当たり複数画像データを登録している例があるため、画像データ件数がテキストデータ件数を上回っている。

ウ 各館の特徴

(ア) 法人全体

平成 26 年 6 月に策定した「国立美術館のデータベース作成と公開の指針」に基づき、理事長のもとに国立美術館 5 館の情報担当者により組織される「国立美術館のデータベース作成と公開に関するワーキンググループ」を設置しており、各館の課題の整理と今後の事業について継続的に協議を行っている。平成 28 年度に図書館システムを導入した関西 2 館は、平成 30 年度の公開に向けて図書資料の書誌データの入力を進めた。また、各館収蔵作品の歴史的データを蓄積する方法（入力仕様）の検討及び国立美術館の公開情報資源を一元的に検索・閲覧できるゲートウェイシステム試行版の開発を進めている。

「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」については、新収蔵作品のテキストデータ・画像データを追加するとともに、著作権者に画像掲載の許諾を得る必要のある所蔵作品のうち、許諾を得た平成 18 年度以降の新収蔵作品の作家の作品 1,644 点について画像データを新規登録するとともに、平成 27 年度以降の収蔵作品の作家について、著作権者情報の整備を行い、画像掲載許諾申請手続を開始した。

なお、法人ホームページのページビュー数が目標件数（第 3 期中期目標期間平均実績）を大幅に下回っているが、これはアクセスの内容を精査し、近年急激に増加しているウェブページの自動巡回プログラム等によるアクセスを除外したことによるものであり、これによってホームページのより正確な閲覧状況を把握することができるよう改善された。

(イ) 東京国立近代美術館

フィルムセンターBDC プロジェクトの主導で日本の初期アニメーション作品の動画配信及び、大藤信郎の旧蔵コレクションの画像を紹介するウェブサイト「日本アニメーション映画クラシックス」において、様々な切り口からランキング形式で作品を紹介する機能や著名な作家・研究者が配信作品を解説する機能を新たに設けた。また、NFCD（ナショナル・フィルムセンター・データベース）についても人物情報の統合を進めるとともに、所蔵コレクションの登録・運用を NFCD 上でスムーズに行えるよう適切な改修を加えた。映画関連資料については、デジタル・データへのスキャンや簡易撮影を通じてデータの蓄積を進めた。平成 29 年度は、前年度に続いて BDC プロジェクトとの連携により所蔵する大型の映画ポスターやスチル写真・アルバム等のデジタル化作業を実施した。更に、平成 28 年度にデジタル化を実施した戦前の映画雑誌 347 点に関し、「デジタル資料閲覧システム」を構築し、平成 29 年 5 月に公開した。

(ウ) 京都国立近代美術館

館ホームページの利便性と情報の発信力を高めるため、サイト構成、デザイン等を見直し、平成 30 年度の公開に向けて準備を行った。そのほか、「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」のホームページを開設し、同事業に係るイベントの案内や活動報告を行った。同ホームページは、視覚に障害のある方へ配慮し、文字サイズの拡大や白黒反転を可能とするなどユニバーサルなサービスを提供している。

(エ) 国立西洋美術館

インターネット上で公開している「国立西洋美術館出版物リポジトリ」において『国立西洋美術館研究紀要』21 号（2017 年 3 月）に掲載されている論文の PDF 版を公開し、学術情報のオープンアクセス化に努めた。

平成 28 年度に試験公開したグーグル社のスマートフォン・アプリ及びウェブサイト「Google Arts & Culture」において、研究員によるギャラリートークの動画「Curators' Talks on the Collection of NMWA, Part I」（本館に展示される作品より 9 点）及び「Curators'

Talks on the Collection of NMWA, Part II」(新館に展示される作品より9点)の日本語、英語、中国語、韓国語の各国語版を公開した。

外部利用者向けの無線LAN環境の整備を進めて、展示室内でのサービス提供を開始した。

(オ) 国立国際美術館

企画展「開館40周年記念展「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」」において、特設サイトを開設した。本展は、パフォーマンスやメディア・アートを扱っており、展覧会内容に関する情報をよりわかりやすく詳細に提供するため多くの静止画や動画コンテンツを使い情報発信した。また、各種のSNSとの併用により展覧会情報やイベント情報などについて、即時性を持ちながら広く告知を行った。

(カ) 国立新美術館

日本国内の美術館、画廊、美術団体から継続的に展覧会情報を収集し、検索できる「アートコモンズ」では、平成29年度は約3,400件の展覧会情報を約1,000か所から収集し、累計で約380,000件の展覧会情報を収集・提供している。

また、スマートフォンやタブレット端末にも対応したホームページの運用を引き続き行い、国立新美術館の活動をわかりやすく伝える工夫に努めている。運用に当たっては、インターネットからのサイバー攻撃を避けるため、攻撃の糸口となる脆弱性を極力なくすようなシステム構成としている。

来館者に向けたサービス向上のために、無料無線インターネット接続サービス(無料Wi-Fi)を導入し、1階ロビー及び3階の講堂、研修室、アトライブラリーの各所にアクセスポイントを設置し、事前登録不要で自由に利用できるようになっている。また、展覧会の開催にあわせて、展覧会会場においてQRコードを利用した多言語ガイド(日本語・英語・中国語・韓国語)の提供を行っている。来場者は自身のスマートフォン等の機器でQRコードを読み込み、展覧会の各種パネルの記述を各国語で閲覧できる。

インターネット上の利用者に向けては、SNS(Facebook, Twitter, Instagram)を用いた情報(話題)提供を継続して実施している。

② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実

ア 図書資料等の収集

館名		収集件数	累計件数	図書室利用者数	
				実績	目標
東京国立近代美術館	本館	3,371	140,978	2,065	2,263
	工芸館	694	27,652	219	306
	フィルムセンター	1,472	47,919	3,393	3,681
京都国立近代美術館		1,597	29,766	—	—
国立西洋美術館		1,172	51,694	379	383
国立国際美術館		1,400	50,407	—	—
国立新美術館		3,930	150,835	28,659	24,392
計		13,636	499,251	34,715	31,025

【注】東京国立近代美術館は本館4階、京都国立近代美術館は4階、国立西洋美術館は1階、国立国際美術館は地下1階に図録等を閲覧できる情報コーナーを設けているが、入館者が自由に閲覧できるようにしているため、当該コーナーについては利用者数を把握していない。

イ 特記事項

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

例年同様、平成 29 年度は展覧会図録、書籍、雑誌など近現代美術に関連する未所蔵資料の収集に努めており、「赤瀬川源平：千円札裁判関連資料」の購入や山田正亮旧蔵書の受入、夢土画廊資料のアーカイブ構築に向けた整理等を行った。

(工芸館)

企画展開催時に重点的に関連資料を収集することにしており、平成 29 年度は翌年度開催予定の企画展「インゲヤード・ローマン」に向け、最新のデザイン研究に関する情報収集を行った。また、増加傾向にある外国人来館者サービスの基礎研究のための資料等を収集した。工芸館ではボランティアによる英語ガイドの実績も長く、インバウンド需要に際して十分な活用が期待できるものである。

(フィルムセンター)

フィルムセンター図書室では、映画文献に関する網羅性の確保を目指し、新刊等の収集のほか未所蔵の古書や映画文献等の収集に努めている。平成 29 年度は、初期映画に関する記述も多い「近代歌舞伎年表 京都篇」全 11 冊を含め、書籍・雑誌など未収蔵の文献を購入した。

(イ) 京都国立近代美術館

平成 30 年度企画展「バウハウスへの応答」に向け、川喜田煉七郎『構作技術大系』『構成教育大系』など新建築工芸学院関連の書籍を購入した。

また、教育普及事業として進めている視覚障害者との鑑賞プログラム開発のため、点字資料及びユニバーサルミュージアム関連資料 50 点の収集を行い研究利用した。特に、点字資料については、点字や触図を盛り込んだパンフレットや「さわるコレクション」（立体コピーなどを用いた京都国立近代美術館所蔵作品の紹介シート）の作成において参考資料として役立てることができた。

図書資料の収集に努めるとともに、平成 30 年度に予定している展覧会図録の書誌情報の一部公開に向けて、データベースへの入力を進めた。

(ウ) 国立西洋美術館

平成 30 年度に刊行予定の書籍『松方コレクション西洋美術全作品』及び平成 31 年度開催予定の「松方コレクション」展に向けて、1923 年にプラハで開催された「19・20 世紀フランス美術展」の貴重な展覧会図録等の関連資料を収集するとともに、国内外のアーカイブに保管される関連記録の調査を行い、資料整理を行った。

昭和初期の松方コレクション売立目録の書誌データ及びデジタル化資料を米国の書誌情報サービス提供機関「OCLC (Online Computer Library Center)」の書誌データベース「Worldcat」に搭載したことにより、世界からのアクセスが可能となった。

東京文化財研究所との協定「美術工芸品を中心とする文化財情報の国内外への発信にかかる基盤形成事業」に基づき、国立西洋美術館が持つ情報発信の手法と経験を活用し、東京文化財研究所に蓄積されてきた美術文献情報を上記「OCLC」に提供した。これにより、展覧会図録掲載記事・論文等の書誌データ約 5 万件の情報が世界から検索可能となり、日本の美術文献目録データの国際発信力の強化に大きく貢献したといえる。

(エ) 国立国際美術館

国内外の現代美術に関連する図書資料等を中心に収集を継続した。特に、平成 29 年度に開催した企画展「開館 40 周年記念展「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」」に向け、出品作品や作家の関連資料を重点的に収集した。会場内には資料スペースを設け、これら収集資料の展示も実施した。

また、地下 1 階には美術情報誌やカタログなどを入館者が自由に閲覧できる情報コーナーを設けているが、平成 29 年度は、当情報コーナーにおいて開館 40 周年事業として「アート／メ

ディアー四次元の読書」コーナーを特設した。本特設コーナーではマルセル・デュシャンの作品構想メモの複製を手にとって読むことができるなど実際に体験できる仕掛けを用意したところ、来館者から好評を博した。

(オ) 国立新美術館

引き続き日本の展覧会図録を中心に網羅的・遡及的収集に努め、国内約 400、国外約 100 の美術館・博物館と展覧会図録の相互寄贈関係を維持している。また、日本で開催された展覧会のカタログを海外拠点 4 か所に送付する「JAC (Japan Art Catalog) プロジェクト」を引き続き実施した。このほか、平成 29 年度までに寄贈された複数の個人からの大口寄贈資料についての整理作業を進め、更に所蔵資料のうち脆弱なものの一部についてデジタル化を行った。

なお、来館者にアトライブラリーの利用を促すための掲示を、展示室や講演会開催時の講堂ロビーに設置する等の取組を継続して行っている。

③ インフォメーションデータセンター (IDC) の確立

平成 20 年度に、国立美術館 5 館全体において VPN (Virtual Private Network : 暗号化された通信網) を導入して以降、情報ネットワークの安定化・高速化を実現している。また、平成 28 年度中に外部データセンターが提供するサーバ機能の利用、多重化光回線による VPN の二重化などネットワーク構成を刷新したことから、平成 29 年度はネットワークの安定稼働が可能となった。あわせて、ネットワーク障害の回避策についてプロバイダーとの調整を行い、より安定的な運用の維持に努めた。

(4) 教育普及活動の充実

① 幅広い学習機会の提供 (講演会, ギャラリートーク, アーティスト・トーク等)

館名		実施回数	参加者数	
			実績	目標
東京国立近代美術館	本館	463	14,504	9,520
	工芸館	218	3,979	2,671
	フィルムセンター	245	22,162	13,801
京都国立近代美術館		84	5,009	3,431
国立西洋美術館		394	13,637	17,073
国立国際美術館		78	4,037	3,296
国立新美術館		214	38,697	15,823
計		1,696	102,025	65,615

各館の特徴

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

館で実施するイベントに教育普及活動が深く関わることで、内容の充実・参加者数の増加ともに成果をあげている。桜花期に開催した「美術館の春まつり」では、所蔵品ギャラリー内に立つ 26 名のガイドスタッフが行う作品解説に参加してスタンプを集める「春まつりトークラリー」を実施し、1,350 人の参加者を得た。また、開館延長を行う夏季に実施した「サマーフェス」期間中には、夜間開館時に「フライデー・ナイトトーク」を 14 回行い、仕事帰りのビジネスパーソンなど普段美術館を利用しにくい層を開拓した。また、所蔵作品ギャラリー内で、ギャラリートークと作品の前でヨガを行う「美術館でヨガ」を 2 回実施し、多くの参加者があった。これらの事業は、美術館を頻繁に利用する層とは異なる人々へのアプローチとして、ま

た美術館の新たな楽しみ方の提案が来館者のニーズに合致したものであり、今後の展開が期待される取組となった。

企画展「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」との連携事業として、展覧会出品建築家の協力を得て「夏の小屋を作ろう 子どもワークショップ」を実施した。大人も子供も参加でき、ワークショップで製作された小屋は会期終了まで休憩場所として前庭で使用され、展覧会全体のイメージアップにつながった。また、初めてドロップイン（立ち寄り）型ワークショップコーナー「プチプチガーデン」を実施したところ、企画展の会期を通じて家族連れの姿が途絶えず、館全体に賑わいが創出され、時に敷居が高いといわれる美術館の印象を変えることにもつながった。

（工芸館）

工芸館開館 40 周年に当り、関連イベントを連続して実施した。作家や関係者の協力によるアーティスト・トークやワークショップなどの専門的なイベントと、工芸の知識を持たない家族・若者などに向けてに工芸に親しむきっかけを提供するイベントの 2 種で構成した。「名工の明治」展では、鷹匠によるギャラリートーク及び写真撮影会を実施し、修復が完了したばかりの鈴木長吉《十二の鷹》の魅力を伝えるとともに、鷹の生態をよく知る鷹匠のトークを聞き実際に鷹を間近に観察することで、作品への関心を高め、より理解を深めることができるよう工夫した。

また、これまで小・中学校の教職員を対象として開催してきた「工芸作品鑑賞研究会」に、新たに工芸館ガイドスタッフを対象として加え、研究員によるレクチャー、ワークショップ、情報交換会を行った。各視点から捉えた児童生徒の学びについてのイメージを共有することで、教職員の理解増進につながり、今後の工芸館における鑑賞教育の推進に寄与するものとなった。

そのほか、「家族でタッチ&トーク」に参加する児童を対象に、プログラムに使用する「ジロジロめがね」を作成するワークショップを実施した。児童自身が観賞用アイテムを作成することで、引き続いて参加した鑑賞体験においてより能動的な発言を引き出すことが出来た。

（フィルムセンター）

大ホール・小ホール合わせて計 111 回のトーク・イベント（講演会、舞台挨拶を含む）を行った。教育普及を目的とする上映イベントでは、「ユネスコ『世界視聴覚遺産の日』記念特別イベント」や小中学生を対象とする「こども映画館」と等の恒例行事に加え、ヴィシエグラード4カ国（V4；ポーランド、ハンガリー、スロバキア、チェコ）のアニメーション作品を日本に紹介する中学生以下を対象としたイベントである「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」を開催し、展覧会関連企画では展覧会「人形アニメーション作家 持永只仁」を開催し、動物などの人形の画像を広報に積極的に活用し家族や子供連れの客層を獲得した。

特に、研究員の解説付きで一つのテーマに即した作品を鑑賞する「映画の教室」、映画・映像のアーカイブ活動にかかわる専門家向けの「アーカイブセミナー」、映写技師の学び直しの場としての「NFC 35 ミリフィルム映写ワークショップ」の実施や、「映画の復元と保存に関するワークショップ」の中で、同実行委員会との共催で「ノンフィルム資料の保存と修復」をテーマに映画の紙資料の取扱に関するワークショップを開催するなど、鑑賞者とフィルムアーカイブに携わる人材育成といった多様な教育普及プログラムを開発・実施した

国立美術館キャンパスメンバーズの加盟校がフィルムセンターの所蔵映画フィルムと施設を利用して講義等を行う東京国立近代美術館フィルムセンター・大学等連携事業、及び大学等の学生がフィルムセンターで映画の上映会又は展覧会を観覧したことを証明する「鑑賞証明カード」の配付は 6 年目を迎え、大学等連携事業では計 8 回（8 校）の講義を実施した。

相模原分館では、相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）と締結した文化事業等協力協定により、相模原市内の小・中学生並びに相模原市及び JAXA との共催事業の

参加者を対象に、無料で映画鑑賞と保存施設の案内を実施した。映画フィルムの受入・検査・収納までの工程を解説し、映画フィルムの保存についても普及することができた。

このほか、京都国立近代美術館及び国立国際美術館において共催事業を実施した。京都国立近代美術館においては、映画上映「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films 2017」を4回にわたり実施、うち1回をフィルムセンター研究員の解説付き上映「こども映画館」としたところ好評を博したことから、今後京都国立近代美術館の児童生徒向けに継続して行う企画として新たに立ち上げることとした。国立国際美術館においては「第15回 中之島映像劇場 松本俊夫の軌跡：記録・幻想・実験」を開催し好評を得た。これらの共催事業は、関西におけるフィルムセンター所蔵フィルムの定期的な上映拠点の形成に寄与している。

(イ) 京都国立近代美術館

来館者に向けたイベントの実施と、美術館に馴染みのない層に対する普及活動のバランスを意識しながら、展覧会関連プログラムとして講演会、ギャラリートーク、ワークショップ等を実施した。企画展「技を極めるーヴァン クリーフ&アーペル ハイジュエリーと日本の工芸」では親子向けギャラリートーク、企画展「絹谷幸二 色彩とイメージの旅」では親子ワークショップ、企画展「ゴッホ展 巡りゆく日本の夢」では家族向けの特別鑑賞会「ファミリー・アワー：美術館でゴッホモーニング」を実施した。特に、ゴッホ展では、開館前の時間帯を活用したことで、混雑する展覧会への来館が難しい小学生以下の子供とその保護者に鑑賞の場を提供することができた。

また、視覚障害のある方と協働しながら、新しい美術館体験や作品鑑賞のありかたを探る「感覚をひらくー新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」（平成29年度文化芸術振興費補助金「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」）の一環でフォーラムとワークショップを開催し、広く一般の利用者とともに、美術鑑賞の新しい可能性について考える機会を作った。

そのほか、年間通じて幼稚園から大学まで様々な校種から美術館を活用した学びについて要請があり、学習支援の立場から教員との連携をはかりながら児童、生徒、学生を対象とした美術館活動を紹介するプログラムを実施した。

更に、京都市図画工作教育研究会と連携し、市内の小学4～6年生を対象とした「第19回 子ども美術館鑑賞教室」を実施した。美術館の建築や展示空間にも注目できるようなプログラムを実施し、子供たちに美術館の楽しさや作品鑑賞の様々な方法を楽しんでもらうことができた。

(ウ) 国立西洋美術館

各企画展に関連して講演会を開催し、ほぼすべての回で満席となる盛況ぶりであった。「アルチンボルド展」では、大人だけでなく小中学生も多く来館した。世界遺産登録により増加する来館者への対応として、平成28年度に回数を増やした建築ツアーも盛況を博した。「ファン・ウイズ・コレクション」では平成28年度に引き続き本館建築をとりあげ、本館の習作図面からル・コルビュジエの構想過程をたどる小企画展を開催し、大人を対象に図面を読み解く面白さを体験するプログラムを合わせて提供した。児童生徒を対象とする「スクール・ギャラリートーク」や「どようびじゅつ」、一般の来館者が自由に参加できる「美術館でクリスマス」「ボランティアアート」は、例年同様多くの参加があった。

学校や社会教育施設と連携した教育普及事業として、足立区図工教員、藤沢市中学校美術教員、江戸川区図工教員と連携して鑑賞教育についての理解を深め、児童生徒の学びにつながることをねらいとする教員研修を実施した。教員自らが美術館での鑑賞体験を共有したうえでディスカッションし、鑑賞教育の意味を確認した。また、上野公園内にある東京都美術館・国立科学博物館と連携し、各館のプログラムを支援した。単館での活動と異なり、複数の施設を活用することで学びのスケールを拡大することができた。そのほか、台東区教育委員会が主催する「学びのキャンパスプランニング」（平成25年度より連携）と連携し、区内の学校へ国立

西洋美術館のスクールプログラムの情報を周知した。台東区との連携により国立西洋美術館のプログラムを活用する学校は増加傾向にある。

(エ) 国立国際美術館

来館者向けに、企画展に関連した作家自身による講演やアーティスト・トーク、ワークショップ等を積極的に実施したほか、「びじゅつあーすぺしゃる」において、全年齢を対象として、初めての方にも美術館を能動的に体験していただけるツールを開発し、未就学児や高齢の参加者にも好評を博した。また、40周年を記念して地下1階の情報コーナーで現代美術作品の資料に関する催し「アート／メディアー四次元の読書」を実施し、それら資料に関する専門の研究者によるレクチャーを実施した。

教育関係者向けには、教職員研修として「鑑賞学習を通じた学びを考える会」を開催したほか、大阪府・大阪市・箕面市との連携により美術教育関係者向けの夏季研修を実施した。

また、児童生徒向けには、豊中市庄内公民館、岸和田市土曜図工教室等、従来の学校団体以外の児童生徒関連の団体からのスクールプログラムの利用希望に応じ、より幅の広い児童生徒層に鑑賞の機会を提供することができた。

平成29年度より、新たな鑑賞補助ツール『アクティビティ・ブック』の配布を開始した。従来の『ジュニア・セルフガイド』は特定の作品に絞って鑑賞する仕組みであったが、『アクティビティ・ブック』では、作品を絞らず、見る視点を数多く提示する方法を採用しており、児童生徒がより主体的に作品を鑑賞することができるようになる。

(オ) 国立新美術館

新たに、教員と美術館スタッフが作品鑑賞を通じて視点や意見を交換する「先生のための鑑賞プログラム」や、地域の学校に対して休館日の展示室を開放して児童生徒と教員に鑑賞活動の場を提供する「かようびじゅつかん」など学校・教員を対象とする事業に取り組んだ。

企画展や「六本木アートナイト」などのイベントに合わせて、アーティスト・ワークショップやインターンの企画発案によるワークショップ、東南アジアからの留学生と日本出身の学生を対象としたワークショップなど多様な取組を実施した。また、企画展「国立新美術館開館10周年安藤忠雄展—挑戦—」ではギャラリートークを31回開催し、建築の専門知識がない一般来館者が建築に対する理解を深める機会を提供した。

毎年夏に小学生を対象として開催している「夏休みこどもたんけんツアー」においては、参加した子供たちが自ら探求できるよう見学場所や解説内容を見直してプログラムの改変を行ったところ、子供たちの発言やガイド役スタッフとの交流が活発になり、若年層に美術館の活動や機能を普及する上でより効果的なプログラムとなった。

映画フィルム・資料を活用した教育普及事業として、企画展「サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980年代から現在まで」において、関連事業の「FUN! FUN! ASIAN CINEMA @サンシャワー」や「ワーキングタイトル —日本と東南アジアの実力派映画プログラマーによるセレクション—」といった上映プログラムが行われ、東南アジアの現代映画を紹介した。また、企画展「国立新美術館開館10周年 新海誠展「ほしのこえ」から「君の名は。」まで」では、特別上映会を11回実施し、新進気鋭のアニメーション監督新海誠の商業デビュー作を含む作品5点を紹介した。

② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業

ア ボランティアによる教育普及事業

館名		ボランティア登録者数	ボランティア参加者数(延べ人数)	教育普及事業参加者数
東京国立近代美術館	本館	41	688	10,448
	工芸館	33	370	2,375

京都国立近代美術館	40	—	—
国立西洋美術館	76	987	8,536
国立国際美術館	16	7	524
国立新美術館	60	128	3,720
計	266	2,180	25,603

各館の特徴

(ア) 東京国立近代美術館

本館では、養成研修を修了したガイドスタッフに対するフォローアップを行っており、平成29年度は、外部講師を招き「版画の技法と鑑賞」について学ぶフォローアップ研修を実施し、ガイドスタッフが所蔵作品への理解を深める機会を提供した。また、このガイドスタッフによる対話型ギャラリートークが、他館にない取組として新聞・雑誌・TV・ウェブ等のメディアで紹介されたことから、来館者層の拡大につながった。

工芸館では、ガイドスタッフの8期メンバーを募集し、養成研修を重ね、平成30年度から4名を登録することとなった。外国語に堪能なメンバーを含んでおり、これまで10年以上実施してきた英語タッチ&トークの活性化も期待できる。

(イ) 京都国立近代美術館

京都市内博物館施設連絡協議会及び京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」の受講・修了者が所属する京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」から継続してボランティアを受け入れており、来館者へのアンケート調査回収、集計に携わってもらうことでボランティアとしての経験の蓄積、知識の向上等に協力した。

(ウ) 国立西洋美術館

ボランティアの担当業務ごとに補足の研修を実施し、ボランティアの知識向上により、円滑な教育普及プログラムの提供に努めている。

ボランティアスタッフがプログラムの企画・実施を全て行う「ボランティアート」は、予約不要で気軽に立ち寄れることなどから子供から大人まで年齢を問わず多くの来館者が参加した。

(エ) 国立国際美術館

ボランティアを大学生・短期大学生から広く募り、主に教育普及プログラムのサポート（スクールプログラムの準備、個人向けプログラムの運営補助、資料発送等）など美術館運営の補助業務に従事することを通じて美術館活動に接する機会を提供した。

(オ) 国立新美術館

学生ボランティアである「サポート・スタッフ」として、60名の大学生・大学院生が登録しており、講演会やワークショップ、建築ツアー、コンサートの運営補助などの活動に参加した。秋に10回開催された建築ツアーでは、事前に研修を受けたサポート・スタッフが、ツアーガイドとして建築の解説をしながら参加者を引率した。学生たちがツアーガイド研修等を通じて美術館について学ぶと同時に、より能動的に美術館の主催プログラムにかかわる機会となった。

イ 支援団体等の育成と相互協力による事業

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

- ・三菱商事株式会社との連携により、障害者のための鑑賞プログラムとして、休館日に企画展「没後 40 年 熊谷守一 生きるよろこび」の障害者特別鑑賞会を実施した（1 件 1 回、参加人数 70 人）。

(イ) 京都国立近代美術館

- ・night cruising との共催により、ドイツ映画ポスター展関連イベントとしてライブイベント「Andi Otto "VIA" Japan Tour 2017 night cruising @ MoMAK」を開催した（1 件 1 回、参加人数 47 名）。
- ・京都市立芸術大学との共催によるコンサート「京都国立近代美術館ホワイエコンサート」を開催した（1 件 2 回、参加人数 241 名）。
- ・OKAZAKI LOOPS 実行委員会と連携し、京都岡崎音楽祭 2017「OKAZAKI LOOPS」を開催した。京都国立近代美術館では作家・平野啓一郎氏とギタリスト・福田進一氏による、小説『マチネの終わりに』の朗読と生演奏のステージを開催した（1 件 1 回、参加人数 215 名）。
- ・東京音楽大学と連携し、絹谷幸二展関連イベントとして「東京音楽大学コンサート」を開催した（1 件 1 回、200 名）。
- ・京都市及びビアンスティチュ・フランセが実施する「ニューイ・ブランシュ KYOTO 2017」の共催として、ビデオインスタレーションとパフォーマンスのイベントを開催した（1 件 1 回、参加人数 191 名）。
- ・ミュージアム・アクセスビューと連携し、視覚障害のある方と対話をしながらアートを体感する鑑賞ツアーを開催した（1 件 2 回、44 名）。
- ・京都市内 4 館連携協力協議会「京都ミュージアムズ・フォー」の連携事業として、講演会「岡本神草の時代展について」を開催した（1 件 1 回、52 人）。

(ウ) 国立西洋美術館

- ・東京文化会館との共催により、「まちなかコンサート 芸術の秋、音楽さんぽ」及び「ナイト・ミニコンサート」を実施した（2 件 4 回、参加人数合計 396 人）。
- ・東京都交響楽団メンバー（弦楽四重奏）によるナイト・ミニコンサートを実施した（2 件 4 回、参加人数合計 514 人）。
- ・上野「文化の杜」新構想実行委員会による「夜の音めぐり 東京・初春・音楽祭」を開催した（1 件 2 回、参加人数合計 183 人）。
- ・映画配給会社との共催により『ル・コルビュジエとアイリーン 追憶のヴィラ』特別試写会&トークショーを実施した（1 件 1 回、参加人数合計 135 人）。
- ・松坂屋上野店等が主催する「PIECE OF PEACE 『レゴ (R)ブロック』で作った世界遺産展 PART-3」にて国立西洋美術館本館モデルが新規作成・展示されるのに先立ち、国立西洋美術館でも展示を行った。
- ・映画配給会社との共催により「謎の天才画家 ヒエロニムス・ボス」を上映した（1 件 2 回、参加人数合計 258 人）。
- ・三菱商事との連携により、障害者のための鑑賞プログラムとして、休館日に企画展「北斎とジャポニスム—HOKUSAI が西洋に与えた衝撃」の障害者特別鑑賞会を実施した（1 件 1 回、参加人数合計 264 人）。
- ・東京都美術館等が主催する「Museum Start あいうえの」に協力して、子供と保護者を対象とした建築ツアー（うえの！ふしぎ発見、1 件 1 回、参加人数合計 44 人）や、家庭等の状況により美術館を利用しにくい子供や保護者を対象とした鑑賞会（ミュージアム・トリップ、1 件 1 回、参加人数合計 20 人）を行った。
- ・ロダン没後 100 年特別上映「ディヴィノ・インフェルノ —そしてロダンは《地獄の門》を創った」を実施した（1 件 2 回、参加人数合計 235 人）。また、夜間に、本館壁面に当映像作品のダイジェストを投影した。

(エ) 国立国際美術館

- ・ダイキン工業現代美術振興財団との共催により、「ミュージアム・コンサート」を開催した（1件1回，参加人数 214 人）。

(オ) 国立新美術館

- ・三菱商事株式会社との連携により，障害者のための鑑賞プログラムとして，閉館後に企画展「国立新美術館開館 10 周年 チェコ文化年事業 ミュシャ展」の障害者特別鑑賞会を実施した（1件1回，参加人数 210 人）。
- ・企業協賛金を活用して，以下の教育普及事業を実施した。
 - JAC (Japan Art Catalog) プロジェクトにより，海外の日本美術研究拠点（4 箇所）に国内で開催された展覧会図録を寄贈した（鹿島建物総合管理，三井不動産，東レ，三菱電機，住友化学）。
 - ワークショップ，講演会及びシンポジウムを開催，鑑賞ガイドを作成した（キヤノン）。
 - 館主催のコンサート等を実施した（3 回，802 名）（ダイナトレック）。
 - オータム・ジャズコンサート 2017「エリック・アレキサンダー演奏会」
～テナー・サクソでスタンダードジャズを～
国立新美術館 音楽の楽しみ「弦楽四重奏の魅力」
 - ウィンター・ジャズコンサート 2018
 - 託児サービスを提供した（36 回）（三菱商事）。
- ・株式会社日本設計，Moleskine の協力により，建築ツアー（1 件 10 回），こどもたんけんツアーを実施した。（1 件 2 回）

(カ) その他（各館共通）

東京の美術館・博物館等 80 施設が参加する共通入館券事業「東京・ミュージアムぐるっとパス 2017」及び関西の美術館・博物館等 93 施設が参加する「ミュージアムぐるっとパス・関西 2017」に参加し，所蔵作品展観覧料の無料化又は割引や，企画展観覧料の割引などを実施し，全体の利用者は延べ 22,642 人であった。

(5) 調査研究の実施と成果の反映・発信

① 調査研究一覧

各館において，下記のとおり調査研究を実施した。個々の調査研究については別表 6 を参照。

館 名		調査研究件数
東京国立近代美術館	本館	21
	工芸館	12
	フィルムセンター	26
京都国立近代美術館		14
国立西洋美術館		19
国立国際美術館		16
国立新美術館		18
計		126

特記事項

ア 東京国立近代美術館

- ・水谷長志（主任研究員）が，平成 26-28 年度に担当した「海外日本美術専門家（司書）の招へい・研修・交流事業（JAL プロジェクト）」の企画と運営が評価され第 11 回野上綾子記念アート・ドキュメンテーション推進賞（アート・ドキュメンテーション学会）に選ばれた。

- ・岡田秀則（主任研究員）の著書『映画という《物体X》』が、「第13回 2016年度映画本大賞」（毎年、前年度に出版された映画に関する書籍の中からベスト・テンを選出。キネマ旬報）において第1位を獲得した。

イ 国立新美術館

- ・本橋弥生（主任研究員）が、平成29年度に担当した企画展「国立新美術館開館10周年 チェコ文化年事業 ミュシャ展」の企画と構成が評価され、第12回西洋美術振興財団賞・学術賞に選ばれた。

② 調査研究成果の発信

ア 館の刊行物による調査研究成果の発信

各館において、下記のとおり展覧会図録，研究紀要，館ニュース等を刊行し，研究成果を発信した。それぞれの項目における研究員の執筆事項については別表7～9を参照。

館名	展覧会図録		研究紀要	館ニュース	パンフレット・ガイド等	その他
	実績	目標				
東京国立近代美術館	本館	2冊	1	6	2	2
	工芸館	1冊				
	フィルムセンター	0冊				
京都国立近代美術館	7冊	6冊程度	0	6	4	1
国立西洋美術館	6冊	4冊程度	1	4	4	5
国立国際美術館	5冊	4冊程度	0	6	4	2
国立新美術館	4冊	6冊程度	1	—	2	2
計	25冊	30冊程度	3	26	26	12

【注】「パンフレット・ガイド等」には、小企画展の内容や所蔵作品の解説を掲載したパンフレット，子供向けの鑑賞ガイド等が含まれる。

イ 館外の学術雑誌，学会等における調査研究成果の発信

各館において，下記のとおり学会，学術雑誌等において研究成果を発信した。それぞれの項目における研究員の執筆事項については別表10を参照。

館名	学会等発表件数	論文等発表件数				
		学術書籍，研究報告書等の発行	学術誌論文掲載【査読有り】	学術誌論文掲載【査読無し】	その他	
東京国立近代美術館	本館	19	6	4	17	20
	工芸館	9	0	0	16	4
	フィルムセンター	13	3	0	5	11
京都国立近代美術館	10	4	2	3	18	
国立西洋美術館	16	22	1	6	19	
国立国際美術館	5	2	0	4	9	
国立新美術館	9	1	3	5	38	
計	81	38	10	56	119	

ウ インターネットによる調査研究成果の発信

(ア) 東京国立近代美術館

- ・『研究紀要』の収録論文をホームページ上で掲載した。
- ・フィルムセンターでは、「NFC デジタル展示室」において、「無声期日本映画のスチル写真」シリーズの第15回「天活・国活・大活篇」，第16回「帝国キネマ篇」を公開した。また，

平成 28 年度に BDC プロジェクトにより公開したウェブサイト「日本アニメーション 映画クラシックス」において、更なる活用の促進に向け、著名な作家や評論家による作品解説等、作品理解を深めるための情報追加を行い、日本の古いアニメーション映画を広く国内外に周知した。

(イ) 国立西洋美術館

- ・『研究紀要』の収録論文をインターネット上の機関リポジトリ（『国立西洋美術館出版物リポジトリ』）を通じて広く公開した。

(ウ) 国立新美術館

- ・ホームページにおいて『平成 28 年度活動報告』、『NACT Review 国立新美術館研究紀要』第 4 号を公開した。

エ 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

館 名		開催回数
東京国立近代美術館	本館	0
	工芸館	1
	フィルムセンター	3
京都国立近代美術館		6
国立西洋美術館		1
国立国際美術館		0
計		11

※詳細については別表 11 を参照。

(6) 快適な観覧環境の提供

館 名		観覧環境に対する満足度調査における「良い」以上の回答率
東京国立近代美術館	本館	80.4%
	工芸館	81.3%
	フィルムセンター	99.2%
京都国立近代美術館		68.5%
国立西洋美術館		76.0%
国立国際美術館		71.2%
国立新美術館		74.2%

① 高齢者、障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境の形成

※多言語化に向けた取組件数：60 件（施設ごとにカウント。以下、多言語化に向けた取組には下線を付する。）

〈平成 29 年度の新規実施事項〉

- ・ 国立美術館紹介リーフレットの多言語化拡充（日本語版・英語版に加え新たに中国語版・韓国語版を制作）【法人本部】
- ・ 常設の電子アンケート（日本語・英語）を導入【東京国立近代美術館（本館・工芸館）】

- ・所蔵作品展におけるiPadによる中国語・韓国語の作品解説（音声・文字）サービスの提供【東京国立近代美術館（本館）】
- ・自主企画展における、無料音声ガイドアプリの提供【東京国立近代美術館（本館）】
- ・所蔵作品上映におけるバリアフリー上映を2作品計3回開催。うち1回は、聴覚障害者向け字幕投影、磁気ループシステム及び視覚障害者向け音声ガイド付き上映、2回は磁気ループシステムを使用。【東京国立近代美術館（フィルムセンター）】
- ・企画上映における整理券制度の導入【東京国立近代美術館（フィルムセンター）】
- ・大ホールの企画上映における前売券の試行的導入【東京国立近代美術館（フィルムセンター）】
- ・クレジットカードによる観覧券の窓口販売【京都国立近代美術館】

〈各館共通の継続実施事項〉

- ・多言語による館案内表示
- ・多言語による館内リーフレット、ミュージアムカレンダー等の配布
- ・英語による館内放送の実施（一部を除く）
- ・所蔵作品展・企画展における展示解説（章解説パネル・キャプション・作品リスト等）の多言語化（原則として日本語のほか英語・中国語・韓国語）
- ・所蔵作品展・企画展における音声ガイドの多言語化（原則として日本語のほか英語・中国語・韓国語）
- ・多目的（身体障害者用）トイレ、エレベータ（エスカレータ）、スロープ（手摺り）の設置
- ・車椅子の貸出、ベビーカー（国立西洋美術館は除く）の貸出
- ・身体障害者用駐車スペース（国立国際美術館は除く）の提供
- ・自動体外式除細動器（AED）の設置
- ・盲導犬、介助犬の同伴による観覧
- ・観覧者の休憩のための椅子を展示室に配置
- ・オストメイト（人工肛門、人工膀胱保有者）対応の設備を設置
- ・無料Wi-Fiの提供

〈各館ごとの継続実施事項〉

- ・電話による展覧会情報案内（ハローダイヤル）の多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語）【東京国立近代美術館，国立西洋美術館，国立新美術館】
- ・クレジットカード及び電子マネー（Suica及びPASMO等）による観覧券の窓口販売【東京国立近代美術館（本館・工芸館），国立西洋美術館，国立新美術館】
- ・多言語対応の案内用デジタルサイネージの設置【東京国立近代美術館（本館），京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立新美術館】
- ・東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し，外国人来館者の所蔵作品展観覧料を割引【東京国立近代美術館，国立西洋美術館】
- ・地下鉄の対象の乗車券の提示により割引等を実施するサービス「ちかとく」の英語版に参加【東京国立近代美術館（本館・工芸館），国立西洋美術館】
- ・インフォメーションカウンターに筆談ボードを設置【京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立新美術館】
- ・授乳室の設置【京都国立近代美術館，国立国際美術館，国立新美術館】
- ・館内サインの拡大，所蔵作品展における「重要文化財」のキャプション表示の追加，ホームページ上の重要文化財作品の特設解説ページ設置，所蔵作品展・企画展における小中学生向けこどもセルフガイドの配布【東京国立近代美術館（本館）】
- ・作品名・作家名にふりがなを入れた会場キャプションの設置及び作品リストの配布，夏季所蔵作品展における児童生徒を対象とした「セルフガイド」（日本語・英語）及び一般観覧者向けの「鑑賞カード」の作成・配布【東京国立近代美術館（工芸館）】

- ・特別展示「NFC コレクションでみる 日本映画の歴史」における児童生徒向けの「ジュニア・セルフガイド」の配布，視覚障害者向け音声ガイド付き上映会の実施【東京国立近代美術館（フィルムセンター）】
- ・美術館ニュース『見る』の配布，共催展における児童生徒向けガイドの配布，免震装置付有機EL 照明による展示ケースの設置，「ミュージアム 3DAYS フリーパス・関西」の英語版に参加【京都国立近代美術館】
- ・企画展における児童生徒向けの「ジュニア・パスポート」を配布，館広報物（館ニュース『Zephyros』の最新号及びバックナンバー）の配布及びホームページ掲載，「建築探検マップ」を全面改定版した「世界遺産パンフレット」（日本語・英語・中国語・韓国語）の作成・配布，「Google Arts&Culture」アプリによる主要所蔵作品解説（日本語・英語・中国語・韓国語）の無料配信の実施，建築音声ガイドの多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語）【国立西洋美術館】
- ・安全仕様のキッズルーム（地下1階）の設置，同所における幼児向け絵本常設，「ミュージアム 3DAYS フリーパス・関西」の英語版に参加【国立国際美術館】
- ・点字ブロック（正門から正面入口，地下鉄口から西入口（インターホンを設置））及び点字表示（エレベーター内ほか）の設置，補聴器等への磁気誘導無線システムの講堂内への設置（専用受信機 10 台），ロビー等の館内ディスプレイでの展覧会や講演会等の情報表示，託児サービスの実施，文字を大きくし見易くしたフロアガイド「大きな文字の利用案内」の館内配布，企画展における児童生徒向け鑑賞ガイドの配付及び子供向け施設ガイド『てくてくマップ』の配布及びホームページ掲載，「中央インフォメーションにおける外国人来館者向けの翻訳サービス「SMILE CALL」を導入，講演会・シンポジウム等における手話通訳の導入【国立新美術館】

② 入場料金，開館時間等の弾力化

〈平成 29 年度の新規実施事項〉

- ・所蔵作品展及び自主企画展における夜間開館時の観覧料を割引【東京国立近代美術館（本館），京都国立近代美術館，国立国際美術館】
- ・所蔵作品展における夜間開館時の観覧料を無料化【国立西洋美術館】
- ・夏休み期間に合わせ，7 月 21 日～8 月 26 日の金曜日・土曜日 17 時以降の大学生観覧料を無料化【東京国立近代美術館（本館）】
- ・工芸館開館 40 周年記念日（11 月 15 日）に，工芸館「陶匠 辻清明の世界—明る寂びの美」及び本館所蔵作品展の観覧料を無料化【東京国立近代美術館（本館・工芸館）】
- ・企画展「開館 40 周年記念展「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」」においてリピーター割引を実施【国立国際美術館】
- ・企画展「サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980 年代から現在まで」において，森美術館との 2 館共通券販売により観覧料を割引。また，「新海誠展「ほしのこえ」から「君の名は。」まで」においてリピーター割引を実施したほか，国立新美術館開館記念日（1 月 21 日）「20th DOMANI・明日展 文化庁新進芸術家海外研修制度の成果」の観覧料を無料化【国立新美術館】
- ・プレミアムフライデー施策 1 周年記念イベント「PERSOL PREMIUM FRIDAY」（2 月 23 日）を実施し，東京国立近代美術館所蔵作品展及び国立新美術館「20th DOMANI・明日展 文化庁新進芸術家海外研修制度の成果」の観覧料を無料化
- ・各館において，毎週金曜日に加え，土曜日の夜間開館を実施。そのほか，以下のとおり夜間開館を拡充した。

- 桜花期のイベント「美術館の春まつり」開催期間（3月25日～4月9日）の所蔵作品展、
「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」開催期間（7月19日～10月29日）の金曜日・土曜日の夜間開館を21時まで延長【東京国立近代美術館本館】
- 7月1日～10月14日の金曜日・土曜日の夜間開館を21時まで延長【京都国立近代美術館】
- ゴールデンウィーク（4月28～30日、5月3～7日）及び毎月最終金曜日の所蔵作品展の開館時間を21時まで延長。また、6月30日及び7月～9月の所蔵作品展並びに企画展「アルチンボルド展」の金曜日・土曜日の開館時間を21時まで延長【国立西洋美術館】
- 企画展「ボイマンス美術館所蔵ブリュッセル「バベルの塔」展」開催期間（7月18日～10月15日）の夜間開館21時まで延長【国立国際美術館】
- 企画展「サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980年代から現在まで」開催期間（7月5日～10月23日）における金曜日・土曜日の夜間開館を21時まで延長【国立新美術館】

〈各館共通の継続実施事項〉

- ・国際博物館の日（5月18日）に関連し、所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・文化の日（11月3日）における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・所蔵作品展、自主企画展及びフィルムセンターの展覧会における高校生以下及び18歳未満の観覧料を無料化
- ・所蔵作品展における夜間開館（毎週金・土曜日20時まで）を実施

〈各館ごとの継続実施事項〉

ア 東京国立近代美術館

- ・毎月第一日曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化【本館・工芸館】
- ・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し、毎週土曜、日曜に優待券を提示した高校生以下の子供を連れた家族に所蔵作品展及びフィルムセンターの展覧会の観覧料割引を実施
- ・地下鉄の対象乗車券提示で割引等を実施するサービス「ちかとく」による所蔵作品展の観覧料割引を実施【本館・工芸館】
- ・「東京マラソン2018」イベントガイド持参者に対する所蔵作品展・自主企画展の観覧料（個人一般）割引を実施【本館・工芸館】
- ・JAF会員証提示による観覧料（個人一般）割引を実施【本館・工芸館】
- ・企画展（「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術展」，「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」，「没後40年 熊谷守一 生きるよろこび」）及び上映会（「第39回 PFF」）において、各種観覧料割引を実施【本館・フィルムセンター】
- ・年始は1月2日から開館し、所蔵作品展の観覧料を無料化し、図録やオリジナルグッズをプレゼント【本館・工芸館】
- ・以下のとおり臨時開館を実施【本館・工芸館】
 - 桜花期（4月3日、平成30年3月26日）
 - ゴールデンウィーク（5月1日）
 - 年始（1月2日）
- ・上映会において原則平日19時からの夜間上映を実施【フィルムセンター】

イ 京都国立近代美術館

- ・企画展を開催しない土曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化

- ・「関西文化の日」（11月18～19日）における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館とで組織する「京都ミュージアムズ・フォー」において、各館の友の会と相互割引を実施
- ・奈良国立博物館、国立民族学博物館の友の会と相互割引を実施
- ・近隣の京都市美術館、細見美術館と連携し、相互割引を実施
- ・JAF 会員証提示による企画展及び所蔵作品展の観覧料（個人一般）割引を実施
- ・朝日新聞グループ 朝日友の会、京都新聞 トマト倶楽部、神戸新聞 ミントクラブ、神姫バス ニコパクラブ、山陽新聞 さん太クラブ、中国新聞 ちゅーピーくらぶ、阪急阪神カード及び京阪カードの情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに観覧料割引を実施
- ・上記割引のほか、企画展（「技を極めるーヴァン クリーフ&アーペル ハイジュエリーと日本の工芸」、
「絹谷幸二 色彩とイメージの旅」、
「ゴッホ展 巡りゆく日本の夢」）において、各種観覧料割引を実施

ウ 国立西洋美術館

- ・第二・第四土曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し、毎月第三土曜、日曜に優待券の提示による所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・地下鉄の対象乗車券提示で割引等を実施するサービス「ちかとく」による所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・上野地区内の文化施設相互の連携を深め、商業施設を含めた同地区内の回遊性を高めるため、平成 28 年度に引き続き「UENO WELCOME PASSPORT—上野地区文化施設共通入場券—」を発行（所蔵作品展観覧に加え、企画展割引も適用）。平成 29 年度からは所蔵作品展等に入場できる従来のパスポート型の入場券のほか、対象の施設で開催される指定の特別展から 1 つを選び観覧できる「特別展チケット」が 1 枚付くタイプの 2 種類を 2 期に分けて販売した。（平成 29 年 4 月 1 日～9 月 30 日。総販売部数 3,798 冊（うち国立西洋美術館販売部数 377 冊）、平成 29 年 10 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日。総販売部数 2,237 冊（うち国立西洋美術館販売部数 192 冊））。
- ・上記のほか、企画展（「シャセリオー展—19 世紀フランス・ロマン主義の異才」「アルチンボルド展」、
「北斎とジャポニスム—HOKUSAI が西洋に与えた衝撃」、
「日本スペイン外交関係樹立 150 周年記念 プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光」）において、各種観覧料割引を実施
- ・以下のとおり臨時開館を実施
 - ゴールデンウィーク（5 月 1 日）
 - お盆期間（8 月 14 日）
 - 会期末の会場内の混雑緩和（9 月 19 日）
 - 桜花期（平成 30 年 3 月 26 日）

エ 国立国際美術館

- ・毎月第一土曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・「関西文化の日」（11月18～19日）における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・朝日新聞グループ 朝日友の会、阪急阪神カード、京阪カード及び大阪市交通局の情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに観覧料割引を実施
- ・近隣ホテルとの連携を強化し、ホテル利用者に入場割引券を配布し、展覧会広報を行うとともに観覧料割引を実施。また、提携ホテルでの展覧会の半券持参等による特典を提供
- ・上記割引のほか、企画展「ボイマンス美術館所蔵ブリュゲル「バベルの塔」展」において、各種観覧料割引を実施
- ・以下のとおり臨時開館を実施
 - ゴールデンウィーク（5 月 1 日）

―秋季の連休期間（9月19日，10月10日）

オ 国立新美術館

- ・六本木アート・トライアングル参加館との観覧料の相互割引及び共通マップの作成・配布
- ・共催展において，高校生無料観覧日を設定（11月3～5日，11月17～19日）
- ・共催展において，政府による美術品補償制度の還元策として，高校生の無料観覧を実施（「国立新美術館開館10周年 ジャコメッティ展」8月2～7日 計6日間，「至上の印象派展 ビュールレ・コレクション」2月14～28日 計13日間）
- ・公募団体展と企画展の観覧料の相互割引を実施（特に自主企画展において，65歳以上の割引料金として大学生団体料金を適用し，高齢者の観覧料を低廉化）
- ・隣接する政策研究大学院大学との連携を深めるため，自主企画展において同大学の学生の観覧料の無料化若しくは学生証の提示による観覧料の弾力化を実施
- ・上記割引のほか，企画展において，各種観覧料割引を実施
- ・以下のとおり臨時開館及び開館時間延長を実施
 - ―会場内の混雑緩和を図るため，臨時開館を実施（5月2日）
 - ―会場内の混雑緩和を図るため，開館時間を20時まで延長（4月29～30日，5月1～4日，5月6～7日）
 - ―「六本木アートナイト2017」（9月30日～10月1日）の開催に伴い，両日の開館時間を22時まで延長

③ キャンパスメンバーズ制度の実施

国立美術館全体の事業として平成18年12月から実施している，大学，短期大学，高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」については，平成29年度に初めて外部媒体（マイナビ「学生の窓口」）を活用し，学生に対する広報活動を強化した。また，会員校において学生に広く周知するため配布用のチラシを大幅に増刷するなど，会員校の利便性を高めるための情報発信を強化し，制度の利用促進に努めた。その結果，平成29年度の利用者数は法人全体で124,140人となり，平成28年度（101,674人）に比べ大幅に増加した。

④ ミュージアムショップ，レストラン等の充実

ミュージアムショップについては，企業との連携等により各館所蔵作品の図版等を活用したオリジナルグッズの開発に努め，ホームページにおいて展覧会図録やグッズの情報を紹介するなどの広報宣伝を行った。レストランについては，企画展にちなんだ特別メニュー等を提供した。平成29年度の各館の特徴的な取組は以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

（本館）

- ・ミュージアムショップにおいて，所蔵作品の横山大観《生々流転》（重要文化財）の全画像のマスキングテープや，近隣の帝国ホテルと提携したオリジナルクッキーの販売を開始するなど商品開発を積極的に行った。また，館で制作した自主企画展の図録について，蔦谷書店（GINZA SIX内）及びTSUTAYA オンラインショップでの委託販売を開始した。そのほか，千代田区との地域連携事業として，「美術館の春まつり」期間限定で，千鳥ヶ淵の桜の枝で染色したスカーフやハンカチ，手袋，コースターなどを販売した（売上の一部は，桜の保全活動「さくら基金」の支援に充てられる。）。
- ・レストランでは「美術館の春まつり」期間限定で，京都の老舗「一保堂茶舗」と提携し，前庭でお茶類を中心とした飲食サービスを提供した。また，「MOMAT サマーフェス」と連動し，期間限定で前庭にビアバーを設置し，金曜・土曜の夜間開館時や日曜日にビール等アルコール

飲料をはじめサンドイッチなどの軽食メニューを提供したところ、近隣のビジネスパーソンが夜間に美術館に訪れるなど新規層の開拓及び集客に大きく貢献した。

(工芸館)

- ・工芸館開館 40 周年記念事業として、工芸館が所蔵する陶磁・ガラス・漆工・木工・竹工・染織・人形・金工・工業デザイン・グラフィックデザインの各作品 10 点からなる切手シート (82 円切手 10 枚) を製作し販売した。

イ 京都国立近代美術館

- ・ミュージアムショップにおいて、企画展「岡本神草の時代」にあわせ、展覧会オリジナルグッズとして絵はがきやチケットファイル、スタンドメモを製作し販売した。また展覧会ごとに関連書籍及び展覧会の内容に因んだ商品を提供したほか、京都在住作家コーナーを拡充した。
- ・レストランにおいて、各企画展に関連したオリジナルメニューを提供したほか、企画展「岡本神草の時代」では企画展の半券提示によるセットドリンクの無料提供サービスを実施した。また、周辺ライトアップイベントへの協力やワークショップ (8 月のグルーデコアクセサリー教室、9 月のエアープランツと流木のオブジェ作り) を実施したほか、観光客向けに抹茶を点てる体験メニューを実施した。

ウ 国立西洋美術館

- ・ミュージアムショップにおいて引き続き新商品の開発に努め、所蔵作品をあしらったお菓子 (キャンディ、羊羹、和三盆) を販売したほか、造幣局が製作した世界文化遺産貨幣セット (ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—) 「国立西洋美術館」や、「世界遺産シリーズ〈第 10 集〉『ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—』 (国立西洋美術館)」 82 円切手を販売した。また、1 月 6~8 日開催の「『こんにちは! シャンシャンまつり』 ~上野動物園赤ちゃんパンダ「シャンシャン」公開記念~」 (会場: 上野恩賜公園竹の台広場 (噴水前)) に協力し、国立西洋美術館ミュージアムショップを出店した。
- ・レストランをリニューアル・オープンし、営業時間を展覧会終了時間から 1 時間延長した。また、企画展「アルチンボルド展」、「北斎とジャポニスム—HOKUSAI が西洋に与えた衝撃」、 「日本スペイン外交関係樹立 150 周年記念 プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光」にちなんだ特別メニューを提供した。

エ 国立国際美術館

- ・ミュージアムショップにおいて、企画展「開館 40 周年記念展「トラベラー: まだ見ぬ地を踏むために」」にちなみ、近隣店舗とコラボレーションし、出品作家であるピピロッティ・リストやカリン・ザンダーの作品からインスピレーションを得た菓子を開発し、3 回に分けて期間限定で販売した。
- ・企画展「ライアン・ガンダー —この翼は飛ぶためのものではない」、 「ボイマンス美術館所蔵ブリューゲル「バベルの塔」展」、 「福岡道雄 つくらない彫刻家」、 「開館 40 周年記念展「トラベラー: まだ見ぬ地を踏むために」」にちなんだ特別メニューを開発・提供したほか、観覧券提示による割引を実施した。

オ 国立新美術館

- ・ミュージアムショップにおいて国立新美術館をモチーフとしたオリジナルグッズを販売したほか、各企画展の開催に合わせた関連グッズ・図録を販売した。また、10 周年を記念して 1F ショップレジ什器を装飾した。そのほか、「国際博物館の日」、「六本木アートナイト」に際しオリジナルグッズ無料プレゼントを実施した。

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

(1) 作品の収集

館名	購入点数	購入金額（円）	寄贈点数	年度末所蔵作品数	年度末寄託品数	
東京国立近代美術館	本館	17	1,006,805,900	42	13,213	418
	工芸館	9	164,835,200	61	3,802	183
京都国立近代美術館	66	805,870,640	90	12,481	886	
国立西洋美術館	278	640,717,877	9	6,059	120	
国立国際美術館	9	72,695,660	91	7,951	101	
計	379	2,690,925,277	293	43,506	1,708	

館名	平成29年度の収集方針
東京国立近代美術館	本館 <ul style="list-style-type: none"> ・1970年代以降の日本と海外の作品の収集 ・日本の美術に多大な影響を与えた海外作家の作品の収集 ・1900－1940年代の日本画作品の収集
	工芸館 <ul style="list-style-type: none"> ・日本工芸の近代化を示す作品の補充 ・戦後から現代にいたる伝統工芸や造形的な表現、クラフト等の重要作品の収集 ・近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集
京都国立近代美術館	<ul style="list-style-type: none"> ・美術・工芸作品について、近・現代日本美術史の骨格を形成する代表作及び作家の各時期において重要な位置を占める記念的作品、我が国の美術史に組み込まれていくことになる現代美術の秀作の積極的収集、優れた写真作品の収集、前衛的傾向を示す海外の美術作品の収集 ・京都を中心とする関西ないし西日本の地域性に立脚した所蔵作品の充実
国立西洋美術館	<ul style="list-style-type: none"> ・15～20世紀ヨーロッパ絵画の収集 ・ドイツ・フランドル・イタリア・フランスを中心としたヨーロッパ版画のコレクションの充実 ・国内に残る旧松方コレクション作品の情報収集
国立国際美術館	<ul style="list-style-type: none"> ・1945年以降の日本の現代美術作品の系統的収集の継続 ・国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集の継続

特記事項

ア 東京国立近代美術館

(本館)

〈購入〉

戦後アメリカを代表する彫刻家デイヴィッド・スミスの《サークルⅣ》（1962年）を購入した。デイヴィッド・スミスは美術史上重要な彫刻家でありながらこれまで国内にほとんどコレクションがなかったが、今回の収蔵で戦後彫刻の展開をより厚みをもって紹介することが可能となった。日本画では速水御舟の大正期における細密描写を代表する《白葡萄と茶碗》（1920年）を購入し、戦前の日本画コレクションをより充実させることができた。また、現在活躍中の若手・中堅作家として加藤泉、高柳恵里、横山裕一の作品を収蔵した。中でも横山の作品は美術とマンガの境界領域に位置づけられ、東京国立近代美術館として新しい取組となった。

〈寄贈〉

横山操の初期・中期・晩年を代表する作品及び東京国立近代美術館で既に所蔵している《ウォール街》（1962年）に関連した素描を遺族より受贈した。戦後日本画の革新者の画業の全貌をたどることが可能となることは非常に意義深い。平成28年度に回顧展を開催した山田

正亮の初期・中期・晩年の作品を受贈し、既存のコレクションとあわせ、彼の理知的な抽象絵画の展開の全貌を示すことが可能となった。また、昭和戦前期に新しい日本画運動を進めた船田玉樹の代表作《花の夕》（1938年）を受贈し、東京国立近代美術館コレクションの手薄な部分を補完することができた。本作品は、平成30年3月に開催された「美術館の春まつり」において公開された。その他資料としては、大正期を代表する画家である岸田劉生の大正10年の日記が発見され受贈することができた。これまでご遺族からまとまった資料の寄贈を受けているが、この日記はこれまで行方が分かっていなかったものであり、今回の寄贈により欠落部分を埋めることができた。

（工芸館）

〈購入〉

日本近代陶芸の確立に先駆的な活躍を示した板谷波山の《葆光彩磁牡丹文様花瓶》（1922年）を収蔵した。高度な蒔絵技法で大正・昭和初期時代に漆芸界をリードした赤塚自得の大作《常緑蒔絵料紙箱》（昭和初期）や重要無形文化財「色絵磁器」の保持者、十四代今泉今右衛門の近作、石川県出身の漆芸家である山岸一男や村上浩堂の公募展受賞作品を収蔵した。これにより、戦前と現代の作品をバランスよく補充・収蔵することができた。

〈寄贈〉

現代の漆芸界を代表する一人、並木恒延の《雪のしるべ》（2009年）、竹工芸の勝城蒼鳳の大作《Waterfall》（2011年）等の重要無形文化財保持者らの伝統工芸作品等の新旧の様式による工芸作品を受け入れた。森口華弘の友禅着物も東京国立近代美術館工芸館にはこれまで収蔵がなかったタイプの文様のものが4点収蔵され、コレクションに厚みを加えることになった。ガラス作品では、これまで1点も収蔵のなかったフランスの世紀末の代表的ガラス作家エミール・ガレとドーム兄弟の作品43点を一括寄贈いただいた。これまでフランスのアール・デコの作品は収集していたが、その前段階に当るアール・ヌーヴォー期の作品がほとんどない状態だったため、コレクションを充実させることができた。

イ 京都国立近代美術館

〈購入〉

並河靖之《鳥に秋草図花瓶 一対》（明治期）を含む主に明治時代に制作された超絶技巧の工芸20点を購入した。七宝をはじめ、海野勝珉、塚田秀鏡らの金工作品、武蔵屋大関《金蒔絵芝山花鳥図飾器》（明治期）などは、明治の輸出工芸を示す代表的な作品である。また、京都の漆芸制作工房であった象彦の《源氏物語蒔絵飾棚》（明治期）は、当時の京都の技の高さを示す優品である。刺繍絵画など平成28年度に引き続き超絶技巧といわれる作品が収蔵できたことは、コレクションの充実に繋がるとともに、優れた工芸作品の散逸・海外流出を防いだ点で国立の美術館としての役割を果たせたといえる。

〈寄贈〉

京都国立近代美術館で平成27年度に開催した企画展「北大路魯山人 和食の天才」で展示した《織部土瓶「星岡」銘入》（1927年）をはじめ陶芸作品を受贈した。魯山人にゆかりのある美食倶楽部「星岡」の名入りの現存作品は少なく、魯山人研究には重要な作品である。また、以前から所蔵している中堂憲一の染色作品の型紙ほか資料を受贈した。作家の制作過程を研究する上で重要な資料であり、いずれも国内外の研究者や展覧会にとって有益なものである。

ウ 国立西洋美術館

〈購入〉

テオドール・シャセリオー《アクタイオンに驚くディアナ》（1840年）及びベルト・モリゾ《黒いドレスの女性（観劇の前）》（1875年）を購入した。前者はロマン主義の画家シャ

セリオの個性的な作風をうかがわせる初期の重要作品、後者は印象派の女性画家モリゾが第2回印象派展に出品したと推定される貴重な作品であり、いずれも国立西洋美術館のコレクションの中核をなす19世紀フランス絵画の中の欠落を埋める意義がある。また、国内企業が昭和初期から管理していた旧松方コレクション作品群197点を一括購入した。この作品群は中世末期イタリアの宗教画から19世紀末～20世紀初頭のフランス、イギリス絵画まで幅広い領域に及び、国立西洋美術館設立の原点となった松方コレクションの全体像を知るうえで重要である。

〈寄贈〉

松方幸次郎氏ご遺族より、クロード・モネの油彩画《睡蓮一柳の反映》（1916年）及びイギリスの画家フランク・ブラングインの油彩画《松方幸次郎の肖像》（1916年）を受贈した。モネの作品は長らく所在不明となっていたが、2016年にフランスで再発見され、遺族に返還されることとなったものである。一方、ブラングインは松方の「共楽美術館」計画のためにコレクション形成と美術館設計の両面で協力した最も重要なパートナーであり、本作品は彼がロンドンで松方と知り合って間もない時期に描かれた肖像画である。2点とも、松方コレクションを出発点とする国立西洋美術館にとって象徴的な意味のある重要な作品である。

また、オーギュスト・ロダンのブロンズ彫刻《守護神》を受贈した。これは、コレクションの核のひとつであるロダン彫刻作品群を更に充実させるものである点で意義深い。

エ 国立国際美術館

〈購入〉

平成29年度に開催した企画展「ライアン・ガンダー —この翼は飛ぶためのものではない」に出品されたライアン・ガンダー《あの最高傑作の女性版》（2016年）を購入した。ライアン・ガンダーは、2000年代初頭から世界各地で個展を開催しドクメンタなど著名な展覧会に参加するなど、現在注目を集めている作家である。壁に埋め込まれた目玉のような本作品（コンピュータ制御によってまるで人間のように自由な動きを見せる）は、芸術作品が常に人々から見られる存在であることを逆手に取り、その芸術作品が人々を見るという仕組みを有した作品である。今後、本作品を所蔵作品等とともに展示することによって、鑑賞者が新しい美術の方法論の一端を理解する一助となることが期待される。また、池水慶一《象の足音》（1977年）は、動物園という人工的な環境で生きる動物を、我々人間と同じように生きる個体として誠実なまなざしで捉えた作品である。行為を作品とするスタイルの作家の作品の中でも収蔵可能な形式の作品であり、海外でも高く評価される作家の作品を地元大阪で紹介することが可能となった。

〈寄贈〉

横尾忠則のポスター66点の受贈は、横尾忠則の全ポスター収集という国立国際美術館の収集目標の1つに沿うものであり、この収集によりコレクションの一層の充実が図られた。特に平成24年に神戸に開館した横尾忠則現代美術館の展覧会ごとに制作された一連のポスターは、過去の作家の代表作品からの引用・反復が特徴的であり、横尾忠則研究に資する貴重な収集となった。また、竹岡雄二の彫刻2点《ケース彫刻（マイケル・アッシャーへのオマージュ）》（1987/2001年）及び《仕切り》（1990年）は、平成28年度に開催した竹岡の個展に出品された作品であり、作家が基本的なコンセプトとしている「空間呈示」と「台座彫刻」の特徴をそれぞれに有している。平成28年度に購入した竹岡の彫刻作品と併せて展示することによって、竹岡が展開してきた彫刻表現の可能性を示すことができる。

（2）所蔵作品の保管・管理

① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応

ア 東京国立近代美術館

（本館）

収納率：約140%

従来どおり、館外の倉庫2か所に作品の一部を預けること、年間約200点の作品貸与と年間約800点の所蔵作品展示により作品を庫外に出すことで最低限やりくりしている。新規収蔵作品、特に大型作品の保管場所を確保することができなくなっており、平成29年度は絵画用ラックを総点検して作品配置を見直すなど工夫している。

(工芸館)

収納率：約 185%

工芸館の収蔵庫 4 室の狭隘化改善のため、平成 28 年度より民間倉庫の利用を開始したものの、新たな作品の収蔵により収納率の改善に至っていない。なるべく多くの作品を展示に活用するなどの対策を行っているが、2020 年に予定されている工芸館の石川県移転後の活動も見据えて対応策の検討を進めている。

イ 京都国立近代美術館

収納率：約 180%

大型作品については引き続き民間倉庫で一時保管している。平成 29 年度は更に、彫刻・木工・漆工など工芸作品 67 点を外部の民間倉庫に移動させたことで、収納率が約 10%改善された。

ウ 国立西洋美術館

収納率：約 80%

収蔵庫内の状況の確認・記録を行った。学芸員が進めている平成 30 年度刊行予定の松方コレクション絵画・板絵の目録作成に伴い、従来写真がなかった作品に関して撮影を行った。これにより、全ての作品の状態がデジタルデータ上で確認できるようになり、収蔵庫内の管理作業に活用できるようになった。

エ 国立国際美術館

収納率：約 100%

限られた空間において作品を収納するため、収納箱を改め、重ねて保管できるようにした。また、大型の平面作品は修復時に収納箱を製作するなど絵画ラックを整理し、空いた面を有効に活用するよう努めた。過密な収納状態による作品への負担を軽減するため、劣化を抑制する梱包材を活用して適切な保管環境を保っている。

② 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実

東京国立近代美術館本館では、平成 29 年 10 月 24 日に、地震による火災発生を想定した全館避難訓練を実施した。工芸館では、平成 30 年 3 月 15 日に火災発生を想定した避難訓練を実施した。フィルムセンターでは、平成 29 年 8 月 22 日に、地下 3 階収蔵庫に設置されている二酸化炭素消火設備の操作方法について訓練を実施し、平成 29 年 11 月 28 日に火災発生を想定した避難訓練を実施した。

京都国立近代美術館では、平成 30 年 1 月 29 日に消防避難訓練を実施した。

国立西洋美術館では、平成 29 年 11 月 13 日に水バケツ・水消火器・屋内消火栓を用いた消火訓練、AED使用訓練及び担架・車椅子での搬送訓練を実施し、平成 30 年 3 月 12 日に地震・火災発生を想定した避難訓練を実施した。

国立新美術館では、平成 29 年 9 月 19 日に地震及び火災発生を想定した自衛消防訓練を実施したほか、平成 30 年 1 月 30 日に東京消防庁と合同でバスジャック犯の構内侵入を想定した避難誘導訓練を実施した。

(3) 所蔵作品の修理・修復

館名		修理・修復点数
東京国立近代美術館	本館	22点（絵画21点，彫刻1点）
	工芸館	6点（工芸6点）
京都国立近代美術館		14点（絵画8点，素描3点，版画2点，書1点）
国立西洋美術館		185点（絵画19点，水彩5点，素描30点，版画68点，彫刻5点，工芸5点，書籍52点，資料・その他1点）
国立国際美術館		33点（絵画10点，素描6点，版画15点，彫刻2点）

特記事項

ア 東京国立近代美術館

(本館)

東京文化財研究所が開発した新しい酵素を用い、同所と協力しながら児玉希望《花下吟詠》（1942年）等10点の日本画作品のシミの除去を行った。従来は完全には除去しにくかったシミを、より目立たなくさせることが可能となった。

(工芸館)

素材的に脆弱なものや展示等の活用頻度の高い作品を主に計画的に修復を行っている。平成29年度は、活用頻度の高い森口華弘の友禅作品3点、寄贈時に状態が悪かった介川芳秀《彫金鹿衝立》（1940年）等の修復を行った。また、金工作品では、平成26年度から継続して修復を実施してきた鈴木長吉《十二の鷹》（1893年）の修復が完了した。所蔵作品展「名工の明治」において完全な姿によみがえった12羽の鷹を一挙に展示し、修復活動及び成果に関する情報発信に努めた。

イ 京都国立近代美術館

平成28年度に収蔵した村上華岳のスケッチ2点と書作品、山口華楊《「向日葵」大下絵》（1919年頃）等を修理・表具し、展示可能な状態とした。華岳と華楊は、平成30年度、平成31年度の所蔵作品展で特集展示を計画することができるようになった。

ウ 国立西洋美術館

新たに絵画修復を専門とする技術補佐員1名及び研究補佐員1名を採用した。従来、大規模な保存修復処置を外部修復家に依頼する一方、額縁の補修・補彩など比較的軽微な問題への対応が課題となっていたが、2名の補佐員の採用により日常的な保存修復作業を進めることができ、活用・公開できる作品の幅が広がった。

平成29年度一括購入した旧松方コレクションのうち、レオン・オーギュスタン・レルミット《収穫する人々》（1900年）に修復処置を施し、額を新調した。また、板絵2点ブラッチョリーニ礼拝堂の画家に帰属《戴冠の聖母子》（制作年不詳）及び作者不詳《聖ヤコブ伝》（制作年不詳）の修復を実施した。これにより、旧松方コレクションの重要作品の展示活用が可能となった。

旧松方コレクションの1点として第二次世界大戦末期にフランス政府により接收された後、ルーヴル美術館に保管されていたクロード・モネ《睡蓮—柳の反映》（1916年）が国立西洋美術館に寄贈されたことを受け（31ページに記載）、同作品の状態調査を行い、修復計画を立案した。本作品は、平成30年度の保存修復作業を経て、平成31年度に開催される開館60周年記念の松方コレクション展において展示予定である。

エ 国立国際美術館

ロバート・ラウシェンバーグの《至点》（1968年）のパーツの洗浄、部品の交換など大規模な修復を行い、企画展「開館40周年記念展「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」」に出品した。また、近年収蔵した木村忠太《プロヴァンスの丘》（1984年）、タイガー立石《Milano, Torino Superway》（1974年）、高松次郎《国生み》（1979年）等の額やマットを新規作成し、展示可能な状態とした。その一部は平成29年度の所蔵作品展に出品した。

(4) 所蔵作品の貸与

館名		貸出		特別観覧	
		件数	点数	件数	点数
東京国立近代美術館	本館	58	243	141	267
	工芸館	17	182	18	57
京都国立近代美術館		50	534	63	119
国立西洋美術館		14	139	71	145
国立国際美術館		15	63	16	103
計		154	1,161	309	691

特記事項

ア 東京国立近代美術館

(本館)

「萬鉄五郎展」（神奈川県立近代美術館他）に重要文化財《裸体美人》（1912年）をはじめ10点、「小茂田青樹展」（島根県立美術館）に8点、「生誕150年 藤島武二展」（練馬区立美術館他）に4点、「猪熊弦一郎 戦時下の画業」展（丸亀市猪熊弦一郎美術館）に戦争記録画5点など、それぞれの作家を回顧するに当たり不可欠である作品を貸出し、作品の地方での鑑賞機会を提供するとともに、当該作家の顕彰に寄与した。また、海外に対しては、バイエラー財団（スイス・バーゼル）の「パウル・クレー展」に《花ひらく木をめぐる抽象》（1925年）を貸出したほか、ポンピドー・センター（フランス・メッス）の「ジャパノラマ展」に古賀春江《海》（1929年）など11点を貸出し、海外における日本近現代美術の紹介に寄与した。

(工芸館)

文化庁主催の「『日本のわざと美』展－重要無形文化財とそれを支える人々－」（富山県水墨美術館）に42点、「東京国立近代美術館工芸館名品展V－これなあに？－ひろがる工芸」（那須野が原博物館）に43点を貸与した。また、工芸館の石川県移転に向けた移転先地域の機運醸成のため地元美術館等との連携事業を展開しており、金沢卯辰山工芸工房、石川県輪島漆芸美術館、石川県立美術館等へも主たる出品者として作品貸与を行った。海外に対しては、韓国国立無形遺産院で開催された「カラムシ紡織技術」へ小千谷縮布をはじめとする6点を貸出した。

イ 京都国立近代美術館

「Ippin!逸品 明治工芸の至宝」展（秋田県立近代美術館）に川原林秀国《瓜形香炉》（1890年）ほか19点、「八木一夫と清水九兵衛－陶芸と彫刻のあいだで」展（菊池寛実記念智美術館）に八木一夫《二口壺》（1950年）ほか17点、「加守田章二展－京都国立近代美術館所蔵品を中心に」展（備前市立備前焼ミュージアム）に加守田章二《壺》（1973年）ほか31点を貸与するなど、いずれの展覧会でも核となる多数の作品を出品し、その開催に協力するとともに地方での鑑賞機会の提供に努めている。

ウ 国立西洋美術館

シカゴ美術館（アメリカ・シカゴ），グラン・パレ（フランス・パリ）を巡回した展覧会「鍊金術師ゴーガン」にポール・ゴーガン《ブルターニュ風景》（1888年）を貸与した。また国内でも、「LIFE—楽園をもとめて」展（富山県美術館）に対しモーリス・ドニ《踊る女たち》（1905年）等計3点を、「ムンク×斎藤清」展（斎藤清美術館）にエドヴァルド・ムンク《接吻》（1895年）等計2点を貸与するなど，地方美術館における展覧会の実施に協力し，鑑賞機会の提供に努めている。

エ 国立国際美術館

ポンピドゥー・センター・メス（フランス・メス）で開催された展覧会「ダムタイプ」に，古橋悌二《LOVERS》（1994年）を貸与した。本作はダムタイプにおける非常に重要な作品であり，同展覧会の開催に貢献した。

「石内都 肌理と写真」（横浜美術館）に石内都《1906-to the skin #7》（1991/94年）等12点を貸与し，個展の開催に寄与した。また，「富山県美術館開館記念展 Part1 生命と美の物語 LIFE— 楽園をもとめて」（富山県美術館）にパブロ・ピカソ《道化役者と子供》（1905年）等5点を貸出し，公立美術館の開館記念展に協力するとともに地方での鑑賞機会の提供に貢献した。

3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

(1) 国内外の美術館等との連携・協力等

① 国内外の美術館関係者との研究会の開催や研究者との交流等

- シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

館名		国内外の研究者の招へい等に基づく セミナー・シンポジウムの開催回数
東京国立近代美術館	本館	2
	工芸館	0
	フィルムセンター	2
京都国立近代美術館		5
国立西洋美術館		3
国立国際美術館		4
国立新美術館		1
計		17

※詳細については別表 12 を参照。所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催については 23 ページ及び別表 11 を参照。

特記事項

- ・国立美術館より, ICOM 大会 (青木国立新美術館長が ICOM 日本委員会委員長を務めている), CIMAM 年次総会, ASEMUS 執行委員会等の国際会議へ出席した。

② 我が国の作家, 美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

東京国立近代美術館

(本館)

- ・独立行政法人国際交流基金との共催でバービカン・センター (イギリス・ロンドン) において開催された「日本の家 1945 年以降の建築と暮らし」(主催:独立行政法人国際交流基金, バービカン・センター, 会期:平成 29 年 3 月 23 日~6 月 25 日)において, 保坂健二郎 (主任研究員) が展覧会の基本計画を作成した。

(工芸館)

- ・メトロポリタン美術館 (アメリカ・ニューヨーク) において開催された「日本の竹工芸: アビー・コレクション」(主催:メトロポリタン美術館, 会期:平成 29 年 6 月 13 日~平成 30 年 2 月 4 日)に, 諸山正則 (特任研究員) が企画協力した。

③ 全国の美術館等との人的ネットワークの形成等

ア 地方巡回展の開催 (再掲)

地方巡回展及び巡回上映等は, 別表 5 のとおり実施した。

イ 企画展・上映会等の共同主催・共同研究

館名		共同主催件数	共同研究件数
東京国立近代美術館	本館	2	3
	工芸館	3	5
	フィルムセンター	7	7
京都国立近代美術館		3	5

国立西洋美術館	3	4
国立国際美術館	0	2
国立新美術館	5	8
計	23	34

ウ 国内外の美術館等との保存・修復に関する連携・協力等

国立西洋美術館において、以下の取組を実施した。

- ・国内外の保存修復家及び保存修復学部を持つ大学などからの施設見学を受け入れ、保存・修復全般に関する情報・意見交換を行った。
- ・西洋美術館内で開催された全国美術館会議 保存研究部会の第49回会合（11月16～17日）の運営に当たり保存修復室職員4名が協力し、各日「貸出クレート仕様」、「特別展示時の展示ケースに使用する材料」と題し国内外の保存担当学芸員及び保存修復家らと情報・意見交換を行うなど中心的な役割を果たした。
- ・ゲティ保存研究所の主催によりインドのアーメダバード及びチャンディガールで開催されたワークショップ「ル・コルビュジエ建築の3美術館による建築保護とコレクション保存」に研究員・専門職員計4名が参加し、建築とコレクションの保存に関する発表・意見交換を行い、ル・コルビュジエ設計による3美術館のネットワーク構築に貢献した。
- ・オランダとイギリスで開催された保存修復ワークショップに研究員1名が参加し、国内では得られない保存修復技術に関する情報収集と技術習得を行った。
- ・国立西洋美術館内機器を使用して収蔵品板絵2点のX線透過撮影を行い、板絵制作の技術研究へ協力を行うとともに、情報交換を行った。その結果を踏まえて平成30年度以降の保存修復作業を検討するなど、成果の活用に努めている。

(2) ナショナルセンターとしての人材育成

① 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動

ア 教育普及活動の充実に資する教材やプログラムの開発

鑑賞教材「国立美術館アートカード」について、各館からを学校へ貸出しを行うほか、教員の研修などの機会をとらえて紹介するなど、国立美術館全体として取り組んだ。

イ 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施等

12年目となる「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」は、平成29年度、初めて関西（京都国立近代美術館）で実施した。これは、参加者の利便性に配慮し、研修に参加しやすい環境整備に努めた結果であり、今後は隔年で東京と関西で交互に開催する予定である。参加者数は80名と例年に比べ少ないが、会場の収容人数の上限によるものである。また、本研修の記録はウェブサイトで公開している。平成28年度にサイトデザインを大幅にリニューアルしたが、平成29年度も情報量を増やし、更に視認性の向上に努めた。なお、本研修は平成29年度「教員免許状更新講習」としても実施した。

- ・修了者数：80名（小学校教諭名16名，中学校教諭21名，高等学校教諭11名，指導主事5名，学芸24名，その他3名）
- ・会期：平成29年7月31日，8月1日（2日間）
- ・会場：京都国立近代美術館（7月31日），
京都国立近代美術館及び京都市勧業館みやこめっせ（8月1日）
- ・教員免許状更新講習：受講者12名（全員に履修証明書を授与）
- ・参加者の満足度：99%（目標：96.6%）

東京国立近代美術館工芸館では、工芸館における鑑賞活動を児童生徒の工芸文化への関心及び創造力の育成につなげることをねらいとして、「第11回工芸作品鑑賞研究会」を実施し、48名が参加した。

京都国立近代美術館では、京都市教育委員会、京都市図画工作教育研究会、京都市立中学校教育研究会美術部会と連携して、京都市内の小中学校、特別支援学校教員を対象とした、図工・美術の指導力向上講座を実施し、35名が参加した。

国立西洋美術館では、足立区図工教員、藤沢市中学校美術教員と連携して、美術館における鑑賞活動を児童生徒の学びにつなげることをねらいとして、夏季研修会を実施したほか、江戸川区図工教員と連携して、企画展「北斎とジャポニスム—HOKUSAIが西洋に与えた衝撃」を図工授業に生かすことをねらいとして、研修会を実施し、計60名が参加した。

国立国際美術館では、大阪市小学校教育研究会図画工作部、箕面市教育研究会小学校図工部、大阪府教育センター、大阪市教育センターと連携して、美術館における鑑賞活動を児童生徒の学びにつなげることをねらいとして、夏季研修を実施し、計82名が参加した。

国立新美術館では、大田区小学校図画工作研部究会、板橋区小学校図画工作研究部会、港区小学校図画工作研究部会との連携企画による、鑑賞研究会を実施した。また、企画展「サンシャワー：東南アジアの現代美術展」関連プログラムとして「先生のための鑑賞プログラム」を実施し、計73名が参加した。

② 今後の美術館活動を担う中核的人材の育成

館名		キュレーター研修 受入人数	インターンシップ 受入人数	博物館実習 受入人数
東京国立近代美術館	本館	1	6	—
	工芸館	2	0	0
	フィルムセンター	—	1	12
京都国立近代美術館		1	2	—
国立西洋美術館		2	7	—
国立国際美術館		0	8	—
国立新美術館		0	9	—
計		6	33	12

(3) 国内外の映画関係団体等との連携等

① 映画フィルムの収集については、以下のとおり実施した。

館名	購入本数	購入金額(円)	寄贈本数	年度末 所蔵本数	年度末 寄託本数
東京国立近代美術館 フィルムセンター	299	159,016,852	579	80,387	8,018

館名	平成29年度の収集方針
東京国立近代美術館 フィルムセンター	<p>映画を芸術作品のみならず、文化遺産として、あるいは歴史資料として、網羅的に収集することを目標に、日本映画の収集を優先しながら、時代を問わず散逸や劣化、滅失の危険性が高い映画フィルムの収集を行う。また、アニメーション映画、デジタル復元による成果物、上映事業や国際交流事業に必要な映画、企業の管理下に置かれない自主製作映画や実験映画、これまで受入れのなかった会社等からの寄贈映画フィルム及びこれらのデジタル複製物の収集を行う。映画資料については、日本映画に関わるものを中心に、映画史の調査研究に資する資料の収集を行う。加えて、平成29年度は特に次の点について留意する。</p> <p>ア 公開当時の画調を忠実に再現するために、カメラマンの立ち会いの下、フィルム複製を行うとともに、必要なデータを保存する。</p>

	イ 「BDC プロジェクト」と連動し、フィルム映画をデジタル化した保存用素材及び上映用素材、デジタル映画から複製された保存用素材、上映用素材及びレコーディングしたフィルム等の収集を行う。
--	---

特記事項

〈購入〉

企画上映に伴う映画フィルム等の購入では、羽田澄子監督作品について、『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』6部作（1992-94年）等22作品・25本の映画フィルムを、石井岳龍監督作品については、『爆裂都市/BURST CITY』（1982年）等8作品・11本の映画フィルムと、デジタル作品4作品の上映用素材及び保存用素材等を購入したことが、平成29年度の特徴である。また、『『木屋町三條』より その前夜』（萩原遼監督、1939年）と『東京の宿』（小津安二郎監督、1935年）については、海外での共催上映を念頭に新たに35mmプリントを作成・購入するとともに、前者には英語字幕を付した。

〈受贈〉

無声映画保存会より尾上松之助主演の『忠臣蔵』（牧野省三監督、1910-12年）の35mm可燃性染色ポジを受贈した。長さは不完全ながら、これまで活弁トーキー版のみが確認されていた同作のよりオリジナルに近い素材が発見された。このほかにも、羽田澄子監督より『古代の美』（1958年）他全15本のプリント、中村幻児監督より『性神風土記3 赤い妖精』（1973年）他全12本のプリント、村野鐵太郎監督より『上方苦界草紙 KAMIGATA-KUGAI-ZOSHI』（1991年）の原版2本、岩佐寿彌監督の御親族より『叛軍 No.1』（1970年）他全7本のプリント、横山隆一監督の御親族より『おんぶおばけ』（横山隆一監督、1955年）原版1本を受贈するなど、文化記録映画、アニメーション映画からインディペンデント作品まで広範囲にわたる種別の作品を新たにコレクションに加えることができた。また、上記の『忠臣蔵』、『叛軍 No.1』、『おんぶおばけ』を含め、平成29年の寄贈フィルムから多くの作品を上映企画「発掘された映画たち2018」でお披露目するなど、活用に努めた。

② 映画フィルムの保管・修復・復元については、以下のとおり実施した。

館名	修理・修復本数
東京国立近代美術館 フィルムセンター	65本（ノイズリダクション等21本、不燃化作業42本、映画フィルム洗浄2本）

特記事項

映画フィルムのデジタル復元については、重要文化財指定を受けた『小林富次郎葬儀』（吉澤商店、1910年）可燃性35mmオリジナルネガや、『コルシカの兄弟』（アンドレ・アントワーヌ監督、1915年）可燃性35mm染色プリント、海外で発見された『男一匹の意地』（コリン・キャンベル監督、1921年）の可燃性35mmプリントを元素材とするスキャンデータをもとに、「BDC プロジェクト」が実施したデジタル復元に協力した。また、株式会社 KADOKAWA、国際交流基金による『浮草』（小津安二郎、1959年）のデジタル復元では技術協力を行い初公開当時のアグファ・カラーの再現を試みた。

従来の写真化学的な復元（アナログ復元）に必要な技術データの更新と保存を図るために、『セーラー服と機関銃 完璧版』（相米慎二、1981年）の再タイミング版作成を行い、同作を担当した仙元誠三カメラマンの監修と、当時タイミング（色彩補正）に関わったフィルムセンター技術スタッフの助言をもとに、初公開当時の色彩の再現を試みた。

映画関連資料については、劣化・損傷の恐れがあるシナリオ等冊子に対して中性紙の保存ケースを制作して長期保存を図った。また、公開・貸出頻度の高いと思われる日本映画ポスターを中心に和紙を用いた簡易修復、酸性紙が劣化したプレス資料に対する脱酸化作業、接着したスチル写真の剥離作業やクリーニングなど紙資料の保存のための措置を講じている。平成29

年度は、貴重な初期の映画チラシや、損傷の激しいポスター及びプレス資料に関し専門的な修復作業を実施した。

ノンフィルム資料については、カタログニングの深化に努め、寄贈者別に配置されていたプレス資料の現物レベルでの統合作業が平成 29 年度で終了した。

③ 映画フィルム等の貸与等については、以下のとおり実施した。

● 映画フィルム

館名	貸出		特別映写観覧		複製利用	
	件数	本数	件数	本数	件数	本数
東京国立近代美術館フィルムセンター	114	249	65	208	49	77

● 映画関連資料

館名	貸出		特別観覧	
	件数	点数	件数	点数
東京国立近代美術館フィルムセンター	6	110	37	1,798

特記事項

映画フィルムの貸与については、カルロヴィヴァリ映画祭、英国映画協会、ミュンヘン映画博物館、シネマテーク・フランセーズなど広く多くの海外の映画祭やフィルム・アーカイブなどに日本映画のコレクションを提供した。国内では、山形国際ドキュメンタリー映画祭、あいち国際女性映画祭、アジアフォーカス・福岡国際映画祭等の映画祭をはじめ、京都府京都文化博物館、広島市視聴覚ライブラリー、神戸アートビレッジセンター、川崎市市民ミュージアム、神戸映画資料館、鎌倉市川喜多映画資料館等の同種機関、立命館大学アート・リサーチセンター、早稲田大学演劇博物館、日本大学芸術学部等の教育機関、ラピュタ阿佐ヶ谷、シネマヴェーラ、新文芸坐、神保町シアター、シネ・ヌーヴォオ等の名画座、映画に関わる様々な団体や機関へ貸与を通して協力を行った。

映画フィルムの特別映写については、日本映画撮影監督協会や日本映画映像文化振興センター等、映画関連団体から申請を受けるとともに、大学等の研究教育機関については、新潟大学、関西学院大学、早稲田大学、東京大学、東京芸術大学、京都大学、立教大学、関東学院大学、明治学院大学、日本映像学会等、幅広い機関からの申請に対応した。

映画フィルムの複製利用については、著作権者等によるデジタル化に加え、白瀬南極探検隊記念館主催の企画展「『日本南極探検』フィルムー日本最古の長篇記録映画ー」や川崎市岡本太郎美術館主催の「岡本太郎とメディアアート 山口勝弘ー受け継がれるもの」等、展示施設での上映展示に対する利用許可が特徴的であった。

映画資料の貸出については、日本でも数少ない常設の映画関連展示施設である鎌倉市川喜多映画記念館への貸出が案件の数として多かった。また、平成 29 年度は、シンガポール国立博物館に日本映画新社旧蔵のミッチェル 35mmNC 型撮影機を貸与した。資料の特別観覧については、出版社・教育機関・テレビ局などの要望に対し、資料画像の提供や熟覧などの形で所蔵資料へのアクセスに応じた。国産アニメーション 100 年に関連して、平成 28 年度に引き続き黎明期のアニメーション作品『なまくら刀』（幸内純一監督、1917 年）のフィルムコマ抜き画像を多く提供した。

「所蔵映画フィルム検索システム」については、平成 29 年度中に日本劇映画の作品情報 106 件を新たに公開し、公開件数は累計 7,405 件となった。

- ④ 平成 29 年 10 月 7 日に、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別上映会「甦る 70mm 上映『デルス・ウザーラ』」を開催した。
- ⑤ 海外における共催上映の実施については、以下のとおり実施した。
- ・ ジョージ・イーストマン博物館との共催により、ナイトレート・ピクチャー・ショー2017（会場：ジョージ・イーストマン博物館ドライデン劇場（アメリカ・ニューヨーク州ロチェスター）、会期：平成 29 年 5 月 5～7 日）で「小津安二郎監督作品「麥秋」上映会」を開催し、フィルムセンターが所蔵する『麥秋』（小津安二郎監督、1951 年）のナイトレート・プリント（可燃性フィルム）を上映した。
 - ・ アヌシー国際アニメーション映画祭（会期：平成 29 年 6 月 12 日～6 月 17 日）で、同映画祭及び一般社団法人日本動画協会との共催により日本のアニメーション文化を紹介する特別プログラム「日本のアニメーション 100 周年特別上映プログラム「アニメ NEXT100」」（会場：ゴモン・パテ館（フランス・アヌシー））を開催し、フィルムセンターの所蔵する初期アニメーション映画 6 作品等を上映した。
 - ・ フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャとの共催により、第 31 回チネマ・リトロバート映画祭（会期：平成 29 年 6 月 24 日～7 月 1 日）で上映企画「暗い谷間における日本の時代劇映画」（会場：リュミエール劇場（イタリア・ボローニャ））を開催し、英語字幕を付した戦前の時代劇映画 8 本のフィルムを上映した。
 - ・ 日本とデンマークの外交関係樹立 150 年を記念してヴィボー・アニメーション映画祭との共催による「かわいいとエピックマンガ&アニメ大展覧会」（会場：ヴィボー博物館（デンマーク・ヴィボー）、会期：平成 29 年 9 月 25 日～10 月 1 日）を開催し、英語字幕を付したアニメーション映画全 6 作品の DCP 上映を行った。
 - ・ チネテカ・デル・フリウリとの共催により、第 36 回ポルデノーネ無声映画祭（会期：平成 29 年 9 月 30 日～10 月 7 日）で、無声映画からトーキーへの移行期に日本で製作されたサウンド版作品を紹介する上映企画「サウンド版——トーキー移行期の日本映画（第一部）」（会場：ジュゼッペ・ヴェルディ市立劇場（イタリア・ポルデノーネ））を開催し、監督『島の娘』（野村芳亭監督、1933 年）と『東京の宿』（小津安二郎監督、1935 年）の 2 本を上映した。
 - ・ スウェーデン映画協会との共催による上映企画「知られざる日本映画特集」（会場：スウェーデン映画協会 フィルムハウス（スウェーデン・ストックホルム））、会期：平成 29 年 10 月 15 日～11 月 26 日）を開催し、フィルムセンターが所蔵するトーキー以後の日本映画を対象に、先方のキュレーターが作品選定を行った全 14 作品を上映した。
 - ・ ハーバード・フィルムアーカイブ及びアンソロジー・フィルムアーカイブズとの共催により寺山修司監督の作品を上映した（会場：ハーバード・フィルムアーカイブ（アメリカ・ケンブリッジ）、アンソロジー・フィルムアーカイブズ（アメリカ・ニューヨーク）、マーティン・E・シーガル・シアター・センター（アメリカ・ニューヨーク））、会期：平成 29 年 11 月 3 日～12 月 9 日）。
- ⑥ 映画フィルムの保存・修復等に関する協力等については、『セーラー服と機関銃 完璧版』（相米慎二監督、1981 年）のニュープリント仕上げ作業において、日本映画撮影監督協会からの協力を得た。また、「映画の復元と保存に関するワークショップ」の中で、映画資料の修復に関して、修復専門家や各地の映画資料館との情報交換を行った。
- ⑦ 各種映画祭や映画・映像に関する研究会等への協力については、以下のとおり実施した。
- ・ 日本のアニメーション 100 周年記念事業として一般社団法人日本動画協会が進める『アニメ NEXT100』（2017 年度～2020 年度）への協力を行い、公式プロモーションムービーに『なまくら刀』（幸内純一監督、1917 年）及び『お蝶夫人の幻想』（荒井和五郎監督、1940 年）の映像を提供した。

- ・国内団体との連携は、企画上映においては、駐日欧州連合代表部及び EU 加盟国大使館・文化機関との共催企画「EU フィルムデーズ 2017」, PFF パートナーズ及び公益財団法人ユニビジョンとの共催企画「第 39 回 PFF」, 東京国際映画祭及びモーション・ピクチャー・アソシエーション (MPA) との共催企画「ジョージ・イーストマン博物館 映画コレクション」を開催し、館外上映においては、東京国際フォーラムとの共催企画「東京国際フォーラム+東京国立近代美術館フィルムセンター 月曜シネサロン&トーク 東京国際フォーラムで会いましょう。」を開催した。
- ⑧ 国立美術館キャンパスメンバーズの加盟校（東京国立近代美術館利用校）が、フィルムセンターの所蔵映画フィルムと施設を利用して講義等を行う「東京国立近代美術館フィルムセンター・大学等連携事業」については、計 8 回の講義を実施した。
- ⑨ 文化庁映画関連事業への施設提供については、文化庁からの要請により協力することとしていたが、依頼実績が無かった。
- ⑩ 文化庁が実施する「日本映画情報システム」に対しては、公開データベースへの接続に関する協力を行った。
- ⑪ 相模原分館において、相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）と締結した文化事業等協力協定に基づき、相模原市内の小・中学生並びに相模原市及び JAXA との共催事業の参加者を対象に無料で映画鑑賞と保存施設の案内を実施した。映画フィルムの受入れ・検査・収納までの工程を解説し、映画フィルムの保存活動についても普及することができた。
- ⑫ FIAF の正会員として、第 73 回 FIAF 会議（アメリカ・ロサンゼルス）に研究員 3 名が参加した。また FIAF 加盟機関であるチェコ国立フィルムアーカイブとの共催企画「日本におけるチェコ文化年 2017 チェコ映画の全貌」, ジョージ・イーストマン博物館との特別協力企画「ジョージ・イーストマン博物館 映画コレクション」を開催した。
- ⑬ 映画関連資料に関する情報収集については、札幌市の「北の映像ミュージアム」や岐阜県羽島市の「羽島市映画資料館」を訪問したほか、広島県尾道市の「おのみち映画資料館」運営担当者の来訪を受けるなど、各地の映画資料館・専門図書館とノンフィルム資料の保存に関する情報交換を行った。また「映画の復元と保存に関するワークショップ」の中で研究員が「映画資料カンファレンス」（会場：電気通信大学）を企画、各地の映画資料館との情報交換や活動内容の共有を行った。
- ⑭ フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立については、通常の業務を着実に執行する一方で独立に向けた内部の機能強化に努め、文化庁ほか関係機関等との調整を進めた。その結果、フィルムセンターを平成 30 年 4 月 1 日付けで映画専門機関「国立映画アーカイブ」に改組、東京国立近代美術館から独立して新たな国立美術館の一館として設置することが決まったことから、広く国内外に概要を公表して新機関の周知に努めるとともに機関設置に向けて準備を進めた。新機関の設置をもって、今中期目標及び中期計画の関連項目が達成されることとなった。

II 業務運営の効率化

1 業務運営の取組

(1) 一般管理費及び業務経費の削減状況

(単位：千円)

区分	前中期目標期間 最終年度	当中期目標期間	削減率
	平成 27 年度	平成 29 年度	
一般管理費	679,240	458,849	△32.4%
業務経費	2,790,837	2,951,248	5.7%

特記事項

当中期目標期間終了年度において、前中期目標期間の最終年度と比べて、一般管理費 15%、業務経費 5%を削減することを目標としている。(ただし、美術作品購入費、美術作品修復費、土地借料等の特殊要因経費はその対象外。)

平成 29 年度において、一般管理費については平成 27 年度比で 32.4%削減しているが、業務経費については 5.7%増加している。これは、夜間開館や多言語化などの来館者サービスの充実に取り組んだことが主な要因である。

(2) 省エネルギー

● 使用量の削減割合 (対平成 27 年度比)

館名		使用量		
		電気	ガス	合計
東京国立近代 美術館	本館	93.6%	96.7%	94.8%
	工芸館	102.8%	—	102.8%
	フィルムセンター	98.6%	—	98.6%
	フィルムセンター相模原分館	97.4%	—	97.4%
京都国立近代美術館		122.2%	125.9%	123.4%
国立西洋美術館		101.2%	100.2%	100.8%
国立国際美術館		105.2%	—	105.2%
国立新美術館		99.2%	103.5%	100.4%
計		100.3%	102.2%	100.8%

※東京国立近代美術館工芸館・フィルムセンター・フィルムセンター相模原分館及び国立国際美術館は、ガス設備を設置していない。

※使用量は、電気は一般電気事業者からの昼間買電に 9.97GJ/千 kWh、夜間買電に 9.28GJ/千 kWh、特定規模電気事業者からの買電に 9.76GJ/千 kWh を乗じて得た熱量及び都市ガスに 45GJ/千 m³ を乗じて得た熱量の合計に 0.0258kl/GJ を乗じて得た原油換算量を、各施設の延床面積で除した値 (原単位) を基礎とする (エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則に基づく)。

特記事項 (増減の理由等)

国立美術館全体においては、業務の特殊性から展覧会場や美術作品収蔵庫において一定の温湿度維持等が必要とされ削減が難しいものの、引き続き、美術作品のない区画における空調機の設定温度の適格化 (夏季 28℃、冬季 19℃)、夏季における服装の軽装化、不使用設備機器類の停止及び職員等の意識の啓発によりエネルギーの削減に努めた。

また、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づき、エネルギー管理統括者のもとで、省エネルギー計画策定等を行い、各館において可能な箇所から施設設備の改修を行い、省エネルギー効果を高めた。特に、国立新美術館においては、引き続き、BEMS (Building and Energy

Management System) により、詳細なエネルギーの使用量と室内環境の把握を行い、その情報を定例的に開催する省エネルギー推進会議へ報告し、省エネルギー対策に生かすなどの取組を行っている。

さらに、平成 28 年度に引き続いて「夏季の省エネルギーの取組について (29 文科施第 96 号)」及び「冬季の省エネルギーの取組について (29 文科施第 239 号)」を踏まえた節電対策を実施した。具体的内容は以下のとおり。

(1) 設備・機器等の使用抑制

① 空調に係る節電

- ・部分的な運用，時間的な運用など柔軟に対応
- ・設定温度夏季 28℃，冬季 19℃を徹底（展示室及び収蔵庫等を除く）
- ・節電にも役立つ服装の励行
- ・ブラインドを調節し，夏季は直射日光を遮光，冬季は暖気を確保
- ・空調機のフィルター清掃

② 照明に係る節電

- ・執務室の照明は，最低基準の照度を確保しつつ大幅削減
- ・廊下，ロビー，階段等は，安全確保を優先し極力消灯
- ・昼休みの消灯を徹底
- ・白熱電球の原則使用禁止（代替品のない場合を除く）

③ エレベータ，エスカレータ

- ・必要最小限度の運転，階段利用の促進

④ 衛生設備に係る節電

- ・給湯室，洗面台，電気温水器等の利用時間，設定温度の変更
- ・自動販売機の消灯，設定温度の変更
- ・暖房便座，温水洗浄の停止
- ・便所温風器（手乾かし器）の停止

⑤ OA 機器等

- ・一定期間使用しない場合の電源の切断
- ・節電モードでの使用を徹底
- ・プリンタ，コピー機等の使用制限

⑥ その他

- ・ノー残業デーの推進
- ・冷蔵庫，電気ポット等，家電機器の使用制限
- ・冬季のハロゲンヒーター等の暖房機器の個人使用の禁止
- ・各テナントへの節電の協力要請
- ・サーバ室等個別空調機器の適切な温度設定

(2) 夏季休暇等の確実な取得

業務効率の維持等に留意しつつ，次の取組を推進

- ・夏季休暇の完全取得，夏季における年次休暇の計画的長期取得

(3) その他

- ・超過勤務の一層の縮減
- ・中長期の節電にも資する設備の設置等の検討及び着手
- ・夏季及び冬季における全館一斉休業日の実施

京都国立近代美術館の電気及びガス使用量は、平成 27 年度に工事のため 1 ヶ月半休館していたために使用量が少なかったことから、対平成 27 年度では例年増加傾向にある。

なお、法人全体については、省エネルギーに取り組む一方で夜間開館日の充実を通年で行ったことなどに伴い、電気及びガスの使用量が増え、エネルギー使用量は 100.8%と横ばいになっている。

2 組織体制の見直し

独立行政法人の業務運営の柔軟性を生かし、より一層のサービス向上及び組織の機能向上を実現するため、適宜組織体制を見直し、その強化に努めた。

3 契約の点検・見直し

(1) 調達等合理化の推進

「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定）に基づき、事務・事業の特性を踏まえ、PDCA サイクルにより、公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むため、平成 29 年度独立行政法人国立美術館調達等合理化計画を策定した。

① 平成 29 年度の調達実績

ア 平成 29 年度の調達全体像

(単位：件，千円)

	平成 28 年度		平成 29 年度		比較増△減	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
競争入札等	(34.4%) 79	(20.9%) 1,899,200	(25.3%) 68	(29.9%) 2,365,904	(△13.9%) △11	(24.7%) 466,704
企画競争・公募	(15.6%) 36	(5.3%) 480,273	(11.2%) 30	(2.5%) 198,965	(△16.2%) △6	(△58.3%) △281,308
競争性のある契約（小計）	(50.0%) 115	(26.2%) 2,379,473	(36.5%) 98	(32.5%) 2,564,869	(△14.8%) △17	(7.6%) 185,396
競争性のない随意契約	(50.0%) 115	(73.8%) 6,709,061	(63.6%) 171	(67.6%) 5,341,764	(48.7%) 56	(△20.4%) △1,367,297
合計	(100%) 230	(100%) 9,088,534	(100%) 269	(100%) 7,906,633	(17.0%) 39	(△13.0%) △1,181,901

(注 1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注 2) 比較増△減の（ ）書きは、平成 29 年度の対 28 年度伸率である。

イ 平成 29 年度の一者応札・応募状況

(単位：件，千円)

		平成 28 年度	平成 29 年度	比較増△減
2 者以上	件数	60 (52.2%)	58 (59.2%)	△2 (△3.3%)
	金額	1,236,139 (52.0%)	976,694 (38.1%)	△259,445 (△21.0%)
1 者以下	件数	55 (47.8%)	40 (40.8%)	△15 (△27.3%)
	金額	1,143,334 (48.1%)	1,588,174 (61.9%)	444,840 (39.5%)
合計	件数	115 (100%)	98 (100%)	△17 (△14.8%)
	金額	2,379,473 (100%)	2,564,869 (100%)	185,396 (7.6%)

(注 1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注 2) 合計欄は、競争契約（一般競争，指名競争，企画競争，公募）を行った計数である。

(注 3) 比較増△減の（ ）書きは、平成 29 年度の対 28 年度伸率である。

複数年度にわたり同一業者による一者応札が継続し、改善が見込めない案件については、慎重に検討のうえ、公募への切替えを実施することとしている。

・一者応札から公募に切り替えた件数：0 件

② 契約監視委員会の審議状況

監事及び外部有識者で構成される契約監視委員会を2回実施（書面審査1回含む）し、平成29年度調達等合理化計画策定及び平成29年における契約の点検見直しを行ったところ、指摘事項はなかった。

・一者応札の検証実施件数：51件

③ 調達等合理化検討チームによる点検

新たに随意契約（少額随契を除く。）を締結することになった案件について、本部事務局長を総括責任者とする調達等合理化検討チームにおいて事前点検（緊急の場合は事後点検）を行った。

・事前点検：8件

④ 内部監査の実施件数

平成29年度は、本部事務局、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館及び国立新美術館を対象として、2人～3人の監査員による内部監査を行った。

・内部監査実施件数：6件

(2) 民間委託の推進

① 一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

- (ア) 会場管理業務、(イ) 設備管理業務、(ウ) 清掃業務、
- (エ) 保安警備業務、(オ) 機械警備業務、(カ) 収入金等集配業務、
- (キ) レストラン運営業務、(ク) アートライブラリー運営業務、
- (ケ) ミュージアムショップ運営業務、(コ) 美術情報システム等運営支援業務、
- (サ) ホームページサーバ運用管理業務、(シ) 電話交換業務、
- (ス) 展覧会アンケート実施業務、(セ) 省エネルギー対策支援業務、
- (ソ) 展覧会情報収集業務、(タ) 映写等請負業務

「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」に則り民間競争入札を行った管理運営業務は、契約事務の軽減、統括管理業務導入による事務と委託業務の効率化、民間事業者の相互連携の推進による適確な業務の実施とともに、それぞれの業務の専門的知識を生かした適確な提案による施設設備維持管理と観覧環境の向上に寄与した。

引き続き「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」に則り民間競争入札を行っていくとともに、終了プロセスへの移行が承認されたものについては、一般競争入札を行い、業務の効率化等に努める。

② 広報・普及業務の民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

- (ア) 情報案内業務、(イ) 広報物等発送業務、(ウ) 交通広告等掲載、
- (エ) ホームページ改訂・更新業務、(オ) 特設サイト等、
- (カ) ラジオCM等を利用した総合的な広報宣伝業務、
- (キ) 講堂音響設備オペレーティング業務、(ク) 画像貸出業務

4 共同調達の推進

国立西洋美術館は周辺の機関と連携し、コピー用紙及びトイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買契約について共同調達を実施し、東京国立近代美術館及び国立新美術館において、トイレットペーパーの共同調達を実施した。東京国立近代美術館及び国立新美術館は新たに周辺の機関と連携し、コピー用紙の共同調達を実施した。

5 給与水準の適正化等

① 人件費決算

決算額 947,002 千円（対平成 28 年度比較 100.02%）

※人件費は常勤職員を対象とし、退職金、福利厚生費を含まない。

② 給与体系の見直し

国家公務員の給与等を考慮して、平成 18 年 4 月から俸給表の水準を全体として平均 4.8%引下げるとともに、級の構成の見直し、きめ細かい勤務実績の反映を行うため号俸の 4 分割を行ったほか、調整手当を廃止し、地域手当を新設するなど、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行った。なお、平成 29 年度においては、国家公務員の給与改定に準拠し、人事院勧告による官民較差等の状況を踏まえ、俸給水準及び諸手当にかかる給与改定を実施した。

また、国立美術館の職員が行う職務は、国の行政職俸給表（一）又は研究職俸給表の適用を受けるものと同等の職務であるとみなし、給与についても一般職給与法に準拠した給与制度で支給してきていることを前提に、これらとの比較を行った（「独立行政法人の役職員の給与水準等の公表（平成 28 年度）」総務省公表資料を参照）。

ア 一般職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

〈国及び他の独立行政法人との比較〉平成 28 年度実績

項目	国	全独立行政法人	国立美術館
平均年間給与額	6,155 千円	6,866 千円	6,162 千円
ラスパイレス指数 ※1		102.7	100.1

※1 国の行政職俸給表（一）適用者の給与を 100 としたときの給与水準の指数

イ 研究職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

〈国及び他の独立行政法人との比較〉平成 28 年度実績

項目	国	全独立行政法人	国立美術館
平均年間給与額	9,162 千円	9,100 千円	8,637 千円
ラスパイレス指数 ※2		100.0	94.3

※2 国の研究職俸給表適用者の給与を 100 としたときの給与水準の指数

ウ 常勤役員の年間報酬

平成 28 年度実績

項目	国立美術館
法人の長	19,621 千円
理事	16,754 千円

※「独立行政法人の役職員の給与水準等の公表（平成 28 年度）」（総務省公表資料）では常勤役員にかかる平均報酬額が公表されていないため当法人の実績のみ記載。

③ 平成 29 年度の役職員の報酬・給与等について

別紙 1 「独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について」を参照。

6 情報通信技術を活用した業務の効率化

法人内で VPN（Virtual Private Network：暗号化された通信網）を用いたグループウェア及びテレビ会議システムを引き続き採用しており、特にテレビ会議システムについては定期的な会議等に積極的に活用している。

また、外部データセンターが提供するサーバ機能を利用し、多重化した光回線による VPN の二重化等ネットワーク構成を刷新した。これにより安定したネットワーク稼働を維持することを可能とし、あわせてネットワーク障害の回避策についてプロバイダーとの調整に努めた。

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等

1 自己収入の確保

入場料収入 1,253 百万円、公募展事業収入 302 百万円、不動産賃貸収入 135 百万円、その他事業収入 119 百万円等により、1,818 百万円の展示事業等収入を獲得できた。

2 保有資産の有効利用・処分

保有する資産について、美術館の事業・運営に影響のない範囲で積極的な講堂等の外部貸出やエントランスロビーの活用に努めた。また、保有する資産のうち不要な資産はない。

3 予算

(単位：百万円)

区 分	計画額	決算額	増△減額
収入			
運営費交付金	7,537	7,537	0
展示事業等収入 【注1】	1,210	1,818	608
寄附金収入	650	678	28
施設整備費補助金 【注2】	2,010	2,258	248
文化芸術振興費補助金 【注3】	—	163	163
計	11,407	12,453	1,046
支出			
運営事業費	8,747	8,358	389
管理部門経費	995	1,151	△157
うち人件費	392	378	14
うち一般管理費 【注4】	603	774	△171
事業部門経費	7,752	7,207	546
うち人件費	1,114	1,149	△35
うち美術振興事業費	2,507	2,648	△142
うちナショナルコレクション形成・継承事業費 【注5】	3,624	3,038	586
うちナショナルセンター事業費 【注5】	508	371	137
寄附金事業費 【注6】	650	398	252
施設整備費 【注2】	2,010	2,258	△248
文化芸術振興費 【注3】	—	163	△163
計	11,407	11,176	231
収支差引	—	1,277	1,277

主な増減理由

【注 1】 入場料収入等の増加による。

【注 2】 前年度予算に係る工事の完了による。

【注 3】 文化庁「美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業」及び「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」による。

【注 4】 設備等の修繕及び支払消費税の増加による。

【注 5】 未達成の運営費交付金の繰越による。

【注 6】 寄附金を財源とした経費の繰越による。

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

特記事項

一般管理費、美術振興事業費、ナショナルコレクション形成・継承事業費及びナショナルセンター事業費を合わせた物件費は、設備等の修繕及び支払消費税の増加、美術作品購入費に係る運営費交付金債務の繰越等により、予算に比べ231百万円の支出減となった。

展示事業等収入は、展覧会の入館者数が目標入館者数を上回ったこと等から、予算に比べ608百万円の収入増となった。

施設整備費補助金は、前年度から繰り越された工事の完了により、計画額より248百万円支出増となった。

寄附金については、678百万円を獲得した。前年度からの繰越を合わせた398百万円を平成29年度の収益とした。

4 収支計画

(単位：百万円)

区 分	計画額	決算額	増△減額
費用の部			
経常費用	5,654	6,134	△480
管理部門経費	962	1,219	△257
うち人件費	【注1】 392	484	△92
うち一般管理費	【注2】 570	734	△164
事業部門経費	3,875	4,364	△489
うち人件費	【注1】 1,114	1,097	17
うち美術振興事業費	【注3】 2,423	2,724	△301
うちナショナルコレクション形成・継承事業費	【注4】 104	346	△242
うちナショナルセンター事業費	【注5】 234	196	38
寄附金事業費	【注6】 650	397	252
減価償却費	167	155	12
収益の部			
経常収益	5,654	6,448	794
運営費交付金収益	【注7】 3,627	3,905	278
展示事業等の収入	【注8】 1,210	1,818	608
寄附金収益	【注9】 650	397	△253
資産見返負債戻入	167	154	△13
補助金等収益	【注10】 —	163	163
施設費収益	【注11】 —	11	11
経常利益		314	
臨時損失		0	
臨時利益		0	
当期純利益		314	
前中期目標期間繰越積立金取崩額		0	
目的積立金取崩額		1	
当期総利益		315	

主な増減理由

- 【注 1】 予定外の職員の退職、採用による。
- 【注 2】 施設整備費補助金を財源とした経費の増加、支払消費税の増加等による。
- 【注 3】 自己収入を財源とした経費の増加及び入館者数の増加に伴う経費の増加等による。
- 【注 4】 運営費交付金による固定資産の取得が見込より多かったことによる。
- 【注 5】 運営費交付金による固定資産の取得が見込より少なかったことによる。
- 【注 6】 寄附金を財源とした経費の繰越による。
- 【注 7】 運営費交付金による固定資産の取得が見込より多かったことによる。
- 【注 8】 入館者数の増加等による。
- 【注 9】 寄附金を財源とした経費の支出による。
- 【注 10】 補助金を財源とした経費の支出による。
- 【注 11】 施設整備費補助金を財源とした経費の支出による。

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

5 資金計画

(単位：百万円)

区分	計画額	決算額	増△減額
資金支出	11,407	11,282	△125
業務活動による支出 【注1】	9,281	8,908	△373
投資活動による支出 【注2】	2,126	2,374	248
財務活動による支出	—	—	—
資金収入	11,407	14,025	2,618
業務活動による収入	9,397	10,131	734
運営費交付金による収入	7,537	7,537	0
展示事業等による収入 【注3】	1,210	2,035	825
寄附金収入	650	678	28
投資活動による収入	2,010	2,557	547
施設整備補助金による収入 【注4】	2,010	2,557	547
資金増減額		1,524	
資金期首残高		3,229	
資金期末残高		4,753	

主な増減理由

- 【注 1】 運営費交付金の次期繰越による。
- 【注 2】 平成 28 年度に竣工した工事等の支払及び平成 29 年度に繰り越された工事の完了による。
- 【注 3】 入場料収入等の増加による。
- 【注 4】 平成 28 年度に竣工した工事に係る施設整備費補助金の精算に伴い一部が平成 29 年度の収入となったこと及び平成 29 年度に竣工した工事に係る施設整備費補助金の精算に伴い一部が平成 30 年度の収入となることによる。

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

6 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部		負債及び純資産の部	
資産の部		負債の部	
Ⅰ 流動資産	5,113	Ⅰ 流動負債	4,248
Ⅱ 固定資産		Ⅱ 固定負債	654
1. 有形固定資産	190,430		
2. 無形固定資産	37	負債合計	4,902
固定資産合計	190,467		
		純資産の部	
		Ⅰ 資本金	81,019
		Ⅱ 資本剰余金	108,425
		Ⅲ 利益剰余金	1,234
		純資産合計	190,678
資産の部 合計	195,580	負債及び純資産の部 合計	195,580

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

7 短期借入金

実績なし。

8 重要な財産の処分等

実績なし。

9 剰余金

(1) 当期未処分利益の処分計画

(単位：円)

区分	金額
Ⅰ 当期未処分利益	314,811,793
当期総利益	314,811,793
Ⅱ 利益処分数額	
独立行政法人通則法第44条第3項により 主務大臣の承認を受けようとする額	314,811,793

平成 29 年度未処分利益については、中期計画の剰余金の用途において定めた施設・整備の充実、教育普及事業の充実、調査研究事業の充実、入館者サービスの充実及び資料の収集事業の充実等に充てるため、独立行政法人通則法（平成十一年七月十六日法律第百三号）第 44 条第 3 項に定める目的積立金として申請する。

(2) 利益の生じた主な理由

予算額を上回った自己収入があったことによる。

特記事項

国立西洋美術館で開催した「アルチンボルド展」（目標 160,000 人、実績 365,562 人）、国立新美術館で開催した「草間弥生 わが永遠の魂」（目標 65,000 人、実績 324,637 人）及び「チ

エコ文化年事業「ミュシャ展」(目標 149,000 人, 実績 522,151 人) など, 多くの展覧会で目標を上回る入館者があったことから入場料収入が増加した。

(3) 目的積立金の使用状況

目的積立金について, 平成 29 年度は以下のとおり使用した。

区 分	金額 (円)	使用内容
前中期目標期間繰越積立金	302,400	ファイナンスリース損益相当額
資料収集事業積立金	10,314,000	資料収集事業に係る経費, 固定資産の取得
入館者サービス積立金	6,918,550	固定資産の取得
計	17,534,950	

(4) 積立金 (通則法第 44 条第 1 項) の状況

(単位: 円)

使途の内訳	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
前中期目標期間繰越積立金	502,750,598	0	302,400	502,448,198
目的積立金	—	231,873,420	17,232,550	214,640,870
積立金	—	201,730,763	0	201,730,763

平成 29 年度未処分利益については, 中期計画の剰余金の使途において定めた施設・整備の充実, 教育普及事業の充実, 調査研究事業の充実, 入館者サービスの充実及び資料の収集事業の充実等に充てるため, 独立行政法人通則法 (平成十一年七月十六日法律第百三号) 第 44 条第 3 項に定める目的積立金として申請する。

また, 平成 28 年度未処分利益 433,604,183 円のうち 231,873,420 円が目的積立金として承認を受けた。

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 内部統制・ガバナンスの強化

(1) 内部統制の充実・強化

① 理事長がリーダーシップを発揮できる環境の整備

新たに、法人の業務運営を強化するため、平成 29 年 4 月に、美術を含む文化芸術全般に関して知見の深い理事（非常勤）1 名を任命した。

理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備するため、前年度に引き続き理事長裁量経費を計上している。

従来、理事長・理事及び館長で組織する「館長等会議」で意思決定を行ってきたところであるが、理事長のガバナンスを強化するため、新たに、理事長及び理事をもって組織し、国立美術館の運営に関する基本方針のほか、中期計画・業務評価・予算・人事等の重要事項を審議し、理事長の意思決定を補佐する理事会を設置した（従来の館長等会議は、法人の意思決定の基礎となる法人情報の共有及び連絡調整の場として存続）。また、新たに「独立行政法人国立美術館内部統制規則」を制定し、国立美術館に対する社会的信頼の確保、国立美術館における内部統制の推進に努め、内部統制機能の強化を図っている。

そのほか、外部の有識者で組織し、国立美術館の管理運営に関する重要事項について理事長の諮問に応じて審議し、理事長に対して助言する独立行政法人国立美術館運営委員会を 2 回（平成 29 年 10 月 12 日及び平成 30 年 2 月 14 日）開催し、平成 28 年度事業実績並びに、平成 29 年度事業の実施状況及び平成 30 年度事業計画（案）について説明聴取の上、意見交換を行った。また、外部有識者で構成し、国立美術館の単年度ごとの業務の実績に関する評価を行う独立行政法人国立美術館外部評価委員会を 2 回（平成 29 年 5 月 12 日及び 6 月 15 日）開催し、平成 28 年度事業実績について説明聴取の上、審議し外部評価報告書を取りまとめている。外部評価報告書については法人ホームページにて公表している。

② 組織全体で取り組むべき重要な課題（リスク）の把握

法人内の会議（館長等会議、研究系管理職を中心とした学芸課長会議、事務系管理職を中心とした運営管理会議）において情報共有及びリスクの把握に努めているほか、法人全体で取り組むべき重要な課題（リスク）に対応するため、平成 29 年度にリスク管理委員会を 2 回開催し、法人のリスク管理に係る今後の進め方を検討するとともに、国立美術館として対応すべきリスクの洗い出しを行い、その対応の優先順位を決定した。今後、それぞれのリスクについて対応方法等を検討することとしている。

そのほか、外部有識者で構成する運営委員会や外部評価委員会の開催を通じて、外部の視点からのリスクの把握に努めるとともに、監事や会計監査人との意見交換を通じて法人運営に影響を及ぼすリスクの把握に努めている。

(2) 情報管理の安全性向上

平成 29 年 3 月に制定した「独立行政法人情報セキュリティポリシー」に基づき、CISO（最高情報セキュリティ責任者）を設置した。CISO は、理事長の指示の下で情報資産の安全な運用管理等に努めており、本部情報企画室に必要な指示を出して法人の情報セキュリティインシデント等への対応体制の整備を進めるとともに、情報セキュリティ委員会を設置・開催し、情報セキュリティ対応体制の明確化・情報セキュリティ対策実施状況の把握・国立美術館の情報セキュリティ対策実施計画の協議等を行うなど情報セキュリティのマネジメントに取り組んだ。

本部情報企画室においては、情報セキュリティに配慮して各システム・ネットワークを運用している。また、頻発している情報漏えい、情報改ざん等につながる悪意のあるソフトウェアが添付されたメール等への注意喚起等を適時適切に行うとともに、全職員を対象に情報セキュリティ研修等を実施した。

(3) 内部統制・ガバナンスの強化に係る取組状況の検証

① 監事監査

監事 2 名が館長等会議その他重要な会議に出席するほか、役職員から事業の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、財務及び業務についての状況を調査している。また、会計監査人から会計監査人の監査方法及びその結果について説明を受け、会計帳簿等の調査を行い、財務諸表、事業報告書及び決算報告書について検討を加え、いずれも適正であることを確認するとともに、業務の執行に関する法令遵守等の状況についても確認している。

平成 29 年度においては 6 月 15 日に定期監査を実施したほか、各館に対し臨時監査を以下のとおり実施した。

平成 29 年 11 月 17 日：京都国立近代美術館，国立国際美術館，

平成 30 年 2 月 1 日：国立西洋美術館，国立新美術館

平成 30 年 2 月 15 日：京都国立近代美術館，国立国際美術館

平成 30 年 2 月 22 日：東京国立近代美術館

なお、監査結果報告については速やかに法人内に周知している。また、報告書において意見が付された場合には、各館における対応状況を随時監事に報告している。

このほか、「独立行政法人、特殊法人等監事連絡会」総会へ監事 1 名、第 3 部会へ監事 2 名が参加している。

② 内部監査

本部事務局，東京国立近代美術館，京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立国際美術館及び国立新美術館を対象として、契約方法の妥当性、見積徴収方法、旅費・諸謝金の取扱い等について、2～3 人の監査員が以下のとおり実地監査に当たった。

平成 29 年 8 月 29 日：本部事務局，東京国立近代美術館

平成 29 年 8 月 17 日：京都国立近代美術館

平成 29 年 8 月 24 日：国立西洋美術館

平成 29 年 8 月 18 日：国立国際美術館

平成 29 年 8 月 31 日：国立新美術館

なお、監査結果報告については速やかに理事長、理事、各館長へ周知している。また、監査結果報告書において意見が付された場合には、改善措置を講じている。

2 施設・設備に関する計画

京都国立近代美術館 1 階講堂改修工事，国立西洋美術館建築設備改修工事，国立西洋美術館昇降機改修工事及び国立美術館セキュリティ等対策工事を平成 29 年度に竣工した。

また、平成 19 年度から継続している国立新美術館の土地購入を予算措置に応じて行った。

3 人事に関する計画

(1) 職員の研修等

① 職員研修の実施（括弧内は参加人数）

- ・「平成 29 年度接遇・クレーム対応研修」（35 人）
- ・「情報セキュリティ研修」（241 人）
- ・「平成 29 年度メンタルヘルス・ハラスメント研修」（34 人）

このほか、産業医による個別面談により、職員のメンタルヘルスケアを実施した。

② 外部の研修への派遣（括弧内は参加人数）

ア 東京国立近代美術館

- ・東京大学主催「平成 29 年度東京大学職員階層別研修」（1 人）
- ・国立公文書館主催「平成 29 年度公文書管理研修 I」（1 人）
- ・放送大学「科目履修生」（6 人）
- ・財務省会計センター主催「第 55 回政府関係法人会計事務職員研修」（1 人）
- ・一般社団法人国立大学協会主催
「平成 29 年度関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修」（1 人）
- ・文部科学省・国立教育政策研究所主催「平成 29 年度博物館長研修」（2 人）

イ 京都国立近代美術館

- ・人事院近畿事務局主催「改正給与法説明会」（1 人）
- ・人事院近畿事務局主催「第 78 回近畿地区中堅係員研修」（1 人）
- ・文化庁主催「第 7 回ミュージアムエデュケーター研修」（1 人）
- ・大学共同利用機関法人人間文化研究機構主催
「平成 29 年度アーカイブズ・カレッジ（史料管理学研究会）」（1 人）
- ・京都国立博物館主催「障害者差別解消法に関する研修会」（1 人）

ウ 国立西洋美術館

- ・総務省関東管区行政評価局主催
「情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会」（1 人）
- ・文化庁主催「平成 29 年度図書館等職員著作権実務講習会」（1 人）
- ・東京大学主催「平成 29 年度東京大学職員階層別研修」（1 人）

エ 国立国際美術館

- ・大阪府主催「公正採用選考人権啓発推進員新任・基礎研修」（1 人）
- ・人事院近畿事務局主催「第 40 回近畿地区課長研修」（1 人）
- ・中之島まちみらい協議会主催「2017 年度中之島エリアの防災ワークショップ」（2 人）

オ 国立新美術館

- ・東京大学主催「平成29年度東京大学職員階層別研修」（1人）
- ・警視庁麻布警察署主催「テロ対策合同訓練」（2人）
- ・大学共同利用機関法人人間文化研究機構主催
「平成29年度アーカイブズ・カレッジ（史料管理学研究会）」（1人）
- ・国立公文書館主催「平成 29 年度公文書管理研修 I」（1 人）
- ・公益財団法人文化財虫菌害研究所主催
「第 39 回文化財の虫菌害・保存対策研修会」（2 人）
- ・放送大学「科目履修生」（1 人）

(2) 人員に係る指標

職種別人員の増減状況（過去 5 年分）

（単位：人）

職種	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
定年制研究系職員	50	50	49	55	54
定年制事務系職員	49	47	49	48	50
定年制技能・労務系職員	2	2	2	1	1
指定職相当職員	2	2	2	2	4

「公務員の給与改定に関する取扱いについて（平成 18 年 10 月 17 日閣議決定）」に基づき、公務員の例に準じて措置，対処している。

事務系職員については，文化庁，国立大学法人及び他の独立行政法人との間で定期的な人事交流を行い，組織の効率化と個々の職員の能力の発揮とその向上を考慮して人事配置を行った。

4 関連公益法人

該当なし

別表1 所蔵作品展

館名	開催日数	展示替回数		出品数 (点)	入館者数		満足度 [※]		
		実績 (回)	目標 (回程度)		実績	目標	実績	目標	
東京国立近代美術館	本館	注1 303	2	4	1,050	224,900	184,000	80.0%	88.4%
	工芸館	注2 194	3	3	482	82,534	40,500	85.1%	88.5%
京都国立近代美術館		299	6	5	1,024	207,023	118,000	70.6%	54.8%
国立西洋美術館		289	7	5	1,127	601,351	321,500	90.0%	89.0%
国立国際美術館		137	2	3	163	137,184	102,500	69.3%	55.7%
計		1,222	20	20	3,846	1,252,992	766,500	78.3%	67.4%

※「満足度」とは、アンケートによる満足度調査における「良い」以上の回答率を指す。以下同じ。

【注1】 臨時閉館したため（12月4日）、開催日数が当初予定の302日から変更となった。

【注2】 臨時閉館したため（12月4日）、開催日数が当初予定の193日から変更となった。

別表2 企画展

※以下の表の（ ）内は会期全体の数値、（継続）は平成30年度に継続開催する展覧会を意味する。

館名	展覧会名	開催日数	入館者数		満足度		企画 観点	共催者
			実績	目標	実績	目標		
東京国立近代美術館 (本館)	①茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術	46 (63)	66,198 (80,648)	60,000 (82,000)	87.1%	89.8%	ロ	京都国立近代美術館, NHK, NHKプロモーション, 日本経済新聞社
	②日本の家 1945年以降の建築と暮らし	89	81,175	41,000	86.1%		イ ロ ハ	国際交流基金
	③没後40年 熊谷守一 生きるよろこび	91	113,905	83,000	89.7%		ニ	日本経済新聞社, テレビ東京
	計	226	261,278	184,000	88.2%	89.8%		開催数3回 (目標: 5回程度)
東京国立近代美術館 (工芸館)	①マルセル・ブロイヤールの家具: Improvement for good	34 (60)	29,834 (42,460)	10,000 (18,000)	95.8%	88.0%	イ	—
	②陶匠 辻清明の世界—明るく寂びの美	60	12,195	12,000	87.2%		ニ	日本経済新聞社
	計	94	42,029	22,000	90.9%	88.0%		開催数2回 (目標: 4回程度)
京都国立近代美術館	①endless 山田正亮の絵画	8 (35)	2,409 (6,860)	3,000 (10,000)	71.5%	77.6%	ニ	東京国立近代美術館
	②戦後ドイツの映画ポスター【注1】	47	21,428	30,000	—		ニ	フィルムセンター
	③技を極める—ヴァン クリーフ&アーペル ハイジュエリーと日本の工芸	85	104,753	80,000	82.3%		ロ	日本経済新聞社, 京都新聞
	④絹谷幸二 色彩とイメージの旅	48	19,742	25,000	85.6%		ホ	毎日新聞社, 京都新聞
	⑤岡本神草の時代	35	11,969	20,000	76.0%		ニ	—
	⑥ゴッホ展 巡りゆく日本の夢	38	181,431	130,000	79.2%		イ	NHK京都放送局, NHKプラネット近畿, 京都新聞

	⑦明治 150 年展 明治の日本画と工芸	11 (55)	4,927 (継続)	3,000 (14,000)	未実施		ニ	京都新聞
	計	225	325,231	261,000	79.9%	77.6%		開催数7回 (目標：6回程度)
国立西洋美術館	①シャセリオー展—19 世紀フランス・ロマン主義の異才	51 (80)	89,618 (130,484)	87,000 (125,000)	82.8%	79.5%	ニ	TBS, 読売新聞社
	②アルチンボルド展	86	365,562	160,000	90.0%		ニ	NHK, NHKプロモーション, 朝日新聞社
	③北斎とジャポニスム—HOKUSAI が西洋に与えた衝撃	82	364,149	245,000	85.5%		イ ニ	読売新聞社, 日本テレビ放送網, BS日テレ
	④日本スペイン外交関係樹立 150 周年記念 プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光	32 (82)	107,390 (継続)	128,000 (328,000)	未実施		イ ロ	プラド美術館, 読売新聞社, 日本テレビ放送網, BS日テレ
	計	251	926,719	620,000	84.8%	79.5%		開催数4回 (目標：4回程度)
国立国際美術館	①クラナハ展—500 年後の誘惑	14 (68)	15,619 (60,734)	19,000 (91,000)	84.3%	71.0%	イ	ウィーン美術史美術館, TBS, MBS, 朝日新聞社
	②おとろえぬ情熱、走る筆。ピエール・アレシンスキー展	8 (62)	3,651 (21,717)	3,000 (22,000)	75.0%		ニ	毎日新聞社
	③ライアン・ガンダー —この翼は飛ぶためのものではない	57	26,393	11,000	86.2%		ハ	—
	④ボイマンス美術館所蔵 ブリュッゲル「バベルの塔」展 16 世紀ネーデルラントの至宝—ボスを超えて—	80	278,723	124,000	82.4%		イ	朝日新聞社, 朝日放送, BS朝日
	⑤福岡道雄 つくらない彫刻家	50	14,289	14,000	86.9%		ニ	—
	⑥態度が形になるとき—安齊重男による日本の 70 年代美術	50	15,799	7,000	56.9%		ニ	—
	⑦開館 40 周年記念展「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」	60 (92)	19,851 (継続)	18,000 (28,000)	未実施		ロ	—
	計	319	374,325	196,000	79.3%	71.0%		開催数7回 (目標：6回程度)
国立新美術館	①国立新美術館開館 10 周年 草間彌生 わが永遠の魂	46 (80)	324,637 (518,893)	65,000 (112,000)	90.1%	86.6%	ロ	朝日新聞社, テレビ朝日
	②国立新美術館開館 10 周年 チェコ文化年事業 ミュシャ展	58 (79)	522,151 (657,350)	149,000 (204,000)	95.8%		イ ニ	プラハ市, プラハ市立美術館, NHK, NHKプロモーション, 朝日新聞社
	③国立新美術館開館 10 周年 ジャコメッティ展	72	139,009	164,000	88.8%		イ	マーグ財団美術館, TBS, 朝日新聞社, 東急エージェンシー, ソニー・ミュージックエンタテインメント
	④サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980 年代から現在まで	96	66,083	38,000	80.6%		イ ロ	森美術館, 国際交流基金アジアセンター, 朝日新聞社, 東京新聞, 日本経済新聞社, 毎日新聞社, 読売新聞社, NHK

⑤国立新美術館開館 10周年 安藤忠雄展—挑戦—	72	300,102	99,000	95.4%		ハ	TBS, 朝日新聞社, 安藤忠雄建築展実行委員会
⑥国立新美術館開館 10周年 新海誠展「ほしのこえ」から「君の名は。」まで【注2】	33	101,303	46,000	95.0%		ハ	朝日新聞社, 東宝, テレビ朝日, コミックス・ウェブ・フィルム, アミューズ
⑦未来を担う美術家たち 20th DOMANI・明日展 文化庁新進芸術家海外研修制度の成果【注3】	44	18,378	13,000	81.5%		ハ	文化庁
⑧至上の印象派展 ビューラルレ・コレクション	40 (73)	159,151 (継続)	167,000 (300,000)	未実施		イ	東京新聞, NHK, NHKプロモーション
計	461	1,630,814	741,000	91.8%	86.6%		開催数8回 (目標: 9回程度)
合計	1,576	3,560,396	2,024,000	85.4%	82.1%		開催数31回 (目標: 34回程度)

【注1】 コレクション・ギャラリーの一部を使って開催した展覧会のため、開催日数、入館者数及び目標数はそれぞれの合計に含めない。また、同様の理由から、この展覧会に限った満足度調査を実施することが困難であるため、満足度調査を実施していない。

【注2】 会期が(11月15日～12月18日)から、(11月11日～12月18日)へ変更となったため、開催日数が当初予定の30日から変更となった。

【注3】 会期が(1月12日～2月19日)から、(1月13日～3月4日)へ変更となったため、開催日数が当初予定の34日から変更となった。

別表3 映画上映会(フィルムセンター)

タイトル	会場	上映日数	上映回数	入館者数		満足値		企画観点	共催者
				実績	目標	実績	目標		
①よみがえるフィルムと技術	大ホール	8	16	3,002	2,000	90.7%	85.4%	ニ	—
②EU フィルムデーズ 2017	大ホール	24	54	10,251	8,500	89.3%		ホ	駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関
③映画プロデューサー 佐々木史朗	大ホール	18	36	4,589	5,500	82.8%		ニ	—
④特集・逝ける映画人を偲んで 2015-2016【注1】	大ホール	56	157	20,709	24,000	85.6%		ニ	—
⑤第39回 PFF	大ホール	12	36	4,683	4,000	90.4%		ロニ	一般財団法人 PFF, 公益財団法人ユニジャパン, 公益財団法人川喜多記念映画財団
⑥シネマの冒険 闇と音楽 2017	大ホール	6	12	1,347	1,500	89.8%		ニ	—
⑦ジョージ・イーストマン博物館 映画コレクション【注2】	大ホール	8	16	2,487	3,500	93.8%		イニ	東京国際映画祭, モーション・ピクチャー・アソシエーション
⑧日本におけるチェコ文化年 2017 チェコ映画の全貌	大ホール	24	48	6,338	5,500	95.1%		ニ	チェコ国立フィルムアーカイブ, チェコセンター東京
⑨ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント コレクション	大ホール	18	34	4,937	5,500	95.6%		ニ	—
⑩発掘された映画たち 2018	大ホール	30	60	9,006	6,500	84.7%		ニ	—

①自選シリーズ 現代日本の映画 監督 6 石井岳龍【注3】	大ホール	11	24	3,186	4,000	86.7%		ロ ニ	—
②京橋映画小劇場No.35 アンコール 特集	小ホール	16	22	2,389	2,000	91.5%		ホ	—
③京橋映画小劇場No.36 ドキュメン タリー 作家 羽田澄子 Part.2	小ホール	10	24	2,393	1,500	76.6%		ホ	—
計		241	539	75,317	74,000	88.7%	85.4%		開催数13回 (目標：13回程度)

【注1】施設設備の不具合により一部の上映を別日に振り替えたため、開館日数が当初予定の55日から変更となった。

【注2】予算の都合により、会期を短縮したため、開館日数が当初予定の11日から変更となった。

【注3】「PA轟音上映」という大量のスピーカー機材を持ち込んでの上映会を開催することとなり、機材搬入・設置、調整及びテスト等を行う必要となったため、予定日数の1日を準備日としたため開館日数が当初予定の12日から変更となった。

別表4 展覧会（フィルムセンター）

展覧会名	日数	入館者数		満足度		企画 観点	共催者
		実績	目標	実績	目標		
①人形アニメーション作家 持永 只仁	104	6,946	5,500	96.1%		ハ ニ	—
②生誕100年 ジャン=ピエール・ メルヴィル、暗黒映画の美	66	3,287	3,000	92.0%	86.4%	ニ	ノクテュルヌ・プロ デュクシオン
③ポスターでみる映画史 Part.3 SF・怪獣映画の世界	70	8,094	5,000	85.2%		ロ ハ	—
計	240	18,327	13,500	91.8%	86.4%		開催数3回 (目標：3回程度)

別表5 地方巡回展・巡回上映等

企画館	展覧会名	開催館	開催日数	入館者数	
国立美術館 (担当館:国立 西洋美術館)	①国立西洋美術館所蔵 ミューズ(芸術の女 神):まなざしの先の女性たち	①福島県立美術館	62	10,571	
	①国立西洋美術館所蔵 ミューズ(芸術の女 神):まなざしの先の女性たち	②秋田県立近代美術館	66	12,211	
	計		128	22,782	
東京国立 近代美術館 (工芸館)	①工芸の躍動—東京国立近代美術館工芸館名 品展	①高岡市美術館	29	3,471	
	①東京国立近代美術館工芸館名品展 一人為 と天然 Art/Nature—	②新潟市美術館	45	3,393	
	②東京国立近代美術館工芸館名品展 陶磁い ろいろ	③石川県立美術館	37	8,429	
	計		111	15,293	
合計			239	38,075	
企画館	タイトル	会場数	開催日数	入館者数	
東京国立近代美 術館 (フィルムセンター)	①DEFA70周年 知られざる東ドイツ映画 【注1】		2	20	1,679
	②NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films 2017		1	9	393

	③平成 29 年度優秀映画鑑賞推進事業	177	335	70,309
	④東京国際フォーラム+東京国立近代美術館フィルムセンター 月曜シネサロン&トーク	1	4	428
	⑤蘇ったフィルムたち 東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集	3	13	1,477
	⑥新千歳国際空港アニメーション映画祭 2017	1	4	68
	⑦日本におけるチェコ文化年 2017 チェコ映画の全貌【注1】	2	21	1,444
	⑧第 15 回中之島映像劇場「松本俊夫の軌跡：記録・幻想・実験」	1	2	153
	⑨Fシネマ・プロジェクト こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！	2	6	348
	戦後ドイツの映画ポスター【注2】	1	47	21,428
	計	188	409	76,047

【注1】プログラムの一部を「②NFC所蔵作品選集 MoMAK Films 2017」として実施しているため、重複する分については会場数、開催日数及び入館者数をそれぞれの合計に含めない。

【注2】京都国立近代美術館のコレクション・ギャラリーの一部を使って開催した展覧会のため、会場数、開催日数及び入館者数はそれぞれの合計に含めない。

別表 6 調査研究一覧

ア 東京国立近代美術館			
(本館)			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	楽家の芸術表現	「茶碗の中の宇宙 楽家一子相伝の芸術」展を企画構成、開催、図録を発行	京都国立近代美術館
2	戦後の日本の建築家による住宅建築	企画展「日本の家 1945年以降の建築と暮らし」及びシンポジウム「「建築をなぜ『見る』『魅せる』」」を開催	国際交流基金、国立21世紀美術館（ローマ）、パービカンセンター（ロンドン）、東京工業大学塚本由晴研究室
3	熊谷守一	「没後40年 熊谷守一 生きるよろこび」展を企画構成、開催、図録を発行	愛媛県美術館、愛知県美術館、岐阜県美術館、岐阜県歴史資料館他
4	横山大観	共催展「生誕 150 年 横山大観展」（平成 30 年度）を企画構成	京都国立近代美術館、横山大観記念館
5	都市におけるアートプロジェクト（ゴードン・マッタ＝クラークを中心に）	共催展「ゴードン・マッタ＝クラーク回顧展（仮称）」（平成 30 年度）を企画構成	ゴードン・マッタ＝クラーク・エステート、山梨大学
6	アジアにおける 1960-90 年代の美術動向について	「アジアの目覚め：1960-90 年代の美術と社会」（仮称）を 2018 年に開催予定	韓国国立現代美術館、ナショナルギャラリーオブシンガポール、国際交流基金
7	「MOMAT コレクション」	所蔵作品展「MOMAT コレクション」を開催	—
8	「MOMAT コレクション 特集：美術館の春まつり」	「MOMAT コレクション 特集：美術館の春まつり」を開催	—
9	「コレクションによる小企画 彫刻を作る／語る／見る／聞く」	所蔵作品展小企画「彫刻を作る／語る／見る／聞く」を開催し小冊子を発行	—
10	「コレクションを中心とした小企画 難民」	所蔵作品展「MOMAT コレクション」内で開催し『現代の眼』に論考を執筆	—
11	ロバート・スミッソン	「MOMAT コレクション」で特集展示を行い、印刷物を発行	—

12	デジタルカメラによる作品撮影及び画像アーカイブ構築のための撮影機材の比較	作品の調査撮影とデータ比較を実施	西川茂（写真家）
13	国立美術館の公開情報資源を一元的に検索・閲覧できるゲートウェイ・システムの開発、並びに国立国会図書館サーチ及び文化庁文化遺産オンラインとの連携の継続維持	国立美術の公開情報資源の多面的かつ広範な検索可能性の実現	—
14	アート・ディスカバリー・グループ目録（Art Discovery Group Catalogue）への参加可能性の検討	国立美術館所蔵図書資料等の書誌情報の世界発信	—
15	所蔵作品に関する公開データの拡充（独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムでの公開を目標に）	国立美術館所蔵作品情報の精緻化と世界標準化	—
16	児童生徒を対象とする所蔵作品の鑑賞教育の推進	発達年齢に沿った教育プログラムの展開	東京都図画工作研究会，東京都中学校美術研究会
17	エントランスホール等共用部の環境整備	鑑賞環境の整備	西澤徹夫建築事務所
18	美術館におけるブランディング及びビジュアル・アイデンティティ	館の一般的認知度の向上	—
19	装潢分野の修理における旧修理材料のクリーニング・剥落止め方法の検討	日本画家報国会主催軍用機献納作品展出品作 10 点の修復，小企画展示の計画	東京文化財研究所
20	美術館の所蔵作品を活用した探求的な鑑賞教育プログラムの開発（科研費 基盤B 研究代表者：一條彰子（平成 28 年～平成 30 年）	『現代の眼』626 号にて研究成果の一部を発表	—
21	建築の表象とグラフィックデザイン 建築展の分析を中心に（DNP 文化振興財団 グラフィック文化に関する学術研究助成 研究代表者：保坂健二郎、平成 28～29 年度）	展覧会及び文献調査、シンポジウム「建築をなぜ今『見る』『魅せる』」にて研究成果の一部を発表	菊地敦己（東北芸術工科大学客員教授）
（工芸館）			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	近代工芸における動物モチーフに関する研究	所蔵作品展「動物集合」を企画構成，開催	—
2	樂家歴代と十五代吉左衛門に関する研究	「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」を企画協力，開催協力	京都国立近代美術館
3	辻清明に関する研究	工芸館開館40周年記念特別展「陶匠 辻清明の世界」を企画構成，開催，図録発行	—
4	近代工芸の歴史と展開	工芸館巡回展を企画協力，開催協力	高岡市美術館，新潟市美術館
5	近・現代陶芸の歴史と作品に関する研究	工芸館石川移転連携展「東京国立近代美術館工芸館名品展 陶磁いろいろ」を企画構成，開催	石川県立美術館
6	鈴木長吉と明治工芸に関する調査研究	所蔵作品展「名工の明治」を企画構成，開催	東京藝術大学
7	マルセル・プロイヤーとモダン・デザインに関する調査研究	「マルセル・プロイヤーの家具」展を企画構成，開催，図録発行	ミサワホーム総合研究所
8	児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進	所蔵作品展「調度♡ハッピーのかたち」鑑賞教育プログラム「こども工芸館」の企画構成，実施	東京都図画工作研究会
9	児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進	所蔵作品展「動物集合」イベント「動物ウォッチ」の企画構成，実施	—
10	児童・生徒を対象とする工芸素材と技法の体験及び鑑賞教育の推進	所蔵作品展「動物集合」イベント「コロコロ羊毛フェルト」の企画構成，実施	多摩美術大学
11	児童・生徒を対象とする工芸素材と技法の体験及び鑑賞教育の推進	所蔵作品展「日本の工芸—自然を愛でる—」イベント「葉っぱでごあいさつ」の企画構成，実施	日本工芸会
12	工芸における作品分析と対話型トーク	ボランティアガイドの養成研修プログラムの開発	筑波大学
（フィルムセンター）			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関

1	よみがえったフィルム, 発掘された映画	企画上映「よみがえるフィルムと技術」 「発掘された映画たち2018」	—
2	映画プロデューサー 佐々木史朗	企画上映「映画プロデューサー 佐々木史朗」	—
3	ヨーロッパ諸国の映画	企画上映「EUフィルムデーズ 2017」	駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関
4	近年逝去した映画人	企画上映「特集・逝ける映画人を偲んで2015-2016」	—
5	日本の自主映画	企画上映「第39回 PFF」	PFF パートナース, 公益財団法人ユニジャパン
6	無声映画作品の特質と上映について	企画上映「シネマの冒険 闇と音楽 2017」	—
7	ジョージ・イーストマン博物館 映画コレクション	企画上映「ジョージ・イーストマン博物館映画コレクション」	東京国際映画祭 ジョージ・イーストマン博物館
8	ソニー・ピクチャーズの映画史	企画上映「ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント コレクション」	—
9	チェコ映画の全貌	企画上映「日本におけるチェコ文化年 2017 チェコ映画の全貌」	チェコ国立映画アーカイブ, チェコセンター
10	現代日本の映画監督	企画上映「自選シリーズ 現代日本の映画監督 6 石井岳龍」	—
11	ドキュメンタリー作家 羽田澄子	企画上映「ドキュメンタリー作家 羽田澄子 Part 2」	—
12	東京の生活を描いた文化・記録映画	館外共催上映「月曜シネサロン&トーク」	東京国際フォーラム
13	人形アニメーション作家 持永只仁	展覧会「人形アニメーション作家 持永只仁」を企画構成, 開催	日本アニメーション学会
14	映画監督ジャン=ピエール・メルヴィル	展覧会「生誕 100 年 ジャン=ピエール・メルヴィル, 暗黒映画の美」を企画構成, 開催	アンスティチュ・フランセ日本
15	海外・日本の怪獣映画・SF 映画の系譜	展覧会「ポスターでみる映画史 Part3 SF・怪獣映画の世界」を企画構成, 開催	—
16	国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAP) 会員, その他同種機関, 現像所等からの情報に基づき, 未発見の日本映画フィルムの所在調査	『男一匹の意地』(コリン・キャンベル, 1921) のデジタル復元等に反映された	FIAP 会員, 国内外の同種機関, 現像所
17	文化庁との共同事業「近代歴史資料調査」, 文化庁美術館・歴史博物館重点分野推進事業の結果に基づき, 新たに残存が確認された映画フィルムの詳細調査	『日本南極探検』(田泉保直, 1912年) 35mm可燃性ポジ所蔵者を訪問し, カット単位の素材調査を行った。	記録映画保存センター, 神戸映画保存ネットワーク, 早稲田大学演劇博物館
18	可燃性フィルムを含むフィルム映画及びデジタル映画の長期保管・保存・変換・登録, アナログ及びデジタル技術を活用した復元, 及び映写	『小林富次郎葬儀』(1910年) のデジタル復元等に反映された	FIAP 会員, 国内外の同種機関, 映画研究教育機関, 美術館・博物館, 映像機器メーカー, 現像所等
19	映画におけるデジタル保存と活用	「BDC 技術セミナー」の開催等に反映された	FIAP 会員, 国内外の同種機関, 映画研究教育機関, IT 関連研究教育機関, 映画製作会社, 映画関連団体, 放送局, 映像機器メーカー, 現像所, IT 関連会社等
20	不明となっている所蔵作品の権利帰属等の情報収集と調査	文化庁長官裁定による『水の中の八月』(石井聰互, 1995年) プリント作成等に反映された	映画製作会社等諸団体
21	映画の撮影及び現像時における技術データ	『セーラー服と機関銃 完璧版』(相米慎二, 1981年) ニュープリント作成に反映された	映画製作会社, 関連職能組合, 現像所等
22	映画資料を整理するとともに, その画像をデジタル化し, 活用することを目的とする事業	「デジタル資料閲覧システム」の構築, 「NFC デジタル展示室」の充実, 展覧会「東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵 映画ポスター名品選」の開催	—
23	こどもを対象にした映画鑑賞プログラム	教育普及企画「こども映画館 2017年の夏休み」 「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」	—
24	社会人を対象にした映画教室プログラム	教育普及企画「映画の教室 2017」	—

25	褐色したカラー映画の復元と長期保存に関する基礎的研究(科研費 若手B 研究代表者:大傍正規,平成28年~平成30年)	上映企画「発掘された映画たち 2018」における『セーラー服と機関銃 完璧版』(相米慎二,1982年)や『コルシカの兄弟』[デジタル復元版]等に反映された	—
26	70ミリ映画のアーカイブにむけた基盤形成(科研費 基盤C 研究代表者:富田美香 平成28年~平成30年)	ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント「特別上映会 甦る70mm 上映『デルス・ウザーラ』」にて70mm上映実施、およびNFCニューズレターの報告に反映	—
イ 京都国立近代美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	山田正亮の画業の独自性について	展覧会「endless 山田正亮の絵画」の開催	東京国立近代美術館
2	戦後ドイツの映画ポスター	展覧会「戦後ドイツの映画ポスター」の開催	東京国立近代美術館フィルムセンター, ドイツ映画研究所
3	技を極める—ヴァン クリーフ&アーベル ハイジュエリーと日本の工芸	展覧会「技を極める—ヴァン クリーフ&アーベル ハイジュエリーと日本の工芸」の開催	—
4	絹谷幸二	展覧会「絹谷幸二 色彩とイメージの旅」の開催	—
5	岡本神草	展覧会「岡本神草の時代」の開催	笠岡市立竹喬美術館, 千葉市美術館
6	ゴッホとジャポニスム	展覧会「ゴッホ展 巡りゆく日本の夢」の開催	北海道立近代美術館, 東京都美術館, ファン・ゴッホ美術館
7	コレクションを活用したキュレトリアル・スタディーズ:デュシャン《泉/Fountain》の創造的解読	小企画「キュレトリアル・スタディーズ 12: 泉/Fountain 1917-2017」の開催	—
8	日本におけるバウハウス:新建築工芸学院を中心に	展覧会「バウハウスへの応答(仮称)」の開催	東京国立近代美術館工芸館, 早稲田大学
9	ウィーン世紀末のグラフィック	展覧会「世紀末ウィーンのグラフィック」の開催	大阪新美術館建設準備室
10	児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進	展覧会に関連したワークショップの開催	京都市図画工作研究会, 京都市立中学校教育研究会美術部会
11	視覚に障害のある利用者に向けた美術鑑賞プログラムの創造推進	ユニバーサルな美術鑑賞プログラムの企画実施, 点字による美術館パンフレット, 所蔵品紹介ツールの作成など	国立民族学博物館, 京都教育大学, 京都府立盲学校ほか
12	ケラ美術協会について	展覧会「特集展示:ケラ美術協会」のリーフレットの作成と配布	—
13	明治の日本画と工芸作品	展覧会「明治150年展 明治の日本画と工芸」の開催	—
14	感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業(「平成29年度文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」採択事業 <実施中核館:京都国立近代美術館>)	ユニバーサルな美術鑑賞プログラムの企画実施, 点字による美術館パンフレット, 所蔵品紹介ツールの作成など	国立民族学博物館, 京都府立盲学校, 京都教育大学, 京都市立芸術大学ほか
ウ 国立西洋美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	シャセリオー展—19世紀フランス・ロマン主義の異才	展覧会及び講演会等の開催, 図録の刊行	ルーヴル美術館
2	所蔵作品展小企画展「日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念 スケーエン:デンマークの芸術家村」	展覧会及び講演会等の開催, 図録の刊行	スケーエン美術館
3	ミューズ(芸術の女神):まなごしの先の女性たち	展覧会及び講演会等の開催, 図録の刊行	福島県立美術館, 秋田県立近代美術館
4	[Fun with Collection 2017] ル・コルビュジエの芸術空間—国立西洋美術館の図面からたどる思考の軌跡	展覧会及び講演会等の開催, 図録の刊行	—
5	アルチンボルド展	展覧会及び講演会等の開催, 図録の刊行	—
6	北斎とジャポニスム—HOKUSAIが西洋に与えた衝撃	展覧会及び講演会等の開催, 図録の刊行	—

7	《地獄の門》への道—ロダン素描集『アルバム・フナイユ』	展覧会及び講演会等の開催	—
8	日本スペイン外交関係樹立 150 周年記念 ブラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光	展覧会及び講演会等の開催、図録の刊行	ブラド美術館
9	旧松方コレクションを含む松方コレクション全体	作品収集、作品及び文献調査、所蔵作品展・企画展、刊行物、講演発表、解説等	—
10	中世末期から 20 世紀初頭の西洋美術	作品収集、作品及び文献調査、所蔵作品展・企画展、刊行物、講演発表、解説等	—
11	所蔵版画作品	作品収集、作品及び文献調査、所蔵作品展・企画展、刊行物、講演発表、解説等	—
12	美術館教育	教育普及プログラム実施鑑賞教育教材制作、インターンシップ、ボランティア指導、解説等	—
13	ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計	教育普及プログラムの実施、文献及び図面調査	ル・コルビュジエ財団
14	在外松方コレクション資料の学術調査と美術品来歴研究 (科研費 基盤 B 研究代表者：馬淵明子，平成 28 年～平成 31 年)	作品及び文献調査	—
15	美術作品や歴史資料における彩色の膠着材の同定—複数の分析法からのアプローチ (科研費 基盤 C 研究代表者：高嶋美穂，平成 28 年～平成 30 年)	所蔵作品の保存のための基礎資料	筑波大学
16	古代ローマ工芸美術の基礎的研究 ～テッラ・シギラタについて～ (科研費 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化) 研究代表者：向井朋生，平成 28 年～平成 30 年)	作品及び文献調査	—
17	近現代日本における人形の創作およびその受容に関する研究 (科研費 基盤 C 研究代表者：吉良智子，平成 28 年～平成 30 年)	作品及び文献調査	—
18	国立西洋美術館所蔵作品データベース (科研費 研究成果公開促進費(データベース) 研究代表者：川口雅子，平成 29 年)	国立西洋美術館所蔵作品データベースの構築 整備	—
19	近現代日本における人形とジェンダー (科研費 特別研究員奨励費 研究代表者：吉良智子，平成 29 年～平成 31 年)	作品及び文献調査	—
エ 国立国際美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	所蔵作品	所蔵作品展の企画構成、開催、作品の収集・修復	—
2	現代美術の動向	所蔵作品展及び企画展「開館 40 周年記念展「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」」の企画構成、開催、図録の発行	—
3	ライアン・ガンダー	企画展「ライアン・ガンダー —この翼は飛ぶためのものではない」及び所蔵作品展「ライアン・ガンダーによる所蔵作品展 —かつてない素晴らしい物語」の企画構成、開催、図録の発行	—
4	ブリュッゲル作「バベルの塔」と 16 世紀ネーデルラント美術に関する研究	企画展「ボイマンズ美術館所蔵 ブリュッゲル「バベルの塔」展」の企画構成、開催、図録の発行	東京都美術館
5	福岡道雄	企画展「福岡道雄 つくらない彫刻家」展の企画構成、開催、図録の発行	—
6	安齊重男	企画展「態度が形になるとき —安齊重男による日本の 70 年代美術—」展の企画構成、開催、図録の発行	—

7	ボルタンスキー	平成30年度に企画展「クリスチャン・ボルタンスキー展（仮）」を開催予定	国立新美術館，長崎県美術館
8	森村泰昌	「森村泰昌 自画像の歴史」展（プーシキン美術館（ロシア・モスクワ））の開催に特別協力	プーシキン美術館
9	児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進	「鑑賞学習を通じた学びを考える会」の開催，大阪府教育センター，大阪市教育センターとの連携	—
10	美術館教育	鑑賞補助ツールの開発，小中学生向け企画，スクールプログラムの実施	—
11	現代美術の保存修復	シンポジウム「過去の現在の未来2 キュレーションとコンサベーション その原理と倫理」口頭発表	京都市立芸術大学
12	所蔵作品展のキュレーションについて	所蔵作品展「ライオン・ガンダーによる所蔵作品展 —かつてない素晴らしい物語」及び企画展「開館40周年記念展「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」」を企画構成，開催，図録の発行，企画展「視覚芸術百態：19のテーマによる196の作品」（開催予定）	—
13	パフォーマンス作品	企画展「開館40周年記念展「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」」企画構成，開催，図録の発行	—
14	国内外のキュレトリアルリサーチ	企画展「開館40周年記念展「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」」	現代美術センターCCA 北九州，国際交流基金
15	風景画の現代的意義	企画展「プーシキン美術館展——旅するフランス風景画」の開催	東京都美術館
16	ウィーン分離派	企画展「ウィーン・モダン クリムト，シーレ 世紀末への道」の開催	国立新美術館
オ 国立新美術館			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	日本の現代美術の動向	「イケムラ レイコ」展その他，将来の展覧会に向けて準備を進めた。	—
2	海外の現代美術の動向	「クリスチャン・ボルタンスキー」展その他，将来の展覧会に向けて準備を進めた。	—
3	ジャコメッティ	「ジャコメッティ展」を企画，開催，図録を刊行した。	マージ財団美術館
4	東南アジアの現代美術の動向	「サンシャワー：東南アジアの現代美術展1980年代から現在まで」を企画，開催，図録を刊行した。	森美術館，国際交流基金
5	安藤忠雄	「安藤忠雄展—挑戦—」を企画，開催，図録を刊行した。	—
6	印象派	「至上の印象派展 ビュールレ・コレクション」を企画，開催，図録を刊行した。	ビュールレ・コレクション，名古屋市美術館，九州国立博物館
7	肖像画	「ルーヴル美術館展 肖像芸術—人は人をどう表現してきたか」に向けて準備を進めた。	ルーヴル美術館
8	ボルタンスキー	「クリスチャン・ボルタンスキー」展に向けて準備を進めた。	国立国際美術館，長崎県美術館
9	ドイツ表現主義	将来の企画に向けて検討を進めた。	ワイマール文化財団
10	日本のマンガ，アニメ，ゲーム	「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム～キャラクターVS.都市：虚構×現実～（仮称）」（MAG 国際巡回展 フランス）に向けて準備を進めた。	国際交流基金，一般社団法人 マンガアニメ展示促進機構

11	日本のファッションとデザイン	「日本のファッション」展に向けて準備を進めた。	島根県立石見美術館，京都服飾文化研究財団
12	美術館の教育普及事業（ワークショップ，鑑賞ガイド等）	『ジャコメッティ展 ジュニアガイド』，『至上の印象派展 ビュールレ・コレクション ジュニアガイド』を制作・配布 夏休みこどもたんけんツアー，建築ツアー，アーティスト・ワークショップ等を開催	—
13	日本の近・現代美術資料	日本の近・現代美術に関する資料を収集し，公開に向けた整理を進めた。	—
14	戦後の日本の美術館等における展覧会データの収集及び公開	「日本の美術展覧会記録1945-2005」の公開	—
15	美術資料のアーカイブズ構築における編成記述方法	稲憲一郎氏旧蔵「精神生理学研究所」関係資料，柳亮氏旧蔵資料，瀬木慎一氏旧蔵資料等の編成・記述を実施	—
16	美術情報の収集・提供システム	「アートコモンズ」の公開	—
17	美術館におけるデジタル・アーカイブの構築	国立美術館美術情報総合検索システム（「ゲートウェイシステム」）の構築，文化庁「メディア芸術データベース」構築への協力，「ジャパンサーチ（仮称）」連携の準備	—
18	近代日本のタイムカプセル研究：ハーバード大学アーカイブズの成立との関係性を中心に（科研費 挑戦的萌芽研究 研究代表者：坂口英伸、平成 28 年～平成 29 年）	調査結果を『NACT Review国立新美術館紀要』第5号へ掲載予定（2018年12月）	—

別表 7 展覧会図録における執筆

本稿が国立美術館の実績報告書であることに鑑み，共同研究・共同発表・共同執筆等における氏名及び職名については，ここでは基本的に国立美術館所属者のもののみを記載することとする。以下同様とする。

ア 東京国立近代美術館			
(本館)			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「日本の戦後の建築の系譜学について」，章解説（「3 プロトタイプと大量生産」「7 遊戯性」「8 感覚的な空間」「12 脱市場経済」「」），作品解説	保坂健二郎 (主任研究員)	日本の家：1945 年以降の建築と暮らし
2	「いろいろな熊谷守一」，「コラム①-⑤ 守一の謎」，章解説，作品解説	蔵屋美香 (企画課長)	没後 40 年 熊谷守一 生きるよろこび
(工芸館)			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「辻清明の作陶—明る寂びの美」，章解説，作品解説	唐澤昌宏 (工芸課長)	陶匠 辻清明の世界—明る寂びの美—
2	辻清明語録，辻清明略年譜，交流作家略歴，参考献	野見山桜 (客員研究員)	陶匠 辻清明の世界—明る寂びの美—
イ 京都国立近代美術館			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	戦後ドイツの映画ポスター作家略歴	池田祐子 (主任研究員)	戦後ドイツの映画ポスター

2	「技を極めるーヴァン クリーフ&アーペル ハイジュエリーと日本の工芸」, 「ハイジュエリーの秘密 ヴァン クリーフ&アーペルの工房を訪ねて」	松原龍一 (学芸課長)	技を極めるーヴァン クリーフ&アーペル ハイジュエリーと日本の工芸
3	「創作の裏にある思索という旅路ー絹谷芸術の源泉を訪ねてー」, 章解説, 作品解説, 絹谷幸二略年譜	平井啓修 (研究員)	絹谷幸二 色彩とイメージの旅
4	「絹谷幸二の画業ーその制作の旅路ー」	柳原正樹 (館長)	絹谷幸二 色彩とイメージの旅
5	「『岡本神草の時代』展」, 主要作品解説, 岡本神草関連作家略歴	小倉実子 (主任研究員)	岡本神草の時代
6	「ゴッホ展 巡りゆく日本の夢」図録 作品解説	牧口千夏 (主任研究員)	ゴッホ展 巡りゆく日本の夢
7	「明治の工芸ー明治 150 年展によせてー」	大長智広 (任期付研究員)	明治 150 年展 明治の日本画と工芸
8	「明治時代における日本画家の側面ー京都府画学校及び工芸図案との関係ー」, 章解説, 作品解説	平井啓修 (研究員)	明治 150 年展 明治の日本画と工芸
ウ 国立西洋美術館			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「展覧会の趣旨と謝辞」	村上博哉 (副館長兼学芸課長)	所蔵作品展小企画展「日本・デンマーク 外交関係樹立 150 周年記念 スケーエン: デンマークの芸術家村」
2	「女性作家たち」 「魔性の女」 章解説	川瀬佑介 (主任研究員)	ミューズ(芸術の女神): まなざしの先の女性たち
3	「国立西洋美術館ーそのコレクション構築の歴史」, 「恋愛・結婚ー女と男の物語」 章解説	中田明日佳 (主任研究員)	ミューズ(芸術の女神): まなざしの先の女性たち
4	「近代都市生活と女性」 章解説	袴田紘代 (研究員)	ミューズ(芸術の女神): まなざしの先の女性たち
5	「女性たちはいかに描き, 描かれたか」	馬淵明子 (館長)	ミューズ(芸術の女神): まなざしの先の女性たち
6	「異国の香りーテオドール・シャセリオー」, 章解説, 作品解説	陳岡めぐみ (主任研究員)	シャセリオー展ー19 世紀フランス・ロマン主義の異才
7	「『四季』と『四大元素』の宮廷的意義」	久保田有寿 (特定研究員)	アルチンボルド展
8	「宮廷の野人ー多毛のゴンザレス一家と宮廷文化」 作品解説	渡邊晋輔 (主任研究員)	アルチンボルド展
9	「ゴーガンと象徴主義画家たちによる北斎受容」 及び「北斎と動物」, 「北斎と植物」, 「波と富士」 章解説	袴田紘代 (研究員)	北斎とジャポニスムーHOKUSAI が西洋に与えた衝撃
10	「ジャポニスムにおける北斎現象」 及び「北斎の浸透」, 「北斎と人物」, 「北斎と風景」 章解説	馬淵明子 (館長)	北斎とジャポニスムーHOKUSAI が西洋に与えた衝撃
11	「17 世紀スペインにおける風景画制作史序論」, 章解説 (2 章「知識」, 5 章「風景」)	川瀬佑介 (主任研究員)	日本スペイン外交関係樹立 150 周年記念 プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光
12	「プラド美術館に魅せられた日本近代画家たち」	久保田有寿 (特定研究員)	日本スペイン外交関係樹立 150 周年記念 プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光
エ 国立国際美術館			
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「ライアン・ガンダーの世界へ」	中西博之 (主任研究員)	ライアン・ガンダーーこの翼は飛ぶためのものではない
2	「ブリューゲル絵画の多彩な世界」, 「ブリューゲル, ボス作品の稀少性をめぐって」	安来正博 (主任研究員)	ボイマンス美術館所蔵 ブリューゲル「バベルの塔」展
3	「福岡道雄の「反」彫刻ー彫刻家, だから, つくらない」	福元崇志 (任期付研究員)	福岡道雄 つくらない彫刻家
4	「現代美術の肖像ー安齊重男の写真ー」	中井康之 (学芸課長)	態度が形になるときー安齊重男による日本の 70 年代美術ー
5	「トラベラー: まだ見ぬ地を踏むために」, 作家解説	植松由佳 (主任研究員)	開館 40 周年記念展「トラベラー: まだ見ぬ地を踏むために」

6	作家解説	小川絢子 (特定研究員)	開館 40 周年記念展「トラベラー:まだ見ぬ地を踏むために」
7	「まだ見ぬ過去:ジョアン・ミロ《無垢の笑い》の展示環境について」, 作家解説	橋本梓 (主任研究員)	開館 40 周年記念展「トラベラー:まだ見ぬ地を踏むために」
8	「移りゆく美術館」, 作家解説	林寿美 (客員研究員)	開館 40 周年記念展「トラベラー:まだ見ぬ地を踏むために」
9	作家解説	福元崇志 (任期付研究員)	開館 40 周年記念展「トラベラー:まだ見ぬ地を踏むために」

オ 国立新美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	3 章解説, 主要参考文献	小山祐美子 (研究補佐員)	ジャコモッティ展
2	「本展覧会の構成と内容について」, 4 章・7 章・8 章・12 章解説	長屋光枝 (学芸課長)	ジャコモッティ展
3	6 章解説, 年譜, 主要参考文献	久松美奈 (研究補佐員)	ジャコモッティ展
4	「時間をほどく線—ジャコモッティのデッサン」, 5 章・9 章・10 章・11 章・13 章・14 章・16 章解説, 年譜, 主要参考文献	横山由季子 (アソシエイトフェロー)	ジャコモッティ展
5	「さまざまなアイデンティティ」, 作家解説 7 本	喜田小百合 (アソシエイトフェロー)	サンシャワー: 東南アジアの現代美術展 1980 年代から現在まで
6	「情熱と革命」, 作家解説 6 本	武笠由以子 (研究補佐員)	サンシャワー: 東南アジアの現代美術展 1980 年代から現在まで
7	「「サンシャワー: 東南アジアの現代美術展 1980 年代から現在まで」のための覚書」, 「うつろう世界」, 作家解説 8 本	米田尚輝 (研究員)	サンシャワー: 東南アジアの現代美術展 1980 年代から現在まで
8	「モネから 20 世紀へ—カンディンスキーの視点から」, 作品解説	長屋光枝 (学芸課長)	至上の印象派展 ビュールレ・コレクション
9	「都市景観図とグランド・ツアー」, 作品解説	西美弥子 (研究補佐員)	至上の印象派展 ビュールレ・コレクション
10	「ナチスのパリ占領とピカソ《花とレモンのある静物》が描かれた時代」, 「普仏戦争と印象派」, 作品解説	山田由佳子 (主任研究員)	至上の印象派展 ビュールレ・コレクション

別表 8 研究紀要における執筆

ア 東京国立近代美術館				
(工芸館)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「鈴木長吉作《十二の鷹》科学的調査と修復の報告」	北村 仁美 (主任研究員)	『東京国立近代美術館研究紀要』22号	H30.3.31
(フィルムセンター)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「吉澤商店主・河浦謙一の足跡(2) 活動写真時代の幕開き」	入江良郎 (主任研究員)	『東京国立近代美術館研究紀要』22号	H30.3.31
2	「「紅葉狩」考—その上演と、映画「紅葉狩」の撮影日について—	本地陽彦 (客員研究員)	『東京国立近代美術館研究紀要』22号	H30.3.31
イ 国立西洋美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「シュルレアリストのアルチンボルド受容に関する一考察—ニューヨーク近代美術館「幻想美術、ダダ、シュルレアリスム」展を起点に」	久保田有寿 (特定研究員)	『国立西洋美術館研究紀要』21号	H30.3.31
2	「国立西洋美術館所蔵のジャコメッティの素描について」	渡邊晋輔 (主任研究員)	『国立西洋美術館研究紀要』21号	H30.3.31
ウ 国立新美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム バンコク展 実施報告	小山祐美子 (研究補佐員)	『NACT Review 国立新美術館紀要』第4号	H29.12.26
2	「セメント美術工作研究会：戦時下の物資統制と素材研究」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『NACT Review 国立新美術館紀要』第4号	H29.12.26
3	「生涯学習時代における教育普及活動」	澤田将哉 (研究補佐員)	『NACT Review 国立新美術館紀要』第4号	H29.12.26
4	「特別展示」(執筆)、「シンポジウム1: 展覧会とマスメディア」(編集と執筆)、「シンポジウム2: 『アーカイヴ』再考—現代美術と美術館の新たな動向」(編集と執筆)、「国立新美術館における企画展をめぐって—これまでの活動及び、今後の展望と課題」(執筆)	長屋光枝 (学芸課長)	『NACT Review 国立新美術館紀要』第4号	H29.12.26
5	ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム ミャンマー展実施報告	真住貴子 (主任研究員)	『NACT Review 国立新美術館紀要』第4号	H29.12.26
6	「ミャンマーとタイ、ふたつの国でのワークショップ」 「国立新美術館開館10周年記念ウィーク特別プログラム」	吉澤菜摘 (主任研究員)	『NACT Review 国立新美術館紀要』第4号	H29.12.26

別表9 館ニュースにおける執筆

ア 東京国立近代美術館				
(本館)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「新しいコレクション：広川泰士《「BABEL Ordinary Landscapes」より 静岡県御殿場市2002年10月》」	増田玲 (主任研究員)	『現代の眼』623号	H29.4.1
2	「JALプロジェクト「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」二〇一四～二〇一六三年間の総括としてのアンサー・シンポジウムの開催について」	水谷長志 (主任研究員)	『現代の眼』623号	H29.4.1
3	「『彫刻を作る／語る／見る／聞く』を準備しながら考えたこと」	大谷省吾 (美術課長)	『現代の眼』624号	H29.7.1
4	「新しいコレクション 速水御舟《白葡萄と茶碗》」	鶴見香織 (主任研究員)	『現代の眼』624号	H29.7.1
5	「夏の美術館での過ごし方—日本の家展関連プログラムを振り返って」	荒井美月 (研究補佐員)	『現代の眼』625号	H29.10.1
6	「作品研究：描くべきものを描く—中村不折《廓然無聖》」	古舘 遼 (任期付研究員)	『現代の眼』625号	H29.10.1
7	「新しいコレクション パウル・クレー《破壊された村》」	三輪健仁 (主任研究員)	『現代の眼』625号	H29.10.1
8	「フィンランドの美術館教育リポート—美術館×学校×行政」	一條彰子 (主任研究員)	『現代の眼』626号	H30.1.1
9	「On View 「没後40年 熊谷守一展」後記」	蔵屋美香 (企画課長)	『現代の眼』626号	H30.1.1
10	「[On view] アートは「難民」を先入観から解放する」	保坂健二郎 (主任研究員)	『現代の眼』626号	H30.1.1
11	「[新しいコレクション] 清宮質文《夕暮の裏門》」	保坂健二郎 (主任研究員)	『現代の眼』626号	H30.1.1
12	「作品研究 文字通り《南風》を斜めから見る—和田三造の漂流」	榊田倫広 (研究員)	『現代の眼』627号	H30.1.1
(工芸館)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「[新しいコレクション] 栗木達介《黄鱗文巻弁花器》」	諸山正則 (特任研究員)	『現代の眼』623号	H29.4.1
2	「[On view] ハッピーはここに：調度をめぐる生活感情と空間の造形」	今井陽子 (主任研究員)	『現代の眼』624号	H29.7.1
3	「[新しいコレクション] 中野孝一《蒔絵棗 螢》」	高橋佑香子 (研究補佐員)	『現代の眼』624号	H29.7.1
4	作品研究「亀倉雄策の光の表現について」	野見山桜 (客員研究員)	『現代の眼』624号	H29.7.1
5	「[On view]「工芸館開館40周年記念特別展 陶匠 辻清明の世界—明る寂びの美」後記」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『現代の眼』625号	H29.10.1
6	「[新しいコレクション] 大島如雲《鑄銅大膽瓶》」	中尾優衣 (研究員)	『現代の眼』625号	H29.10.1
7	「[新しいコレクション] 笹井史恵《かさね 8》」	西岡梢 (研究補佐員)	『現代の眼』626号	H30.1.1

(フィルムセンター)				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	色彩はよみがえる—最適な色再現を支える人と技術	大傍正規 (主任研究員)	『NFC ニュースレター』 131 号	H29.5.1
2	「佐々木史朗プロデューサーインタビュー 僕は、プロデューサーが主導する形の作家主義をやっていると、自分では思っている」	富田美香 (主任研究員) 大澤浄 (主任研究員) 佐々木淳 (客員研究員)	『NFC ニュースレター』 131 号	H29.5.1
3	「佐々木史朗プロデュース作品一覧」	富田美香 (主任研究員) 大澤浄 (主任研究員) 佐々木淳 (客員研究員)	『NFC ニュースレター』 131 号	H29.5.1
4	「第3回ナイトレート・ピクチャー・ショー」 報告 ナイトレート・フィルムを上映するというフィルムアーカイブの禁じ手,あるいは,世界でもっとも特殊で高度に文化的な映画上映の試み	岡島尚志 (特定研究員)	『NFC ニュースレター』 132 号	H29.7.1
5	もはや「ノンフィルム」ではない —映画図書館員会議に参加して	岡田秀則 (主任研究員)	『NFC ニュースレター』 132 号	H29.7.1
6	第 73 回 FIAF ロサンゼルス会議報告 ハリウッド,ラテンアメリカへ行く—映画資料保存の先を見ずえて	大傍正規 (主任研究員)	『NFC ニュースレター』 132 号	H29.7.1
7	「追悼: 林土太郎 デンシティー筋, “男気”の活動屋」	富田美香 (主任研究員)	『NFC ニュースレター』 132 号	H29.7.1
8	イーストマン・コレクションにみる無声映画の魅力	岡島尚志 (特定研究員)	『NFC ニュースレター』 133 号	H29.10.1
9	「ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント「特別上映会 甦る 70mm 上映『デルス・ウザーラ』」とその後に向けて/「第 12 回 オスロ 70mm 映画祭」報告」	富田美香 (主任研究員)	『NFC ニュースレター』 133 号	H29.10.1
10	珠玉の“フィルム”が彩る, 映画アーカイブ活動の深化	大傍正規 (主任研究員)	『NFC ニュースレター』 134 号	H30.1.1
11	「石井岳龍監督インタビュー 理想を真つぐ追うのではなく, リアルから近づいていくという戦いです。」	富田美香 (主任研究員) 大澤浄 (主任研究員) 佐々木淳 (客員研究員)	『NFC ニュースレター』 134 号	H30.1.1
イ 京都国立近代美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	ポンピドー・センター=メッスにおける教育普及プログラムの役割	牧口千夏 (主任研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』 489 号	H29.7.26
2	28 年度新収蔵作品紹介 岡本神草《スケッチブック》大正 4~6 年	小倉実子 (主任研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』 491 号	H29.12.13

3	28年度新収蔵作品紹介 七代錦光山宗兵衛 《調度品図四面花瓶》明治～大正時代	大長智広 (任期付研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』491号	H29.12.13
4	28年度新収蔵作品紹介 ヨシダミノル《The Blue Tent》1966年	平井章一 (主任研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』491号	H29.12.13
5	28年度新収蔵作品紹介 フェリックス・ゴンザレス=トレス《“無題”(夢)》1991年	牧口千夏 (主任研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』491号	H29.12.13
ウ 国立西洋美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	企画展「アルチンボルド展」	渡辺晋輔 (主任研究員)	『ZEPHYROS』 第71号	H29.5.20
2	Fun with Collection 2017 ル・コルビュジエの芸術空間—国立西洋美術館の図面からたどる思考の軌跡	寺島洋子 (主任研究員)	『ZEPHYROS』 第71号	H29.5.20
3	報告 2016年度収蔵作品について	村上博哉 (副館長)	『ZEPHYROS』 第71号	H29.5.20
4	企画展「北斎とジャポニスム HOKUSAI が西洋に与えた衝撃」	馬淵明子 (館長)	『ZEPHYROS』 第72号	H29.8.20
5	小企画展「《地獄の門》への道—ロダン素描集『アルバム・フナイユ』(仮)」	陳岡めぐみ (主任研究員)	『ZEPHYROS』 第72号	H29.8.20
6	報告 「2017年度収蔵作品」について	馬淵明子 (館長)	『ZEPHYROS』 第73号	H29.11.20
7	報告 平成29年度国立美術館巡回展 「国立西洋美術館所蔵 ミューズ(芸術の女神):まなざしの先の女性たち」	中田明日佳 (主任研究員)	『ZEPHYROS』 第73号	H29.11.20
8	シリーズ〈西美のひとびと〉 学芸課保存修復室 保存修復室の仕事	邊牟木尚美 (研究員)	『ZEPHYROS』 第73号	H29.11.20
9	企画展「日本スペイン外交関係樹立150周年記念 プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光」	川瀬佑介 (主任研究員)	『ZEPHYROS』 第74号	H30.2.20
10	小企画展「マール画廊と20世紀の画家たち—美術雑誌『ダニエル・ル・ミロワール』を中心に」	久保田有寿 (特定研究員)	『ZEPHYROS』 第74号	H30.2.20
11	『松方コレクション 西洋美術全作品目録』	陳岡めぐみ (主任研究員)	『ZEPHYROS』 第74号	H30.2.20
エ 国立国際美術館				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	南大東島への道	橋本梓 (主任研究員)	国立国際美術館ニュース 219号	H29.4.1
2	村岡三郎《酸素—左手を頸動脈に》	福元崇志 (任期付研究員)	国立国際美術館ニュース 219号	H29.4.1
3	追憶の80年代(2)日本美術のアイデンティティをめぐって	安来正博 (主任研究員)	国立国際美術館ニュース 219号	H29.4.1
4	極私的映画と《15日間》	大橋勝 (客員研究員)	国立国際美術館ニュース 220号	H29.6.1
5	ロバート・ラウシェンバーク《至点》	林寿美 (客員研究員)	国立国際美術館ニュース 220号	H29.6.1

6	追憶の80年代(3) 版画にまつわる時代の様相	安來正博 (主任研究員)	国立国際美術館ニュース 220号	H29.6.1
7	館蔵品紹介 荒川修作《言葉のような線》	安來正博 (主任研究員)	国立国際美術館ニュース 221号	H29.8.1
8	所蔵作家インタビュー ログズギャラリー	中井康之 (学芸課長)	国立国際美術館ニュース 222号	H29.10.1
9	小泉明郎《忘却の地にて》	橋本梓 (主任研究員)	国立国際美術館ニュース 222号	H29.10.1
10	追憶の80年代(4) 現代陶芸からクレイワークへ	安來正博 (主任研究員)	国立国際美術館ニュース 222号	H29.10.1
11	安齊重男《原口典之 1970年4月 こどもの国, 神奈川》【館蔵品紹介】	中井康之 (学芸課長)	国立国際美術館ニュース 223号	H29.12.1
12	カヌー, 山から湖へ	橋本梓 (主任研究員)	国立国際美術館ニュース 223号	H29.12.1
13	追憶の80年代(5) 時代様式としてのインスタレーション	安來正博 (主任研究員)	国立国際美術館ニュース 223号	H29.12.1
14	村上三郎《「箱」 個展資料》	福元崇志 (任期付研究員)	国立国際美術館ニュース 224号	H30.2.1
15	開館40周年を迎えて	山梨俊夫 (館長)	国立国際美術館ニュース 224号	H30.2.1

別表 10 館外の学術雑誌, 学会等における調査研究成果の発信

ア 東京国立近代美術館						
(本館)						
A. 学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「絵画に託されたメッセージを読み解く」	「絵画は告発する」展	大谷省吾 (美術課長)	H29.6.10	板橋区立美術館	80
2	「瑛九は現実をいかに捉えようとしたか」	「〈具体〉再考 第2回 1930年代の前後」	大谷省吾 (美術課長)	H29.12.3	大阪大学中之島センター	60
3	「シュルレアリスムと福沢一郎」	「福沢一郎『シュルレアリスム』を読んだ。」	大谷省吾 (美術課長)	H29.12.9	福沢一郎記念館	25
4	「キュレーターと作家」	ゲンオン カオスラウンジ新芸術校	蔵屋美香 (企画課長)	H29.6.18	カオスラウンジ新芸術校	30
5	「コレクションから考える現代美術史」	東京大学「社会を指向する芸術のためのアートマネジメント育成事業」	蔵屋美香 (企画課長)	H29.8.26	東京大学	30
6	「キュレーションを知る」	THINK SCHOOL	蔵屋美香 (企画課長)	H29.9.8	THINK SCHOOL	25
7	シンポジウム「厄災の記憶 その表象可能性」	はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会	蔵屋美香 (企画課長)	H29.10.5	いわきアリオス	50
8	日高理恵子×蔵屋美香	「日高理恵子 空と樹と」展	蔵屋美香 (企画課長)	H29.10.7	ヴァンヂ彫刻庭園美術館	40

9	「Beyond Art Archive」	国際シンポジウム「Archival Turn: East Asian Contemporary Art and Taiwan (1960-1989)」	鈴木勝雄 (主任研究員)	H29.4.9	Taipei Fine Arts Museum	250
10	コメンテータ	日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイブ第3回シンポジウム「戦後日本美術の群声」	鈴木勝雄 (主任研究員)	H29.7.9	東京大学駒場21KOMCEE B1F	120
11	「戸谷成雄作品の裏側を読む」	シンポジウム「彫刻再考：戸谷成雄をめぐる」	鈴木勝雄 (主任研究員)	H29.11.4	武蔵野美術大学美術館	120
12	「Homelessness: “Conceptual Art” in Japan」	日米キュレーター意見交換会	鈴木勝雄 (主任研究員)	H29.12.12	国際交流基金	15
13	「特別企画：美術展と展覧会図録制作の現場から」	国際地域学基礎演習 I	古舘 遼 (任期付研究員)	H29.6.29	東洋大学白山キャンパス	20
14	「東京国立近代美術館の事始と現在」	特別講義	榊田倫広 (研究員)	H30.1.20	京都造形芸術大学 東京・外苑キャンパス	40
15	トークイベント「写真が物語ることは何か：増田玲×松本美枝子」	ガーディアン・ガーデン「松本美枝子：ここがどこだか、知っている。」展トークイベント	増田玲 (主任研究員)	H29.9.14	ガーディアン・ガーデン	54
16	シンポジウム「パフォーマンスと／しての展示」	表象文化論学会第12回大会	三輪健仁 (主任研究員)	H29.7.1	シネマまえばし	60
17	レクチャー	KYOTO EXPERIMENT 提携プログラム「イヴォンヌ・レイナーを巡るパフォーマンス・エキシビジョン」	三輪健仁 (主任研究員)	H29.10.15	京都芸術劇場 春秋座	40
18	シンポジウム：「デイヴィッド・シュリグリーとのトーク，加賀美健を迎えて」	ユミコチバアソシエイツ主催トークイベント	三輪健仁 (主任研究員)	H29.10.31	東京藝術大学	100
19	シンポジウム「再演，再制作，再展示」	「岐阜おおがきビエンナーレ 2017」	三輪健仁 (主任研究員)	H29.12.20	情報科学芸術大学院大学 (IAMAS)	40

B. 雑誌等論文掲載

学術書籍，研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	発行者	発行年月日
1	「ポスト 3.11 の美術—美術と社会はどう関わるべきか」	蔵屋美香 (企画課長)	田中正之編『現代アート 10 講』(武蔵野美術大学出版局)	H29.4.1
2	「樹は確かか—日高理恵子とポール・セザンヌ」	蔵屋美香 (企画課長)	『日高理恵子作品集』(ヴァンジ庭園美術館・NOHARA)	H29.10.5
3	『もっと知りたい 熊谷守一 作品と生涯』	蔵屋美香 (企画課長)	東京美術	H29.12.15
4	「『ルポルタージュ絵画』の変容と六全協のインパクト」	鈴木勝雄 (主任研究員)	坪井秀人編『戦後日本を読みかえる』第2巻(臨川書店)	H30.3.31
5	『見ることの力 20世紀絵画の周縁に』	中林和雄 (副館長)	水声社	H29.6.30

6	「デイヴィッド・シュリグリーのドローイングについて」	三輪健仁 (主任研究員)	『David Shrigley: Really Good』(ユミコチバアソシエイツ)	H29.11.2
【査読有り】論文掲載				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「異文化との出会いと対話」	大谷省吾 (美術課長)	「文化庁新進芸術家海外研修制度 50 周年記念展」図録(日本橋高島屋他)	H29.8.3
2	「手と素材との対話が、作品へと結実していくプロセス」	大谷省吾 (美術課長)	「第 5 回都美セレクショングループ展 記録集」(東京都美術館)	H29.8.31
3	「展覧会図録評: 赤瀬川原平の芸術原論展」	古舘 遼 (任期付研究員)	『比較文學研究』103 号	H29.9.25
4	Whose Portrait Is It?—Tetsumi Kudo's Aesthetic Turnabout in the 1970s	榊田倫広 (研究員)	The Everywhere Studio」展図録(ICA, Miami)	H29.12
【査読無し】論文掲載				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「お父さん、こわいよ、と彼は言う 小泉明郎展「帝国は今日も歌う」展評」	蔵屋美香 (企画課長)	『美術手帖』2017 年 7 月号(美術出版社)	H29.7.1
2	「奈良美智展ができるまで—美術館学芸員座談会」	蔵屋美香 (企画課長)	『ユリイカ』2017 年 8 月臨時増刊号「層特集 奈良美智の世界」(青土社)	H29.7.20
3	「いつ動くの?『今』でしょ Chim↑Pom「Sukurappu ando Birudo プロジェクト 道が拓ける」展評」	蔵屋美香 (企画課長)	『美術手帖』2017 年 11 月号(美術出版社)	H29.11.1
4	「2017 年展覧会ベスト 3」	蔵屋美香 (企画課長)	WEB 版「美術手帖」(美術出版社)	H30.1.6
5	「超ローカル発, 世界行き 小沢剛「不完全—パラレルな美術史」展評」	蔵屋美香 (企画課長)	『美術手帖』2018 年 2 月号(美術出版社)	H30.2.1
6	「美術資料をめぐる回想 稲憲一郎氏に聞く「精神生理学研究所」(1969-70 年)を中心として」	鈴木勝雄 (主任研究員)	『国立新美術館研究紀要』4 号	H29.12.26
7	「精神生理学研究所というオルタナティブ・スペース」	鈴木勝雄 (主任研究員)	『情報科学芸術大学院大学紀要』9 号(情報科学芸術大学院大学)	H30.3
8	作家解説「倉石太次郎」	古舘 遼 (任期付研究員)	「クロージング ネオヴィジョン 新たな広がり」展図録(長野県信濃美術館)	H29.9.16
9	「鳥の声から線, そしてリズムへ」	保坂健二郎 (主任研究員)	『坂上チユキ』作品集(MEM)	H29.7
10	「形をノリコエヨ」 井上有一の制作について	保坂健二郎 (主任研究員)	『井上有一』作品集(リトルモア)	H29.10.18
11	「批評家としての南畷宏」	保坂健二郎 (主任研究員)	『南畷宏 最後の場所—現代美術, 真に歓喜に値するもの』(月曜社)	H29.11.3
12	Editorial Notes (on the Series of Japanese Art Brut)	保坂健二郎 (主任研究員)	『Psychiatry and Clinical Neurosciences』Volume 72, Issue 1	H29.12
13	Works on Michiyo Yaegashi	保坂健二郎 (主任研究員)	『Psychiatry and Clinical Neurosciences』Volume 72, Issue 2	H30.2
14	「JAL プロジェクト「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」2014~2016—3 年間の総括としての「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための課題解決についての提案」」	水谷長志 (主任研究員)	『アート・ドキュメンテーション通信』113 号(アート・ドキュメンテーション学会)	H29.4.25
15	「極私的 MLA 連携論変遷史試稿」	水谷長志 (主任研究員)	『美術フォーラム 21』35 号(醍醐書房)	H29.5.30

16	「JAL プロジェクト「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業」2014-2016-3年間の総括としてのアンサー・シンポジウム及び「提言」への「応答」としての「提案」について」	水谷長志 （主任研究員）	『情報の科学と技術』67巻6号（情報科学技術協会）	H29.6.1
17	作家解説「今井祝雄」	三輪健仁 （主任研究員）	『イメージフォーラム・フェスティバル 2017』（イメージフォーラム）	H29.4.29
その他（研究志向の薄い機関紙，美術雑誌，新聞，ウェブサイト等）の発表				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「東京国立近代美術館の戦争記録画とその周辺」	大谷省吾 （美術課長）	『BankART school いかにか戦争は描かれたか』（BankART 1929）	H29.4.30
2	「近代美術の眼 《文覚》 荻原守衛」	大谷省吾 （美術課長）	『読売新聞』都内版	H29.10.13
3	「カタツムリのかくれんぼ」	蔵屋美香 （企画課長）	『小原流 挿花』2017年12月号（一般財団法人小原流）	H29.12.1
4	特別対談「熊谷守一 生きるよろこび 没後40年の今だから見えてくる真実」	蔵屋美香 （企画課長）	『月刊美術』2017年12月号（実業之日本社）	H29.12.1
5	「没後40年 熊谷守一 生きるよろこび」	蔵屋美香 （企画課長）	『公明新聞』2017年12月13日朝刊（公明党機関紙委員会）	H29.12.13
6	「没後40年 熊谷守一 生きるよろこび」	蔵屋美香 （企画課長）	『新美術新聞』2018年1月21日号（美術年鑑社）	H30.1.21
7	「近代美術の眼 村上華岳『聖者の死のための小下絵』」	鶴見香織 （主任研究員）	読売新聞	H29.6.9
8	「所蔵作品展『MOMAT コレクション』で東山魁夷特集	鶴見香織 （主任研究員）	新美術新聞	H29.9.11
9	「星へのまなざし 日本近代美術より十選」連載	鶴見香織 （主任研究員）	日本経済新聞	H29.11.20, 21,23,24,27, 28,30 H29.12.1,4, 5
10	「近代美術の眼 中村不折《廓然無聖》」	古舘 遼 （任期付研究員）	『読売新聞』都内版	H29.12.8
11	巻頭鼎談：「日本の家」とは何か 伊藤豊雄×塚本由晴×保坂健二郎	保坂健二郎 （主任研究員）	『新建築 住宅特集』376号（新建築社）	H29.8.
12	「『道』を育てる」が意味すること—アーティストならではの新たな都市論	保坂健二郎 （主任研究員）	『10+1』（LIXIL 出版）(Web)	H29.11
13	「かつては絵画を見ることが人生の転機になると信じられていた」	保坂健二郎 （主任研究員）	『BRUTUS』（マガジンハウス）	H29.12
14	隔月連載「美術」	保坂健二郎 （主任研究員）	『すばる』（集英社）	H29.4, 6, 8, 10, 12, H30.2
15	「展覧会の会場構成を建築家と協働することについて」	榊田倫広 （研究員）	『ZENBI 全国美術館会議機関誌』12号	H29.8.1
16	「近代美術の眼 須田一政《「風姿花伝」より 秋田・西馬音内，盆踊り》」	増田玲 （主任研究員）	『読売新聞』都内版	H29.7.14
17	展覧会レビュー「できごとを語る—松本美枝子写真展『ここがどこだか，知っている。』について」	増田玲 （主任研究員）	ガーディアン・ガーデン（ウェブサイト）	H29.10.16
18	「近代美術の眼 椎原治《流氓ユダヤ》」	増田玲 （主任研究員）	『読売新聞』都内版	H30.2.9
19	「書評『専門図書館の役割としごと』」	水谷長志 （主任研究員）	『情報の科学と技術』67巻11号（情報科学技術協会）	H29.11.1
20	「近代美術の眼 パウル・クレー《破壊された村》」	三輪健仁 （主任研究員）	『読売新聞』都内版	H29.9.8
(工芸館)				
A. 学会等発表				

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「『+』から『×』へ:こどもと一緒に工芸鑑賞」	せとうち美術館ネットワーク主催「第9回せとうち美術館サミット・特別講演会」	今井陽子 (主任研究員)	H29.12.17	兵庫県立美術館	220
2	「伝統工芸と硯」	日本の書展45周年記念講演会	唐澤昌宏 (工芸課長)	H29.6.7	名古屋東急ホテル 3F ヴェルサイユ	175
3	「ジョン・メイソンとアメリカ陶芸」	ジョン・メイソン展記念対談	唐澤昌宏 (工芸課長)	H29.7.15	現代美術 舩居	15
4	「陶による造形としての備前焼—細工物と陶彫」	「備前細工物のきのう・きょう・あした」展開連講演会	唐澤昌宏 (工芸課長)	H29.7.23	備前焼伝統産業会館 3階総合研修室	140
5	「辻清明の作陶—明る寂びの美」	辻清明研究会	唐澤昌宏 (工芸課長)	H29.9.30	拓殖大学文京キャンパス 国際教育会館	30
6	公開シンポジウム「陶芸家・辻清明の世界」	辻清明研究会	唐澤昌宏 (工芸課長)	H29.9.30	拓殖大学文京キャンパス 国際教育会館	30
7	「荒川豊蔵作品の魅力—染野コレクションを中心として—」	特別展「染野コレクションより“荒川志野”に見せられて」関連講演会	唐澤昌宏 (工芸課長)	H29.10.15	久々利公民館ホール	46
8	「漆芸のデザインを考える—鑑賞と創造—」	「日本伝統漆芸展」講演会	唐澤昌宏 (工芸課長)	H30.1.11	池袋コミュニティカレッジ	48
9	「工芸の動向—日本と西欧を中心に—」	東京国立近代美術館, 高岡市美術館(公益財団法人高岡市民文化振興事業団), 北日本新聞社主催「工芸の躍動—東京国立近代美術館工芸館名品展」講演会	北村仁美 (主任研究員)	H29.8.26	高岡市美術館	40

B. 雑誌等論文掲載

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	林恭助の作陶—「黄瀬戸」「黒織部」そして「曜変」	唐澤昌宏 (工芸課長)	「林恭助展」図録(廈門博物館)	H29.5
2	平井智のマジョリカ陶「イタロジャポネ・マジョリカ」—色彩と素材の美	唐澤昌宏 (工芸課長)	「平井智展」図録(アトリエ・ヒロ)	H29.9
3	荒川豊蔵の「志野」—染野コレクションから見えてくるもの	唐澤昌宏 (工芸課長)	「荒川豊蔵展」図録(荒川豊蔵資料館)	H29.10
4	伊勢崎晃一朗の作陶—素材と焼成の美	唐澤昌宏 (工芸課長)	伊勢崎晃一朗展」図録(そごう西武)	H29.10
5	白磁の造形—和田的の作陶	唐澤昌宏 (工芸課長)	「和田的展」図録(水戸忠交易)	H29.10
6	武蔵野美術大学 美術館・図書館の陶磁器コレクションから考える「鑑賞」と「創造」	唐澤昌宏 (工芸課長)	「やきものの在処」展図録(武蔵野美術大学 美術館・図書館, 武蔵野美術大学 造形研究センター)	H29.10.10
7	並木恒延の作品に漂う空気感	唐澤昌宏 (工芸課長)	「並木恒延 漆芸展一時を刻む」図録(株式会社和光)	H29.11
8	生命の躍動—神谷紀雄の作陶が示すもの	唐澤昌宏 (工芸課長)	「神谷紀雄 陶展」図録(株式会社三越伊勢丹)	H29.12
9	「新たなる挑戦—伊藤栄傑の無名異焼」	唐澤昌宏 (工芸課長)	「伊藤栄傑作陶展」図録(株式会社三越伊勢丹)	H30.1

10	日本の美を伝える－四代徳田八十吉の作陶	唐澤昌宏 (工芸課長)	「四代徳田八十吉展」図録(大西ギャラリー)	H30.3		
11	「一九世紀後半の英国におけるインテリアの位置」	北村 仁美 (主任研究員)	『a + a 美学研究(11)』 (大阪大学大学院文学研究科 比較デザイン学クラスター)	H29.4		
12	「書評 吉村 典子『ウィリアム・ド・モーガンとヴィクトリアン・アート』」	北村 仁美 (主任研究員)	『デザイン理論』71号(意匠学会)	H30.3		
13	「イケアの『Homemade is Best』」	野見山桜 (客員研究員)	『アイデア』378号(誠文堂新光社)	H29.6.10		
14	「ハーマンミラーのピクニック・ポスター」	野見山桜 (客員研究員)	『アイデア』378号(誠文堂新光社)	H29.6.10		
15	「オトル・アイヒャーのイズニー」	野見山桜 (客員研究員)	『アイデア』380号(誠文堂新光社)	H29.12.10		
16	「片山利弘について」	野見山桜 (客員研究員)	『アイデア』380号(誠文堂新光社)	H29.12.10		
その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等)の発表						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日		
1	「陶匠 辻清明の世界－明る寂びの美－」	唐澤昌宏 (工芸課長)	「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁) (Web)	H29.9.1		
2	「伝統工芸と硯」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『第45回日本の書展記念講演会 講演録』(公益財団法人 全国書美術振興会)	H29.9.1		
3	「中島宏さんを悼む」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『西日本新聞』(西日本新聞社)	H30.3.30		
4	「鼎談: 野見山桜×高橋恒一×林 要－クリエイティビティのあり処を巡って」	野見山桜 (客員研究員)	AXIS, vol.190 (アクシス)	H29.11.1		
(フィルムセンター)						
A. 学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「映画用黒白フィルムの保存性改良に関する研究」	2017年度日本写真学会年次大会	大関勝久 (特定研究員)	H29.6.21	一ツ橋会館	30
2	「デジタル動画の保存について」	iPRES2017	大関勝久 (特定研究員) 岡本直佐 (特定研究員) 三浦和己 (特定研究員) 中西智範 (特定研究員)	H29.9.25	京都大学	200
3	「写真フィルムによるデジタル映画・映像の保存」	学術潮流フォーラム I 人類基礎理論研究部・国際シンポジウム「変容する世界のなかでの文化遺産の保存」	大関勝久 (特定研究員)	H29.10.8	国立民族学博物館	82
4	「アニメの先駆者 大藤信郎」	第10回小田原映画祭	岡田秀則 (主任研究員)	H29.9.23	小田原コロナシネマワールド	80
5	「国産ストップモーション動画史研究の深化に向けて 持永只仁展の経験から」	日本アニメーション学会	岡田秀則 (主任研究員)	H29.11.3	新千歳空港オアシスパーク	30
6	「フィルムセンター 図書室デジタル資料閲覧システム」	code4lib Japan カンファレンス 2017	岡本直佐 (特定研究員)	H29.9.3	熊本学園大学	40
7	「日本アニメーション映画クラシックスの反響と課題」	新千歳空港国際アニメーション映画祭2017 日本アニメーション学会秋の研究集会	岡本直佐 (特定研究員) 木村智哉 (特定研究員)	H29.11.3	新千歳空港	30

8	最初期の「皇室映画」をめぐって：隠される／晒される「身体」	日本映像学会第43回大会	紙屋牧子 (特定研究員)	H29.6.4	神戸大学	50
9	映画史から考える皇室のメディア戦略：皇太子渡欧映画(1921年)を中心に	象徴天皇制研究会	紙屋牧子 (特定研究員)	H29.11.26	立教大学	15
10	「無声期日本映画の「尖端」と映画館における語り・音楽」	公開研究会「無声期の映画館における和洋合奏：楽譜資料「ヒラノ・コレクション」とSPレコード」(早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点・公募研究「楽譜資料を中心とした無声期の映画館と音楽の研究」主催)	紙屋牧子 (特定研究員)	H30.1.13	早稲田大学	200
11	『ジャズ娘誕生』のデジタル復元	高崎映画祭共同企画 Fシネマ・プロジェクト「フィルムでみる・体験する映画 ワークショップと上映会」	大傍正規 (主任研究員)	H30.2.18	高崎電気館	30
12	フィルム・アーカイブの仕事～フィルム・アーキビスト的映画の向き合い方	スパイラルスコレー主催講座「スクリーンに映画がかかるまで」	栩木章 (主幹)	H29.11.26	スパイラル(東京・青山)	30
13	木村白山を招喚する—台湾で見つかった『漫画 砂煙り高田のグラウンド』をきっかけに	日本アニメーション学会歴史研究部会	栩木章 (主幹)	H30.3.3	専修大学神田校舎	30

B. 雑誌等論文掲載

学術書籍，研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	『そっちやない，こっちや 映画監督・柳澤壽男の世界』 編者	岡田秀則 (主任研究員)	新宿書房	H30.2.10
2	『会館芸術 第Ⅱ期 戦中篇 第23巻，24巻』解説	紙屋牧子 (特定研究員)	ゆまに書房	H29.12.1
3	台湾で見つかった戦前日本アニメーション映画—フィルム・アーキビストはどう見たか	栩木章 (主幹)	三澤真美恵(編)『植民地期台湾の映画 発見されたプロパガンダ・フィルムの研究』(東京大学出版会)	H29.8.31

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「デジタル映画を上映する／観ること」	大澤浄 (主任研究員)	『日本映像学会報』第179号 (日本映像学会)	H29.7.1
2	書評「署名はカリガリ 大正時代の映画と前衛主義」	岡田秀則 (主任研究員)	「キネマ旬報」2017年5月下旬号 (キネマ旬報社)	H29.5.6
3	弛緩／硬直する骨，腐敗／蘇生する肉—鈴木清順「浪漫三部作」における裏返る生と死	紙屋牧子 (特定研究員)	『ユリイカ 特集＝追悼・鈴木清順』(青土社)	H29.4.27
4	Limiting Colour Grading for Two-colour Film Restoration. Utilising a Spectroradiometer to Create a Specific LUT	大傍正規 (主任研究員)	Journal of Film Preservation, vol.96, 2017, pp.97-106.	H29.4
5	The Restoration of The Thousand-Stitch Belt (1937): Utilizing Analog and Digital Techniques to Retrieve the Color of a Two-Color System	大傍正規 (主任研究員)	Sustainable Audiovisual Collections Through Collaboration: Proceedings of the 2016 Joint Technical Symposium, pp.54-59.	H29.8

その他(研究志向の薄い機関紙，美術雑誌，新聞，ウェブサイト等)の発表

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	アートダイアリー 043「さまざまな映画のかたち」	大澤浄 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁) (Web)	H30.2.5
2	「デジタル映画の長期保存と活用への取り組み」	大関勝久 (特定研究員)	月刊 IM 2017.5月号(公益社 団法人 日本文書情報マネジ メント協会)	H29.5.1
3	インタビュー「岡田秀則に聞く、「アーキビストの眼で見た映画」	岡田秀則 (主任研究員)	「キネマ旬報」2017年5月下 旬号(キネマ旬報社)	H29.5.6
4	企画協力『小津安二郎』	岡田秀則 (主任研究員)	MUJI BOOKS	H29.6.1
5	「終わらないロマンティック—高木隆太郎氏を悼む」	岡田秀則 (主任研究員)	「SPUTNIK」(山形国際ドク ュメンタリー映画祭)	H29.10.5
6	「クリス・マルケルの不死は私たちの任務である」	岡田秀則 (主任研究員)	『ラ・ジュテ デジタル修復 版』ブックレット(シネフィル WOWOW)	H29.12.8
7	「光ありき、そしてスクリーンありき」	岡田秀則 (主任研究員)	『映画以内、映画以後、映画辺 境』(charm point)	H30.2.18
8	映画フィルムのビネガーシンドローム対策	大傍正規 (主任研究員)	『月刊 IM』2017年8月号(公 益社団法人 日本文書情報マ ネジメント協会)	H29.7.25
9	アートダイアリー035「映画プロデューサー 佐々木史朗」	富田美香 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁) (Web)	H29.6.6.
10	「NFC & MPTE アーカイブセミナー」報告	富田美香 (主任研究員)	『映画テレビ技術』780号(一 般社団法人 日本映画テレビ 技術協会)	H29.8.1.
11	国産アニメーション映画の生誕百周年を迎えて	三浦和己 (特定研究員)	『美術の窓』第405号(生活の 友社)	H29.6.20

イ 京都国立近代美術館

A. 学会等発表

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「見えないものを見えるようにすること、そして考えられるようにすること—美術館でのキュレーション、京都国立近代美術館の場合」	デザイン学特別講義 A(主催:京都工芸 繊維大学)	池田祐子 (主任研究員)	H29.5.15	京都工芸繊維大 学	66
2	コメンテーター「ベルリンのモダニズム—20世紀前半のメトロポリスの表象—」	国際ワークショップ 「ベルリンのモダニ ズム—20世紀前半 のメトロポリスの表 象—」(主催:立命 館大学国際言語文化 研究所)	池田祐子 (主任研究員)	H29.10.14	立命館大学衣笠 キャンパス図書 館カンファレン スルーム	23
3	「Jugendstil and the Japanese in <i>Camera Work</i> : Their Aesthetic Exchanges」	International Conference: Camera Woork – History and Global Reach of An International Art Magazine (organized by Prof. Dr. Bettina Gockel, Dr. Catherine Berger, and the “Camera Work” Team Team)	池田祐子 (主任研究員)	H30.3.9- 11	University of Zurich	60
4	高崎元尚と具体美術協会	高崎元尚新作展 記 念講演会	平井章一 (主任研究員)	H29.7.8	高知県立美術館	50

5	美術鑑賞の新たな可能性を拓く —京都国立近代美術館の挑戦	共同研究会「障害」概念の再検討—触文化論に基づく「合理的配慮」の提案に向けて	松山沙樹 (特定研究員)	H30.3.4	国立民族学博物館	35
6	埼玉 住まい・まちづくり交流展 in みやしろ	一般社団法人 日本建築学会関東支部埼玉支所主催シンポジウム	本橋仁 (特定研究員)	H29.4.15	進修館 (埼玉県宮代町)	150
7	旧本庄商業銀行煉瓦倉庫	一般社団法人 埼玉建築士会 (ヘリテージマネージャー) 養成講習会	本橋仁 (特定研究員)	H29.5.13	旧本庄商業銀行煉瓦倉庫 (埼玉県本庄市)	30
8	旧本庄商業銀行煉瓦倉庫の保存改修 その 1 絹産業からみる 繭担保倉庫の地域的価値	日本建築学会大会 (広島)	本橋仁 (特定研究員)	H29.9.3	広島工業大学	60
9	n (n=natural order) と化する美術・建築のカテゴリ	環境科学セミナー「表現をめぐる建築と芸術の葛藤」	本橋仁 (特定研究員)	H29.10.19	滋賀県立大学	30
10	繭担保倉庫の地域的価値 と活用 のための取り組み	伊勢崎市まちづくり講座	本橋仁 (特定研究員)	H29.11.13	伊勢崎市境公民館	60
B. 雑誌等論文掲載						
学術書籍, 研究報告書等の発行						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日		
1	“Julius Meier-Graefe und Hermann Muthesius. Ein Briefwechsel aus den Entstehungsjahren der Zeitschrift <i>Dekorative Kunst</i>	池田祐子 (主任研究員)	Ingeborg Becker und Stephanie Marchal (hrsg.), <i>Julius Meier-Graefe. Grenzgänger der Künste, Berlin/München: Deutscher Kunstverlag</i>	H29.7		
2	“Afterword: Erotic cloth – the case of <i>kimono</i> ”	池田祐子 (主任研究員)	Alice Kettle and Lesley Millar (eds.), <i>The Erotic Cloth – Seduction and Fetishism in Textiles, London: Bloomsbury Publishing</i>	H30.2.8		
3	感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 平成 29 年度実施報告書	牧口千夏 (主任研究員) 松山沙樹 (特定研究員) 本橋仁 (特定研究員)	新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業実行委員会 (実施中核館: 京都国立近代美術館)	H30.3.30		
4	地方銀行の製糸金融と繭担保倉庫の発生—明治二九年竣工 旧本庄商業銀行煉瓦倉庫建設過程からみる地域産業 発達の近代的特質—	本橋仁 (特定研究員)	早稲田大学	H29.7.20		
【査読有り】論文掲載						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日		
1	明治中期 煉瓦造建造物における煉瓦組積部と木造軸組部の関係	本橋仁 (特定研究員)	日本建築学会計画系論文集 82 巻 734 号	H29.4		
2	旧帝国ホテルの解体から移築に関する研究(その 1)明石 信道研究室による解体時調査と解体材料及び復原材料に関する 考察	本橋仁 (特定研究員)	日本建築学会技術報告集 82 巻 734 号	H29.6		
【査読無し】論文掲載						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日		

1	「公募展にみる日本陶芸界の現状」	大長智広 (任期付研究員)	『2017 アジア現代陶芸展』 (アジア現代陶芸展実行委員会)	H29.8.31		
2	時間の倉庫 日本庄商業銀行煉瓦倉庫	本橋仁 (特定研究員)	『新建築』(新建築社)2017 年6月号	H29.6		
3	コンクリートの審判台(すごい○○!第2回)	本橋仁 (特定研究員)	『建築雑誌』(日本建築学会) 2018年2月号	H30.2		
その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等)の発表						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日		
1	「岡本神草の時代」展	小倉実子 (主任研究員)	『公明新聞』	H29.11.15		
2	「新傾向的美人画」登場-岡本神草《口紅》	小倉実子 (主任研究員)	『美術の窓』389号(生活の友社)	H30.2.20		
3	「日本における工芸概念の誕生と展開,そして現在」	大長智広 (任期付研究員)	『CRAFT + DESIGN 2017 09 + 10』(Korea Craft&Design Foundation)	H29.9.30		
4	反転する絵画・世界・空間	平井章一 (主任研究員)	『今井祝雄 余白の起源』 (ART OFFICE OZASA)	H29.9.2		
5	「二人の画家はイタリアに何を見て,何を得たのか」	平井啓修 (研究員)	『月刊美術』503号 (サン・アート)	H29.7.20		
6	アートダイアリー037 「絹谷幸二 色彩とイメージの旅」	平井啓修 (研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁)(Web)	H29.8.7		
7	「平和な未来を見据える想い」	平井啓修 (研究員)	『新美術新聞』No.1448 (美術年鑑社)	H29.8.21		
8	「絹谷幸二《蒼の風跡》」(作品紹介)	平井啓修 (研究員)	『毎日新聞』朝刊	H29.9.6		
9	「絹谷幸二《アンジェラと蒼い空II》」(作品紹介)	平井啓修 (研究員)	『毎日新聞』朝刊	H29.9.7		
10	「絹谷幸二・絹谷香菜子《生命輝く》」(作品紹介)	平井啓修 (研究員)	『毎日新聞』朝刊	H29.9.12		
11	「絹谷芸術の深奥」	平井啓修 (研究員)	『アートコレクターズ』93号 (生活の友社)	H29.9.25		
12	成熟に向かう若い香り 作品「西明石の家」設計 竹原義二	本橋仁 (特定研究員)	『TOTO通信』(TOTO)2017 春号	H29.4		
13	町家の奥まで,人を引き込む 作品「クラシキクラフトワークビレッジ」設計 檜村徹	本橋仁 (特定研究員)	『TOTO通信』(TOTO)2017 秋号	H29.10		
14	特別対談 柳原正樹×絹谷幸二 「色彩とイメージの旅」展について語る	柳原正樹 (館長)	新美術新聞(株式会社美術年鑑社)	H29.8.9		
15	美との出会い	柳原正樹 (館長)	幼児教育じほう (全国国公立幼稚園・こども園長会)	H29.10		
16	京都でのふたつの企画	柳原正樹 (館長)	新美術新聞(株式会社美術年鑑社)	H29.11.25		
17	「工芸」って何でしょう	柳原正樹 (館長)	北國新聞(北國新聞社)	H29.11.29		
18	桜をめぐる	柳原正樹 (館長)	『美術京都』(公益財団法人中 信美術奨励基金)	H30.2		
ウ 国立西洋美術館						
A. 学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「高速液体クロマトグラフ質量分析装置を用いたカラーゲンマーカーペプチドによる膠の由来動物種の同定」	文化財保存修復学会 第39回大会	高嶋美穂 (研究補佐員)	H29.7.2	金沢歌劇場	500
2	「齊藤富蔵作品に使用された膠着剤の同定」	文化財保存修復学会 第39回大会	高嶋美穂 (研究補佐員)	H29.7.2	金沢歌劇場	500

3	Ongoing research on the mortars and adhesives used in the Khufu Second Boat	Science of Ancient Egyptian Materials and Technologies, International Conference	高嶋美穂 (研究補佐員)	H29.11.5	Cairo, Egypt	400
4	「美術館の所蔵作品を活用した探求的な鑑賞教育プログラムの開発-フィンランド・デンマーク海外調査の報告」	美術科教育学会	寺島洋子 (主任研究員)	H30.3.30	滋賀教育大学	40
5	「ナビ派と浮世絵版画」	一橋大学博物館研究会主催シンポジウム「ナビ派の現在」	袴田紘代 (研究員)	H29.5.15	一橋大学国立東キャンパス	35
6	「ゴッホとナビ派における北斎受容」	ジャポニスム学会, 国立西洋美術館主催「北斎とジャポニスム」展講演会	袴田紘代 (研究員)	H30.1.13	国立西洋美術館講堂	55
7	「北斎とジャポニスム」	監査懇話会第736回講演会	馬淵明子 (館長)	H29.4.26	日比谷図書文化館大ホール	100
8	「北斎とジャポニスム」	文芸文化特講	馬淵明子 (館長)	H29.5.11	十文字学園女子大学新座キャンパス	230
9	「北斎とジャポニスム」	学術交流研究事業講演会	馬淵明子 (館長)	H29.6.3	日本女子大学西生田キャンパス	400
10	〈北斎とジャポニスムⅠ〉「ウクサイ/ホフクサイ-北斎はどのようにして西洋に知られたのか?」	東京美術クラブ公開美術講座第1回	馬淵明子 (館長)	H29.11.4	東京美術倶楽部	80
11	「北斎とジャポニスム」	学会会午餐会	馬淵明子 (館長)	H29.11.20	学会会館	210
12	「北斎とジャポニスム ～ HOKUSAI が西洋に与えた衝撃～」	シルバーカレッジ	馬淵明子 (館長)	H29.11.24	国立西洋美術館講堂	120
13	「北斎とジャポニスム」	かすみがせき婦人会美術クラブ講演会	馬淵明子 (館長)	H29.11.29	国立西洋美術館講堂	140
14	〈北斎とジャポニスムⅡ〉「北斎を学んだ人々-ジャポニスムの誕生と展開」	東京美術クラブ公開美術講座第2回	馬淵明子 (館長)	H29.12.9	東京美術倶楽部	70
15	「北斎とジャポニスム」	同友クラブ「美術鑑賞会」	馬淵明子 (館長)	H30.1.12	国立西洋美術館	99
16	「北斎はどのようにして西洋に知られたか」	ジャポニスム学会	馬淵明子 (館長)	H30.1.13	国立西洋美術館	58
B. 雑誌等論文掲載						
学術書籍, 研究報告書等の発行						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日		
1	『日本美術年鑑』平成28年版	飯塚隆 (主任研究員)	独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所	H30.3.25		
2	『松方コレクション 西洋美術全作品 第1巻 絵画』	飯塚隆 (主任研究員)	平凡社	H30.3.28		
3	『松方コレクション 西洋美術全作品 第1巻 絵画』	川口雅子 (主任研究員)	平凡社	H30.3.28		
4	『もっと知りたい ベラスケス』	川瀬佑介 (主任研究員)	東京美術	H30.1.30		
5	『松方コレクション 西洋美術全作品 第1巻 絵画』	川瀬佑介 (主任研究員)	平凡社	H30.3.28		
6	「『あるべき』女児用人形とは何か——「妊娠」した女児用人形をめぐる」	吉良智子 (リサーチ・フェロー)	山崎明子・藤木直実(編著) 『〈妊婦〉アート論』(青弓社)	H30.1.27		

7	Gallery Talk 「美術史と画商」	陳岡めぐみ (主任研究員)	集英社/山梨俊夫責任編集共著 『Art Gallery テーマで見る 世界の名画 風景画 自然と の対話と共感』	H29.11.20
8	Gallery Talk 「額縁の意味」	陳岡めぐみ (主任研究員)	集英社/小池寿子責任編集 『Art Gallery テーマで見る 世界の名画 宗教画 聖なる ものへの祈り』	H29.11.20
9	Gallery Talk 「芸術家伝説」	陳岡めぐみ (主任研究員)	集英社/高橋明也責任編集 『Art Gallery テーマで見る 世界の名画 風俗画 日常へ のまなざし』	H30.2.15
10	『松方コレクション 西洋美術全作品 第1巻 絵画』	陳岡めぐみ (主任研究員)	平凡社	H30.3.28
11	『松方コレクション 西洋美術全作品 第1巻 絵画』	新藤淳 (研究員)	平凡社	H30.3.28
12	『松方コレクション 西洋美術全作品 第1巻 絵画』	中田明日佳 (主任研究員)	平凡社	H30.3.28
13	『松方コレクション 西洋美術全作品 第1巻 絵画』	袴田紘代 (研究員)	平凡社	H30.3.28
14	『舞台の上のジャポニスム 演じられた幻想の〈日本女性〉』	馬淵明子 (館長)	NHK 出版	H29.9.25
15	『松方コレクション 西洋美術全作品 第1巻 絵画』	馬淵明子 (館長)	平凡社	H30.3.28
16	『西洋美術の歴史 8 20世紀 越境する現代美術』	村上博哉 (副館長兼学芸課長)	中央公論新社	H29.5.31
17	『松方コレクション 西洋美術全作品 第1巻 絵画』	村上博哉 (副館長兼学芸課長)	平凡社	H30.3.28
18	『ヴィーナス 豊穡なる愛と美の女神』	渡邊晋輔 (主任研究員)	集英社	H29.9.30
19	Gallery Talk 「マスメディアとしての肖像」	渡邊晋輔 (主任研究員)	集英社/大高保二郎責任編集 『Art Gallery テーマで見る 世界の名画 肖像画 姿とこ ころ』	H29.9.30
20	Gallery Talk 「古代彫刻と修復」	渡邊晋輔 (主任研究員)	集英社/中野京子責任編集 『Art Gallery テーマで見る 世界の名画 スード かぐわ しき夢』	H30.1.20
21	Gallery Talk 「描かれた楽器」	渡邊晋輔 (主任研究員)	集英社/木島俊介責任編集 『Art Gallery テーマで見る 世界の名画 静物画 静かな 物への愛着』	H30.2.15
22	『松方コレクション 西洋美術全作品 第1巻 絵画』	渡邊晋輔 (主任研究員)	平凡社	H30.3.28
【査読有り】論文掲載				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「酵素結合免疫吸着法 (ELISA) による美術作品中の蛋白質及び植物ガムの同定」	高嶋美穂 (研究補佐員)	文化財保存修復学会誌 61	H30.3.30
【査読無し】論文掲載				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	ジョルジュ・ド・ラ・トゥールのカラヴァッジスム受容に関する研究——「炎に息を吹きかける少年」の図像を中心に——	秋元優季 (研究補佐員)	『鹿島美術研究』(年報第34号別冊)	H29.11.15
2	「美術作品の来歴を物語る記録資料：『デジタルアーカイブ』の国際化に向けて」	川口雅子 (主任研究員)	『美術フォーラム 21』35号	H29.5.30

3	「ハワイ・アリゾナ記念碑における日本の表象とジェンダー」	吉良智子 (リサーチ・フェロー)	『ジェンダー史学』第13号 (ジェンダー史学会)	H29.10.20		
4	「50年後の新人を待ちながら—はじめての選考所感」	新藤淳 (研究員)	『シェル美術賞展 2017』(昭和シェル石油)	H29.12		
5	「木戸修の彫刻 みえないものを展示する」	馬淵明子 (館長)	『退任記念 木戸修展 SPIRAL—螺旋の軌跡』(木戸修)	H29.11.16		
6	“Un selvaggio a corte: l'irsuto Gonzalez e la cultura cortigiana”	渡邊晋輔 (主任研究員)	Arcimboldo (Skira)	H29.10		
その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等)の発表						
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日		
1	「ブラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光」	川瀬佑介 (主任研究員)	『うえの』707号(上野のれん会)	H30.3.1		
2	「ブラド美術館展 関連コンサートに寄せて」	川瀬佑介 (主任研究員)	『東京・春・音楽祭 2018年プログラム』(東京・春・音楽祭)	H30.3.15		
3	書評「キッズファイヤー・ドットコム」	吉良智子 (リサーチ・フェロー)	『中日新聞』『東京新聞』	H29.9.24		
4	「謎とき美術鑑賞 ジュゼッペ・アルチンボルド《水》」	久保田有寿 (特定研究員)	『一個人』6月号 No.201 (KKベストセラーズ)	H29.5		
5	アートダイアリー「シャセリオー展—19世紀フランス・ロマン主義の異才」	陳岡めぐみ (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」 2017年4月号(文化庁)WEB	H29.4.12		
6	「シャセリオー展—19世紀フランス・ロマン主義の異才」	陳岡めぐみ (主任研究員)	『美術の窓』2017年5月号 (生活の友社)	H29.4.20		
7	「アーティストは別の言語の夢を見る」(笹岡由梨子「command X」展レビュー)	新藤淳 (研究員)	『美術手帖』2017年11月号 (美術出版社)	H29.10.17		
8	「グローバル・アート・ヒストリー」「グローバル化の危機」「キュレーターとしてのアーティスト」「マーケットへの抵抗」(美術批評と動向 欧米編)	新藤淳 (研究員)	『美術手帖』2017年12月号 (美術出版社)	H29.11.17		
9	「コンテンポラリー・アートとは何か」(大森俊克, 沢山遼, 星野太各氏との座談会記録)	新藤淳 (研究員)	『美術手帖』2017年12月号 (美術出版社)	H29.11.17		
10	「2017年展覧会ベスト3」	新藤淳 (研究員)	『美術手帖』Web版	H29.12.30		
11	「描かれてきた多様な女性像」	中田明日佳 (主任研究員)	秋田魁新報	H.29.8.23		
12	「東西の共演が生み出すダイナミズム」	袴田紘代 (研究員)	『版画芸術』177号(阿部出版)	H29.9.1		
13	タイトル無(「金曜名作館」)	袴田紘代 (研究員)	『しんぶん赤旗』	H29.11.24		
14	タイトル無(「ぎやらりいモール」)	袴田紘代 (研究員)	『読売新聞』夕刊	H29.12.26		
15	アートダイアリー 041「北斎とジャポニスム HOKUSAIが西洋に与えた衝撃」	馬淵明子 (館長)	「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁)(Web)	H29.12.5		
16	「スケーエン—デンマークの芸術家村」	村上博哉 (副館長兼学芸課長)	『うえの』697号(上野のれん会)	H29.5.1		
17	全美フォーラム「世界遺産登録から1年」	村上博哉 (副館長兼学芸課長)	『ZENBI』12号(全国美術館会議)	H29.8.1		
18	「アルチンボルド展」	渡邊晋輔 (主任研究員)	『うえの』698号(上野のれん会)	H29.6.1		
19	「ルーベンス展—バロックの誕生」	渡邊晋輔 (主任研究員)	『美術の窓』2018年2月号 (生活の友社)	H30.2.20		
エ 国立国際美術館						
A. 学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)

1	「やなぎみわアーティストトーク」	開館 25 周年記念 MIMOCA コレクション じつはいろいろあるんです	植松由佳 (主任研究員)	H29.4.22	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館ミュージアムホール	170
2	「メディアアートのアーカイブ：記録・保存・修復の諸問題」	京都文化博物館主催 創造のためのアーカイブ パネルディスカッション	植松由佳 (主任研究員)	H29.9.30	京都文化博物館 フィルムシアター	50
3	「展示の機会を利用した作品保存への取り組み 国立国際美術館 事例報告」	公開シンポジウム 「美術館と現代美術 作品展示と保存」	小川絢子 (特定研究員)	H29.12.23	福岡アジア美術館	55
4	「美術館における現代美術の保存と修復」	H29 年度東文研・文化財情報資料部第 11 回研究会	小川絢子 (特定研究員)	H30.1.30	東京文化財研究所	30
5	「現代美術の保存修復の責務と倫理」	シンポジウム「過去の現在の未来 2 キュレーションとコンサベーション その原理と倫理」京都市立芸術大学 芸術資源研究センター主催	中井康之 (学芸課長)	H29.11.23	兵庫県立美術館 ミュージアムホール	150

B. 雑誌等論文掲載

学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	“Phases of Jiro Takamatsu's work”, in <i>Jiro Takamatsu</i>	中西博之 (主任研究員)	Inventory Press / Kayne Griffin Corcoran	H29
2	「コンセプトが前景化するとき——コースから始める」(『現代アート 10 講』田中正之 (編) (共著))	橋本梓 (主任研究員)	武蔵野美術大学出版局	H29.4.1

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「パラモデルと「ミニマル・アート」」	中井康之 (学芸課長)	『パラモデル パラ基準と変調』(公益財団法人 入善町文化振興財団)	H30.3
2	「資料の原野を愚直に進むこと」	橋本梓 (主任研究員)	『芸術批評誌リア 39 号』リア制作室	H29.4.17
3	「横尾忠則にとってのポスターとは」	安來正博 (主任研究員)	『アイデア』(誠文堂新光社)	H29.12.10
4	Kwak Duck-Jun's Challenge, 1960's Paintings	安來正博 (主任研究員)	「Kwak Duck-Jun Paintings of the 1960s –A Piercing Gaze」展図録 (韓国, ギャラリー現代)	H30.1.10

その他 (研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等) の発表

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	アートダイアリー 開館 40 周年記念展「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」	植松由佳 (主任研究員)	文化庁広報誌ぶんかる (Web)	H30.1.10
2	キュレーターズノート 「裏声で歌へ」	中井康之 (学芸課長)	「artscape」(大日本印刷株式会社) (Web)	H29.5.15
3	「西川茂の絵画 その抽象表現に見る生々流転」	中井康之 (学芸課長)	「西川茂展 under construction or destruction」リーフレット (Gallery OUT of PLACE, 東京)	H29.6
4	キュレーターズノート 「山本理恵子「空白の頁」, 吉岡千尋「sub rosa」」	中井康之 (学芸課長)	「artscape」(大日本印刷株式会社) (Web)	H29.8.15

5	キュレーターズノート 「合目的的不毛論」	中井康之 (学芸課長)	「artscape」(大日本印刷株式会社)(Web)	H29.12.15
6	「小松純の土の造形」	中井康之 (学芸課長)	「小松純展」リーフレット (ギャラリー白, 大阪)	H29.12
7	トピックス 「現代美術展から見る図書館の現在—DOMANI・明日展 PLUS X 日比谷図書文化館」	中井康之 (学芸課長)	「artscape」(大日本印刷株式会社)(Web)	H30.1.15
8	アートダイアリー 「ライアン・ガンダー —この翼は飛ぶためのものではない」	中西博之 (主任研究員)	文化庁広報誌ぶんかる (Web)	H29.5.12
9	「見上げる彫刻 新宮晋の宇宙船」	福元崇志 (任期付研究員)	『大阪日日新聞』	H29.5.23

オ 国立新美術館

A. 学会等発表

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「シュルレアリスムのイメージの拡張:サルバドール・ダリを中心に」	早稲田大学総合人文科学研究センター研究部門「イメージ文化史」主催「シュルレアリスム美術を考える会」企画 第1回シンポジウム「もしもシュルレアリスムが美術だとしたら？」	小山祐美子 (研究補佐員)	H29.12.16	早稲田大学	100
2	近現代日本のセメント美術	一般社団法人セメント協会理事会	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	H29.10.26	鉄鋼会館	60
3	学校に設置された二宮金次郎像の消長	学校と文化資源	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	H30.3.17	東京大学	15
4	昭和10年代の「抽象芸術」をめぐる言説...『シュルレアリスム』第5章をめぐって	緊急報告会 福沢一郎『シュルレアリスム』(1937)を読んできた。	谷口英理 (特定研究員)	H29.12.9	福沢一郎記念館	21
5	「前衛美術と日本的なもの—長谷川三郎を中心に」	ミニ・シンポジウム「モダニズムと日本的なもの」	谷口英理 (特定研究員)	H30.2.3	三重県立美術館	80
6	「新興写真運動における印刷表現としての写真の可能性」	トーク「新興写真とはなんだったのか」	谷口英理 (特定研究員)	H30.3.17	東京都写真美術館	63
7	任意波長を持つ階段関数系による絵画画像の色彩変化の計量の試み	日本色彩学会 平成29年度研究会大会 6研究会合同研究発表会	室屋泰三 (主任研究員)	H29.11.25	椋山女学園大学	40
8	再帰的2分割による任意波長を持つ階段関数系の構成の試み	日本色彩学会画像色彩研究会平成28年度研究発表会	室屋泰三 (主任研究員)	H30.2.24	国立新美術館	10
9	What was happening at the Fashion Shows in Japan in the 1950s and 60s? --focusing on Chiyo Tanaka	「Art in Fashion, Fashion in Art」	本橋弥生 (主任研究員)	H30.3.4	国立新美術館 研修室 AB	30

B. 雑誌等論文掲載

学術書籍, 研究報告書等の発

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「視覚文化史における『光画』とその周辺 その領域横断性の意義」	谷口英理 (特定研究員)	東京都写真美術館編『『光画』と新興写真』(国書刊行会)	H30.3

【査読有り】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「近代日本の記念碑再考：鉄筋コンクリートの観点から」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『文化資源学』第15号(文化資源学会)	H29.7
2	「臨時セメント美術教室：東京芸術大学所蔵の資料を手がかりとして」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『近代画説』第26号(明治美術学会)	H29.12
3	「ギュスターヴ・クールベ作「海の風景画」の政治性——一八六〇年代フランスにおける海景画の展開」	高野詩織 (研究補佐員)	『言語社会』12号(一橋大学大学院言語社会研究科)	H30.3
【査読無し】論文掲載				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	沖潤子「月と ^{さなぎ} 蛹」展 作家作品解説	小野寺奈津 (特定研究員)	第11回 shiseido art egg 展カタログ(資生堂 企業文化部)	H29.10.13
2	「戦後美術関係資料の収集・受入れに関する考察—“資料群の断片”ではなく“アーカイブズ資料“へ”」	谷口英理 (特定研究員)	『美術フォーラム 21』35号(醍醐書房)	H29.5
3	作家解説3点	中江花菜 (研究補佐員)	『ブラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光』展図録(国立西洋美術館)	H30.2
4	「研究ノート：ジュゼッペ・マリア・クレスピの初期活動—模写制作を通じた再考—」	中江花菜 (研究補佐員)	『Aspects of problems in Western art history』(東京藝術大学西洋美術史研究室)	H30.3
5	「ドイツにおける美術館、クンストハレ、クンストフェアアインについて」	長屋光枝 (学芸課長)	『博物館研究』平成29年9月号(公益財団法人日本博物館協会)	H29.9
その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等)の発表				
	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「ギャラリストとしてのクリスチャン・ディオールとシュルレアリスム 「クリスチャン・ディオール 夢のクチュリエ」展」	小山祐美子 (研究補佐員)	『Repre 表象文化論学会ニュースレター』第31号(表象文化論学会) (Web)	H29.11
2	「ジョジョの世界観の一端を担う特別な場所で 「荒木飛呂彦原画展 ジョジョ展 in S 市杜王町 2017」 展覧会レビュー」	小山祐美子 (研究補佐員)	『文化庁メディア芸術カレントコンテンツ』, (文化庁)	H29.11
3	「ファッションとテクノロジーが日常の不可視な部分を可視化する ANREALAGE EXHIBITION “A LIGHT UN LIGHT” 展覧会レビュー」	小山祐美子 (研究補佐員)	『文化庁メディア芸術カレントコンテンツ』, (文化庁)	H30.1
4	【書評】「深井晃子『きものとジャポニスム 西洋の眼が見た日本の美意識』」	小山祐美子 (研究補佐員)	『Repre 表象文化論学会ニュースレター』第32号(表象文化論学会) (Web)	H30.2
5	「ティン・リン—9x9 フィートの独房で獲得した自由」	喜田小百合 (アソシエイトフェロー)	国際交流基金アジアセンター『特集記事』 (Web)	H30.1.26
6	「セメント美術の足跡をたどる [第1回]セメント美術の誕生」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『セメント・コンクリート』No.843(セメント協会)	H29.5.10
7	「セメント美術の足跡をたどる [第2回]セメント美術の普及」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『セメント・コンクリート』No.844(セメント協会)	H29.6.10
8	「セメント美術の足跡をたどる [第3回]セメント美術の隆盛」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『セメント・コンクリート』No.845(セメント協会)	H29.7.10
9	「セメント美術を語る① セメント美術とは何か」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『コンクリート新聞』第2409号(コンクリート新聞社)	H29.7.20
10	「セメント美術の足跡をたどる [第4回]セメント美術の戦後」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『セメント・コンクリート』No.846(セメント協会)	H29.8.10
11	「セメント美術を語る② イギリスの絶滅動物彫刻」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『コンクリート新聞』第2412号(コンクリート新聞社)	H29.8.10
12	「セメント美術を語る③ ドイツの古生物彫刻」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『コンクリート新聞』第2417号(コンクリート新聞社)	H29.9.21
13	「セメント美術を語る④ 名古屋の恐竜彫刻」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『コンクリート新聞』第2421号(コンクリート新聞社)	H29.10.19

14	「セメント美術の足跡をたどる／番外編[第 1 回]ヨーロッパのセメント美術」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『セメント・コンクリート』 No.849 (セメント協会)	H29.11.10
15	「セメント美術を語る⑤ 在野の作り手たち」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『コンクリート新聞』第 2425 号 (コンクリート新聞社)	H29.11.16
16	「セメント美術の足跡をたどる／番外編[第 2 回]アメリカのセメント美術」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『セメント・コンクリート』 No.850 (セメント協会)	H29.12.10
17	「セメント美術を語る⑥ セメント製の仏像」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『コンクリート新聞』第 2430 号 (コンクリート新聞社)	H29.12.21
18	「C のイメージ 90 コンクリート名所案内 特別編 日本工業倶楽部・屋上セメント像《男女職工》」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『セメント・コンクリート』 No.851 (セメント協会)	H30.1.10
19	「セメント美術を語る⑦ 東京大学の博士像」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『コンクリート新聞』第 2433 号 (コンクリート新聞社)	H30.1.18
20	「セメント美術を語る⑧ タイムカプセル」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『コンクリート新聞』第 2437 号 (コンクリート新聞社)	H30.2.15
21	「セメント美術を語る⑨ 臨時セメント美術教室」	坂口英伸 (アソシエイトフェロー)	『コンクリート新聞』第 2441 号 (コンクリート新聞社)	H30.3.15
22	「収集アーカイブズと戦後美術関係資料—日本の美術館の現状をめぐって—」	谷口英理 (特定研究員)	『芸術批評誌 REAR』39 号 (リア制作室)	H29.3
23	「ジャコモッティ展」	長屋光枝 (学芸課長)	『朝日新聞』	H29.6.10
24	「ルーヴル全 8 部門が総力を結集！古代から 19 世紀まで、約 110 点の肖像の傑作が一堂に」	宮島綾子 (主任研究員)	『美術の窓』No. 413 (生活の友社)	H30.2.20
25	「アルフォンス・ミュシャ—《スラヴ叙事詩》への軌跡」	本橋弥生 (主任研究員)	『BM』(Vol. 43) (美術の杜社 出版)	H29.4
26	「アルフォンス・ミュシャ《スラヴ叙事詩》」	本橋弥生 (主任研究員)	『しんぶん赤旗』(日本共産党 中央委員会)	H29.5.12
27	「MIYAKE ISSEY 展：三宅一生の仕事」のデザインについて」	本橋弥生 (主任研究員)	『ZENBI 全国美術館会議機 関紙 Vol.12』(全国美術館会 議)	H29.8
28	「安藤忠雄展—挑戦—」	本橋弥生 (主任研究員)	『ぶんかる』(文化庁)	H29.9
29	「崇高でリアルな創造 映画『ドリス・ヴァン・ノッテン ファブリックと花を愛する男』」	本橋弥生 (主任研究員)	『美術手帖 2018 年 1 月号』 (美術出版社)	H29.12
30	「展覧会開催の裏側～学芸員の仕事と魅力～」	本橋弥生 (主任研究員)	『時報・市町村教委』No. 272 (全国市町村教育委員会連合 会)	H30.1
31	「国立新美術館 開館 10 周年記念シンポジウム 展覧 会とマスメディア『アーカイヴ再考』—現代美術と美術館 の新たな動向」	横山由季子 (アソシエイトフェロー)	『Repre 表象文化論学会ニ ュースレター』第 30 号 (表象 文化論学会) (Web)	H29.7
32	「『小野冬黄 展開』『ペパクラ』」	横山由季子 (アソシエイトフェロー)	『芸術批評誌 REAR』第 40 号 (リア制作室)	H29.10
33	「ジャコモッティの生の痕跡 映画『ロダン カミーユと 永遠のアトリエ』レビュー」	横山由季子 (アソシエイトフェロー)	『美術手帖』第 69 号 (美術出 版社)	H30.1
34	「ジャコモッティの生の痕跡」	横山由季子 (アソシエイトフェロー)	『映画「ジャコモッティ 最 後の肖像」劇場パンフレット』 (東宝ステラ出版部)	H30.1
35	「Artist Interview ジャネット・カーディフ&ジョージ・ ビュレス・ミラー」	横山由季子 (アソシエイトフェロー)	『美術手帖』第 70 号 (美術出 版社)	H30.1
36	「ジャコモッティ展 国立新美術館 関連イベント」	横山由季子 (アソシエイトフェロー)	『Repre 表象文化論学会ニ ュースレター』第 32 号 (表象 文化論学会) (Web)	H30.2
37	「イ・ウォノのオブジェクト」	米田尚輝 (研究員)	『イ・ウォノのオブジェクト』 ユミコチバアソシエイツ	H29.4.28
38	「建築ドローイングとは何か？—「紙の上の建築 日本 の建築ドローイング 1970s - 1990s」展」	米田尚輝 (研究員)	『アートスケープ』(Web)	H30.1.15

別表 11 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

ア 東京国立近代美術館			
(工芸館)			
セミナー・シンポジウム名	第 11 回工芸作品鑑賞研究会	開催年月日	平成 29 年 7 月 1 日 (土)
場所	東京国立近代美術館工芸館 会場	聴講者数	48 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	今井陽子(東京国立近代美術館工芸課主任研究員), 西岡梢(東京国立近代美術館工芸課研究補佐員)		
内容	所蔵作品展「調度♡ハッピーのかたち」出品作を中心に, 児童生徒の発達段階に応じた工芸鑑賞の可能性について検証。		
(フィルムセンター)			
セミナー・シンポジウム名	NFC & MPTE アーカイブセミナー	開催年月日	平成 29 年 5 月 13 (土) - 14 日 (日), 18 日 (木), 20 日 (土)
場所	フィルムセンター小ホール	聴講者数	274 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	<p>第 1 回 2017 年 5 月 13 日 (土) 3:15pm テーマ: コニカラー映画『ジャズ娘誕生』[デジタル復元版]について 講師: 木村栄二 (JDCF Japan Digital Cinema Forum), 三浦和己 (NFC), モデレーター: 大傍正規 (NFC)</p> <p>第 2 回 2017 年 5 月 14 日 (日) 3:15pm テーマ: 『時をかける少女』[再タイミング版] -映画の色彩を決めるタイミング技術とその継承- 講師: 鈴木美康 (NFC), 益森利博 (株式会社 IMAGICA ウェスト, タイミングマン), モデレーター: 大傍正規 (NFC)</p> <p>第 3 回 2017 年 5 月 18 日 (木) 3:15pm テーマ: 「続: 映画音響制作の進化と将来 (光学サウンドトラックのデジタル化: Dolby Stereo 編)」 講師: 河東努 (コンチネンタルファーイースト株式会社ドルビーフィルム製作部 課長) 技術協力: 石井秀明 (株式会社東宝スタジオサービス ポストプロセンター)</p> <p>第 4 回 2017 年 5 月 20 日 (土) 3:15pm テーマ: 二色式カラー映画『千人針』のデジタル復元 -グレーディングを制限するという新たなアプローチ- 講師: 長谷川智弘 (株式会社 IMAGICA, カラーマネジメントアドバイザー), モデレーター: 大傍正規 (NFC)</p>		
内容	一般社団法人 日本映画テレビ技術協会と共催で開催したアーカイブ関係者向けの技術セミナー。フィルム映画を適正に保存し映画文化を継承していくうえで必要な, 公開当時のオリジナルの色彩と音をテーマに据え, その保存と再現の問題を 4 回にわけて考察した。		
セミナー・シンポジウム名	ノンフィルム資料の保存と修復	開催年月日	平成 29 年 8 月 25 日 (金)
場所	東京国立近代美術館フィルムセンター 会議室等	聴講者数	20 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	担当: 岡田秀則(東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員) 資料修復講師: 高田かおる, 伊藤美樹(株式会社資料保存器材)		
内容	フィルムセンターの所蔵映画資料を解説するとともに収蔵庫・図書室の見学を実施, 後半では修復専門家の指導を得て資料修復を実地に体験する講習会を行った。		

セミナー・シボジウム名	NFC アーカイブセミナー	開催年月日	平成 30 年 2 月 9 (金) -10 日 (土) , 16 (金) -17 日 (土)
場所	フィルムセンター小ホール	聴講者数	240 人
講師・パネリスト等の氏名 (職名)	<p>第 1 回 2018 年 2 月 9 日 (金) 4 : 45pm ~ [6 : 45pm 終了予定] テーマ : 阿部正直コレクションの復元 ~コダカラーと 17.5mm を中心に~ 講師 : 柴田幹太 (株式会社 IMAGICA ウェスト) , 野原あかね (株式会社 IMAGICA ウェスト) , 大傍正規 (NFC) モデレーター : 三浦和己 (NFC)</p> <p>第 2 回 2018 年 2 月 10 日 (土) 3 : 00pm ~ [5 : 00pm 終了予定] テーマ : 『セーラー服と機関銃 完璧版』の再タイミング 講師 : 鈴木美康 (NFC) , 郷田真理子 (株式会社 IMAGICA ウェスト, フィルムタイマー) , 阿部悦明 (株式会社 IMAGICA, カラリスト) モデレーター : 大傍正規 (NFC)</p> <p>第 3 回 2018 年 2 月 16 日 (金) 2 : 00pm ~ [4 : 00pm 終了予定] テーマ : 多チャンネル音声の修復 ~米国における音声修復の最前線~ 講師 : 宮野起 (Audio Mechanics, Film Preservationist) モデレーター : 三浦和己 (NFC)</p> <p>第 4 回 2018 年 2 月 17 日 (土) 3 : 00pm ~ [5 : 00pm 終了予定] テーマ : 色彩のデジタル・シミュレーション ~『浮草』『コルシカの兄弟』のデジタル復元~ 講師 : 長谷川智弘 (株式会社 IMAGICA, カラーマネジメントアドバイザー) , 三浦和己 (NFC) モデレーター : 大傍正規 (NFC)</p>		
内容	<p>映画アーカイブにかかわる関係者でアーカイブの理念と活動を支える技術の問題を共有しながら情報・意見交換を深める場として、フィルム映画を適正に保存し映画文化を継承していくうえで必要な、公開当時のオリジナルの色彩と音をテーマに据え、その保存と再現の問題を考察する第二弾セミナー。</p>		
イ 京都国立近代美術館			
セミナー・シボジウム名	キュレトリアル・スタディズ 12 : 泉 / Fountain 1917-2017 Case 1: マルセル・デュシャン 29 歳, 便器を展覧会に出品する ギャラリートーク	開催年月日	平成 29 年 5 月 20 日 (土)
場所	4 階コレクション・ギャラリー	聴講者数	72 人
講師・パネリスト等の氏名 (職名)	平芳幸浩 (京都工芸繊維大学美術工芸資料館准教授)		
内容	<p>コレクション・ギャラリー小企画「キュレトリアル・スタディズ 12 : 泉 / Fountain 1917-2017」の関連イベントとして、本企画のゲストキュレーター平芳幸浩氏を講師に迎えギャラリートークを実施した。</p>		
セミナー・シボジウム名	キュレトリアル・スタディズ 12 : 泉 / Fountain 1917-2017 Case 2: He CHOSE it. レクチャー	開催年月日	平成 29 年 6 月 23 日 (金)
場所	1 階講堂	聴講者数	91 人
講師・パネリスト等の氏名 (職名)	藤本由紀夫 (美術家)		

内容	コレクション・ギャラリー小企画「キュレトリアル・スタディズ 12: 泉/Fountain 1917-2017」の関連イベントとして、本企画の出品作家兼ゲストキュレーター藤本由紀夫氏を講師に迎えレクチャーを実施した。		
セミナー・シホﾞジウム名	キュレトリアル・スタディズ 12: 泉/Fountain 1917-2017 Case 3: 誰が《泉》を捨てたのか Flying Fountain(s) レクチャー	開催年月日	平成 29 年 9 月 2 日 (土)
場所	1 階講堂	聴講者数	58 人
講師・パネリスト等の氏名 (職名)	河本信治 (元京都国立近代美術館学芸課長)		
内容	コレクション・ギャラリー小企画「キュレトリアル・スタディズ 12: 泉/Fountain 1917-2017」の関連イベントとして、本企画のゲストキュレーター河本信治氏を講師に迎えレクチャーを実施した。		
セミナー・シホﾞジウム名	キュレトリアル・スタディズ 12: 泉/Fountain 1917-2017 Case 4: デュシャンを読む: リサーチ・ノート アーティストトーク	開催年月日	平成 29 年 10 月 26 日 (木)
場所	4 階コレクション・ギャラリー	聴講者数	16 人
講師・パネリスト等の氏名 (職名)	ベサン・ヒューズ (アーティスト)		
内容	コレクション・ギャラリー小企画「キュレトリアル・スタディズ 12: 泉/Fountain 1917-2017」の関連イベントとして、本企画の出品作家兼ゲストキュレーターベサン・ヒューズ氏を講師に迎えアーティストトークを実施した。		
セミナー・シホﾞジウム名	第 4 回コレクション展 特集展示: ケラ美術協会 関連イベント 座談会「ケラを語る」	開催年月日	平成 29 年 12 月 9 日 (土)
場所	1 階講堂	聴講者数	56 人
講師・パネリスト等の氏名 (職名)	出席者: 岩田重義 (元ケラ美術協会会員・以下同), 楠田信吾, 野村久之, 物部隆一 司会: 平井章一 (京都国立近代美術館 主任研究員)		
内容	所蔵品を使った「特集展示: ケラ美術協会」の開催にちなみ, 出品中の作品の制作意図やケラ美術協会の活動等について, 当事者から語っていただいた。		
セミナー・シホﾞジウム名	キュレトリアル・スタディズ 12: 泉/Fountain 1917-2017 Case 5: 散種 クロストーク	開催年月日	平成 30 年 1 月 26 日 (金)
場所	1 階講堂	聴講者数	70 人
講師・パネリスト等の氏名 (職名)	毛利悠子 (アーティスト), 浅田彰 (批評家)		
内容	コレクション・ギャラリー小企画「キュレトリアル・スタディズ 12: 泉/Fountain 1917-2017」の関連イベントとして、本企画の出品作家兼ゲストキュレーター毛利悠子氏と批評家の浅田彰氏を講師に迎えクロストークを実施した。		
ウ 国立西洋美術館			
セミナー・シホﾞジウム名	ル・コルビュジェの 3 つの美術館: 管理と保存のためのワークショップ	開催年月日	平成 30 年 2 月 4 日 (日) ~8 日 (木)
場所	繊維業会館 (インド, アーメダバード), チャンディガール政府博物館・美術館 (インド, チャンディガール)	聴講者数	100 人 (公開セッション) 20 人 (ワークショップ)
講師・パネリスト等の氏名 (職名)	村上博哉 (国立西洋美術館副館長), 福田京 (国立西洋美術館専門職員), 邊牟木尚美 (国立西洋美術館研究員), 久保田有寿 (国立西洋美術館特定研究員), チャンドラー・マッコイ (グティ保		

	存研究所), スーザン・マクドナルド(ゲティ保存研究所), バルクリシュナ・ドーシ(建築家), ブリジット・ブーヴィエ(ル・コルビュジエ財団事務局長), プラバート・クマール・ゴーシ(アーメダバード文化遺産保存委員会代表), サンゲータ・バグガ・メタ(チャンディガール建築大学学長) シーマ・ゲラ(チャンディガール政府博物館・美術館副館長) 他
内容	ゲティ保存研究所(アメリカ, ロサンゼルス)の主催により, ル・コルビュジエが設計したインドのサンスカル・ケンドラ美術館(アーメダバード), チャンディガール政府博物館・美術館, 国立西洋美術館の3館の関係者が集い, 各館の活動と建築の保存に関する報告・討議, 及び公開セッションを行った。

別表 12 シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

ア 東京国立近代美術館			
(本館)			
セミナー・シンポジウム名	日本の家から考える新しい暮らし	開催年月日	平成 29 年 9 月 1 日 (金)
場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数	151 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	青木淳(建築家, 東京藝術大学客員教授), 西沢立衛(建築家, 横浜国立大学大学院 Y-GSA 教授), 保坂健二郎(東京国立近代美術館主任研究員)		
内容	企画展「日本の家 1945 年以降の建築と暮らし」の関連イベントとして, 建築家の青木淳氏, 西沢立衛氏を講師に招き, 「日本の家から考える新しい暮らし」と題したシンポジウムを開催した。		
セミナー・シンポジウム名	建築をなぜ今『見る』『魅せる』	開催年月日	平成 29 年 10 月 29 日 (日)
場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数	120 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	塚本由晴(建築家, アトリエ・ワン, 東京工業大学大学院教授, 「日本の家 1945 年以降の建築と暮らし」チーフ・アドバイザー) 菊地敦己(アートディレクター, グラフィックデザイナー) 保坂健二郎(東京国立近代美術館主任研究員)		
内容	企画展「日本の家 1945 年以降の建築と暮らし」の関連イベントとして, 建築家の塚本由晴氏, アートディレクターの菊地敦己氏を講師に招き, 「建築をなぜ今『見る』『魅せる』」と題したシンポジウムを開催した。		
(フィルムセンター)			
セミナー・シンポジウム名	「デジタル時代におけるジョージ・イーストマン博物館の映画保存」	開催年月日	平成 29 年 10 月 28 日 (土)
場所	フィルムセンター大ホール	聴講者数	115 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師: ユーリ・メデン(ジョージ・イーストマン博物館キュレーター)		
内容	「ジョージ・イーストマン博物館 映画コレクション」開催に伴い, アメリカにおけるフィルム・アーカイブの状況と共に, ジョージ・イーストマン博物館のコレクションの特色, アーカイブの方針とその活動, コレクションのデジタル化の方針について講演を行った。		
セミナー・シンポジウム名	「チェコ映画の革新—チェコ・ヌーヴァルヴァーグの時代—」	開催年月日	平成 29 年 12 月 9 日 (土)
場所	フィルムセンター大ホール	聴講者数	108 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師: ミハル・ブレガン(チェコ国立フィルムアーカイブ CEO)		

内容	企画上映「日本におけるチェコ文化年 2017 チェコ映画の全貌」で上映作品の大半を占めるチェコ・ヌーヴェルヴァーグ作品について、チェコ・ヌーヴェルヴァーグが登場する歴史的背景や作品の特色について解説。		
イ 京都国立近代美術館			
セミナー・シポジウム名	記念講演会「壁の向こうのハリウッド」	開催年月日	平成 29 年 5 月 13 日 (土)
場所	1 階 講堂	聴講者数	29 人
講師・パネリスト等の氏名 (職名)	講師：ラルフ・シェンク (DEFA 財団理事長) モデレーター：池田祐子 (京都国立近代美術館主任研究員)		
内容	企画展「戦後ドイツの映画ポスター」の関連イベントとして、旧東ドイツの映画製作会社であった DEFA (現在は旧東ドイツの映画アーカイブ) 財団理事長であるシェンク氏を迎え、「壁の向こうのハリウッド」と題した講演会を開催し、旧東ドイツにおける映画そして映画ポスター製作の状況と、東西ドイツ統一後の変化についてお話頂いた。また、講演後聴者と活発な意見交換が行われた。		
セミナー・シポジウム名	技を極める—ヴァン クリーフ&アーペル ハイジュエリーと日本の工芸 記念レクチャー 2	開催年月日	平成 29 年 5 月 21 日 (日)
場所	1 階講堂	聴講者数	82 人
講師・パネリスト等の氏名 (職名)	ヴァンサン・メイラン (宝飾史研究家)		
内容	企画展「技を極める—ヴァン クリーフ&アーペル ハイジュエリーと日本の工芸」の関連イベントとして、宝飾史研究家ヴァンサン・メイラン氏を講師に迎え、第二回目の記念レクチャーを実施した。		
セミナー・シポジウム名	「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」第 1 回フォーラム「感覚×コミュニケーションでひらく、美術鑑賞の新しいかたち」	開催年月日	平成 29 年 10 月 7 日 (土)
場所	京都国立近代美術館 ロビー	聴講者数	65 人
講師・パネリスト等の氏名 (職名)	橋本こずえ (兵庫県立美術館学芸員), 岡本裕子 (岡山県立美術館主任学芸員), たけうちしんいち・山川秀樹 (ミュージアム・アクセス・ビュー), 日野陽子 (京都教育大学准教授)		
内容	視覚に障害のある方と美術館をつなぐ取組について、先進事例の共有を目的にフォーラムを開催した。「みる」ことだけにとらわれない美術鑑賞を実践している美術館、グループから講師を招いた。発表と会場を交えたディスカッションを通して、誰もが楽しめるユニバーサルな美術鑑賞のかたちについて、「さまざまな感覚を用いること」と「コミュニケーション」という視点が重要であることが明らかになった。		
セミナー・シポジウム名	「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」第 2 回フォーラム「伝える・感じる・考える—制作者と鑑賞者の対話」	開催年月日	平成 29 年 12 月 16 日 (土)
場所	京都国立近代美術館 ロビー, 講堂	聴講者数	86 人
講師・パネリスト等の氏名 (職名)	広瀬浩二郎 (国立民族学博物館准教授), 石原友明 (アーティスト), 鈴木康広 (アーティスト)		
内容	視覚に障害のある人と晴眼者がともに、2 名の作家の作品をさわって鑑賞した後、作家も交えて作品の意義や美術鑑賞の多様なあり方について意見交換を行った。触覚を用いて鑑賞することで、視覚だけでは捉えきれない作品の特徴に気づいたり、鑑賞者同士、鑑賞者と作家が対話することで、それぞれの考え方の違いを共有し、より深い作品理解が可能になることが明らかになった。		
セミナー・シポジウム名	ゴッホ展 巡りゆく日本の夢 記念講演会「〈ファン・ゴッホと日本〉についての最新の知見」	開催年月日	平成 30 年 1 月 20 日 (土)

場所	1階講堂	聴講者数	100人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	園府寺司(大阪大学文学研究科教授)		
内容	企画展「ゴッホ展 巡りゆく日本の夢」の関連イベントとして、大阪大学文学研究科教授園府寺司氏を講師に迎え、記念講演会を実施した。		
ウ 国立西洋美術館			
セミナー・シポジウム名	国際シンポジウム「ドイツ近代芸術におけるディレクタントイイズム」	開催年月日	平成29年10月27日(金)
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	110人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	佐藤直樹(東京藝術大学准教授), トルステン・ファルク(ヴァイマル古典財団研究教育部門長/イェナ大学教授), ヤナ・ピーパー(ヴァイマル古典財団), ウルリヒ・フィステラー(ミュンヘン大学教授/中央美術史研究所所長)		
内容	19世紀ドイツのディレクタントイイズムを、純粋な芸術活動を目指す近代的な「理想的芸術家像」の源流ととらえ、様々な視点から活動と意味に迫った。		
セミナー・シポジウム名	国際シンポジウム「異文化を伝えた人々—19世紀在外日本コレクション研究の現在」	開催年月日	平成29年10月28(土)~29日(日)
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	120人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	久留島浩(国立歴史民俗博物館長), 日高薫(国立歴史民俗博物館), 保谷徹(東京大学史料編纂所), 櫻庭美咲(国立歴史民俗博物館), ルドルフ・エッフェルト(ライデン大学), ブルーノ・リヒツフェルト(ミュンヘン五大陸博物館), ヨハネス・ヴィーニンガー(オーストリア応用芸術博物館), 小林淳一(東京都江戸東京博物館), 鈴木廣之(東京学芸大学), ジュヌヴィエーヴ・ラカンブル(オルセー美術館名誉上席学芸員), 今井朋(アーツ前橋), ジラルデッリ青木美由紀(イスタンブール工科大学), 堅田智子(上智大学), ベッティーナ・ツォルン(ウィーン世界博物館), フィリップ・スホメル(プラハ芸術大学・プラハ国立博物館研究部), 澤田和人(国立歴史民俗博物館), 馬淵明子(国立西洋美術館長)		
内容	海外における日本美術作品の調査報告を通じ、19世紀における日本コレクション形成の動向を検証した。		
セミナー・シポジウム名	世界遺産登録一周年記念シンポジウム「ル・コルビュジエ—日本における近代建築運動のひろがり—」	開催年月日	平成29年11月9日(木)
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	110人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	アントワーン・ピコン(ル・コルビュジエ財団会長, ハーバード大学教授), 富永讓(建築家, 法政大学名誉教授), 松隈洋(京都工芸繊維大学教授), 山名善之(東京理科大学教授), 西和彦(東京文化財研究所国際情報研究室長)		
内容	国立西洋美術館本館の世界遺産登録一周年を記念し、ル・コルビュジエの魅力や日本の近代建築に与えた影響についてふたつの講演を行い、更にパネルディスカッションを開催した。		
エ 国立国際美術館			
セミナー・シポジウム名	マルセル・デュシャンのノートを読んだww	開催年月日	平成29年9月29日(金)
場所	国立国際美術館 レストラン	聴講者数	30人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	平芳幸浩(京都工芸繊維大学准教授)		
内容	プレミアム・フライデー「アート/メディア—四次元の読書」レクチャー。マルセル・デュシャンが残した膨大なメモをどのように読み取っていくのかについて、特に作品の関連性を中心にデュシャン研究者平芳氏から最新の知見を披露していただいた。		

セミナー・シポジウム名	東京ビエンナーレ'70ー神話を越えて	開催年月日	平成 29 年 11 月 3 日 (金・祝)
場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数	56 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	峯村敏明 (美術評論家, 多摩美術大学名誉教授)		
内容	企画展「態度が形になるとき —安齊重男による日本の 70 年代美術—」に関連した講演会。日本における最初で最後の本格的な国際展といわれている「東京ビエンナーレ'70」について, その事業の実現に携わった峯村氏にその意味と問題点を考察していただいた。		
セミナー・シポジウム名	シャルル・クロ 詩人にして科学者—詩・蓄音機・色彩写真	開催年月日	平成 29 年 11 月 24 日 (金)
場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数	33 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	福田裕大 (近畿大学国際学部准教授)		
内容	プレミアム・フライデー「アート/メディア—四次元の読書」レクチャー。19 世紀後半のフランスで詩人として知られ, また, エジソンよりも先に蓄音機を考察したという, 極めて 20 世紀的な活動を実践したシャルル・クロについて話していただいた。		
セミナー・シポジウム名	菅木志雄のアクティヴェーションについて	開催年月日	平成 29 年 12 月 9 日 (土)
場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数	50 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	千葉成夫 (美術評論家)		
内容	企画展「態度が形になるとき —安齊重男による日本の 70 年代美術—」に関連した講演会。戦後日本現代美術の中でも重要な「もの派」の中心メンバーである菅木志雄の芸術の特性を, 菅が活動初期から実践してきたパフォーマンスを基軸として語っていただいた。		
オ 国立新美術館			
セミナー・シポジウム名	Art in Fashion, Fashion in Art	開催年月日	平成 30 年 3 月 4 日 (日)
場所	国立新美術館, 文化学園大学	聴講者数	30 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	フランス国立高等社会科学研究院「ファッション人類学会」, 「越境するファッションセミナー」との共催 登壇者: アンヌ・モンジャレ (フランス国立社会科学高等研究院), 高木陽子 (文化学園大学), 本橋弥生 (国立新美術館主任研究員), ミカエラ・ニコライ (ブリュッセル自由大学講師), 中村寛 (多摩美術大学准教授), トビー・スレイド (文化学園大学准教授), クレメンス・トーンキスト (ボラス大学教授), レイラ・ベルカイド=ネリ (パーソンズ・スクール・パリ教授), コレット・フサール (服飾史研究者), クリステル・ブランシュ・コント (フランス国立社会科学高等研究院博士課程), 沢辺真知子 (文化人類学者), サスキア・トーレン (文化学園大学大学院博士課程) 全 12 名		
内容	人文社会学においてファッションを研究している日仏の研究者 12 名が, それぞれ日本やフランスのファッションに関する研究発表を行った。		

独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 役員報酬の支給水準の設定についての考え方

国立美術館は、美術館を設置して、美術(映画を含む)に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。

そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。

理事においてもこれら多岐に渡る業務を遂行する理事長の職務を補佐するにあたり、相当の能力と専門性が求められる。

以上により役員報酬の設定にあたっては、国家公務員の指定職、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の長を参考とした。

② 平成29年度における役員報酬についての業績反映のさせ方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則により、役員に支給される報酬のうち、期末特別手当においては、文部科学大臣が行う業績評価、役員としての業務に対する貢献度等を総合的に勘案して理事長が決定する評価に基づき、期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができるものとしている。平成29年度においては、業績に反映するほどの特に顕著な業績や失態がなかったと判断し、役員報酬の増減は行わなかった。

③ 役員報酬基準の内容及び平成29年度における改定内容
法人の長

役員報酬支給基準は、月額及び期末特別手当から構成されている。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額(965,000円)及び地域手当(俸給月額の10%)の月額並びに俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に、6月に支給する場合においては100分の157.5、12月に支給する場合においては100分の172.5を乗じて得た額としている。また、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。

平成29年度においては、国家公務員の給与改定の状況を踏まえた改定として、期末特別手当支給率の引き上げ(年間0.05ヶ月分)を実施した。

理事

役員報酬支給基準は、法人の長と同様である。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額(761,000円)及び地域手当(東京都特別区20%)の月額並びに俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に、6月に支給する場合においては100分の157.5、12月に支給する場合においては100分の172.5を乗じて得た額としている。また、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。

平成29年度においては、国家公務員の給与改定の状況を踏まえた改定として、期末特別手当支給率の引き上げ(年間0.05ヶ月分)を実施した。

理事(非常勤)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、非常勤役員手当として月額80,000円としている。なお、平成29年度においては改定は行っていない。

監事(非常勤)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、非常勤役員手当として月額80,000円としている。なお、平成29年度においては改定は行っていない。

2 役員報酬等の支給状況

役名	平成29年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
	千円	報酬(給与)	賞与	その他(内容)	就任	退任	
法人の長	18,434	11,580	5,000	1,158 (地域手当) 47 (通勤手当) 552 (単身赴任手当)	H29.4.1		
A理事	15,417	9,132	4,244	1,826 (地域手当) 215 (通勤手当)	H29.4.1		◇
B理事 (非常勤)	960	960	0	0 ()	H29.4.1		
A監事 (非常勤)	960	960	0	0 ()			
B監事 (非常勤)	960	960	0	0 ()			

注1:「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入する。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

3 役員報酬水準の妥当性について

【法人の検証結果】

法人の長

国立美術館は、美術館を設置して、美術(映画を含む。)に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。

そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。

また、理事長の年間報酬額は、事務次官の年間給与額(2,317万円)と比較してもそれを下回っており、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の長の年間報酬額(1,800万円超)とほぼ同水準となっており、こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

理事

理事の職務においては、上記理事長の多岐に渡る業務を補佐するにあたり、相当の専門性を求めている。また、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の理事の年間報酬額(1,500万円超)とほぼ同水準となっており、こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

理事(非常勤)

理事(非常勤)については、国家公務員における指定職俸給表1号俸相当をベースに、業務内容、想定勤務日数等を総合的に勘案し算出している。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の理事(非常勤)の報酬額との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

監事(非常勤)

監事(非常勤)については、国家公務員における指定職俸給表1号俸相当をベースに、業務内容、想定勤務日数等を総合的に勘案し算出している。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の監事(非常勤)の報酬額との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

【主務大臣の検証結果】

専門性の観点及び同等分野の法人との比較において報酬水準は妥当であると考え。また、国及び民間との比較においても報酬水準は下回っていること等から報酬額は適正であると考え。

4 役員の退職手当の支給状況(平成29年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間		退職年月日	業績勘案率	適用	前職
	千円	年	月				
法人の長	4,617	3	8	H29.3.31	1.0		
理事	7,007	6	0	H29.3.31	1.0		
監事 (非常勤)	該当なし						

注:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。
退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

5 退職手当の水準の妥当性について

【主務大臣の判断理由等】

区分	判断理由
法人の長	在職期間3年8ヶ月における法人及び個人の業績等を踏まえ、「独立行政法人の役員の退職金に係る業績勘案率の算定ルールについて」(平成27年5月25日総務大臣決定)に基づき、文部科学大臣が業績勘案率1.0を決定した。退職手当支給額は、当該業績勘案率を踏まえ、「役員退職手当規程」に基づき決定されており、妥当なものと認められる。
理事	在職期間6年における法人及び個人の業績等を踏まえ、「独立行政法人の役員の退職金に係る業績勘案率の算定ルールについて」(平成27年5月25日総務大臣決定)に基づき、文部科学大臣が業績勘案率1.0を決定した。退職手当支給額は、当該業績勘案率を踏まえ、「役員退職手当規程」に基づき決定されており、妥当なものと認められる。
監事 (非常勤)	該当なし

注:「判断理由」欄には、法人の業績、担当業務の業績及び個人的な業績の検討結果を含め、業績勘案率及び退職手当支給額の決定に到った理由等を具体的に記入する。

6 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

当法人においては、期末特別手当について、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 職員給与の支給水準の設定等についての考え方

独立行政法人通則法第50条の10第3項に基づき、業務の実績を考慮し、かつ、社会一般情勢(国家公務員の給与水準)に適合するよう、学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に給与水準を決定している。

② 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

勤務評定等の結果を踏まえた勤務成績を考慮し、昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の決定を行っている。

[能率、勤務成績が反映される給与の内容]

給与種目	制度の内容
俸給月額 (昇格)	従事する職務に応じ、かつ、総合的な能力の評価により1級上位の級に昇格させることができる。
俸給月額 (昇給)	昇給期間における勤務成績等に応じて、上位の号俸に昇給させることができる。
賞与:勤勉手当 (査定分)	基準日以前6箇月以内の期間における、勤務成績に応じて決定される支給割合(成績率)に基づき支給される。

③ 給与制度の内容及び平成29年度における主な改定内容

独立行政法人国立美術館職員給与規則に則り、俸給及び諸手当(扶養手当、地域手当、住居手当、通勤手当、単身赴任手当、超過勤務手当、休日出勤手当、夜勤手当、管理職手当、主任研究員手当、期末手当及び勤勉手当)としている。
 期末手当については、期末手当基準額(俸給+扶養手当+地域手当+役職段階別加算額+管理職加算額)に6月に支給する場合においては100分の122.5、12月に支給する場合においては100分の137.5を乗じ、さらに基準日以前6箇月以内の期間におけるその者の在職期間に応じた割合を乗じて得た額としている。
 勤勉手当については、勤勉手当基準額(俸給+地域手当+役職段階別加算額+管理職加算額)に勤勉手当の支給基準に従って定める割合を乗じて得た額としている。
 また、平成29年度においては国家公務員の給与改定に準拠し、①人事院勧告による官民較差等の状況を踏まえ、俸給水準を平均0.2%引き上げ(平成30年2月期において平成29年4月に遡及して引き上げを実施)、②勤勉手当支給率の引き上げ(年間0.1ヶ月分)、③扶養手当額の改定等を実施した。

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	平成29年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内		うち賞与
				うち通勤手当		
常勤職員	人 90	歳 44.4	千円 7,795	千円 5,783	千円 155	千円 2,012
事務・技術	人 41	歳 40.7	千円 6,425	千円 4,758	千円 171	千円 1,667
研究職種	人 48	歳 47.5	千円 9,002	千円 6,684	千円 139	千円 2,318
技能・労務職種	人 1	歳 -	千円 -	千円 -	千円 -	千円 -
任期付職員	人 4	歳 69.0	千円 17,197	千円 12,428	千円 129	千円 4,769
指定職種	人 4	歳 69.0	千円 17,197	千円 12,428	千円 129	千円 4,769
非常勤職員	人 18	歳 43.6	千円 5,217	千円 5,034	千円 123	千円 183
事務・技術	人 9	歳 48.9	千円 4,274	千円 3,907	千円 120	千円 367
研究職種	人 9	歳 38.3	千円 6,160	千円 6,160	千円 125	千円 0

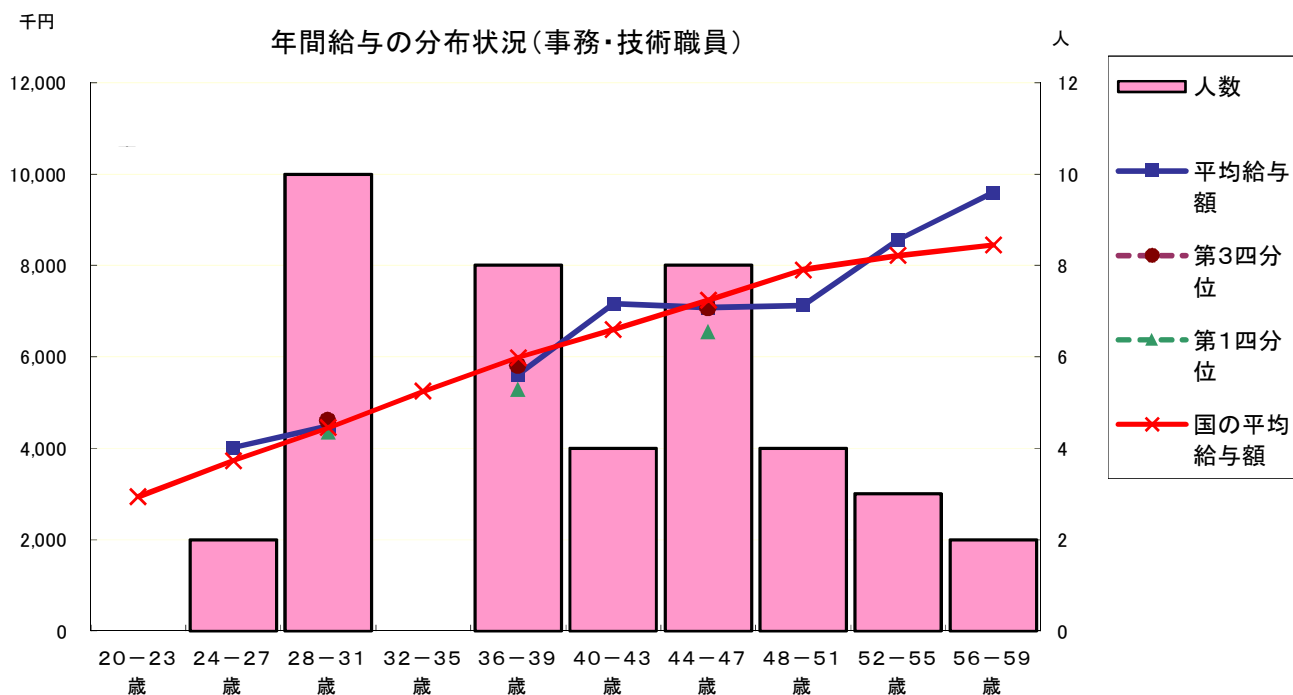
注1: 常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注2: 技能・労務職種とは、守衛の業務、又は映写技術に関する業務に従事する職種をいう。

注3: 技能・労務職種の該当者は1人の為、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

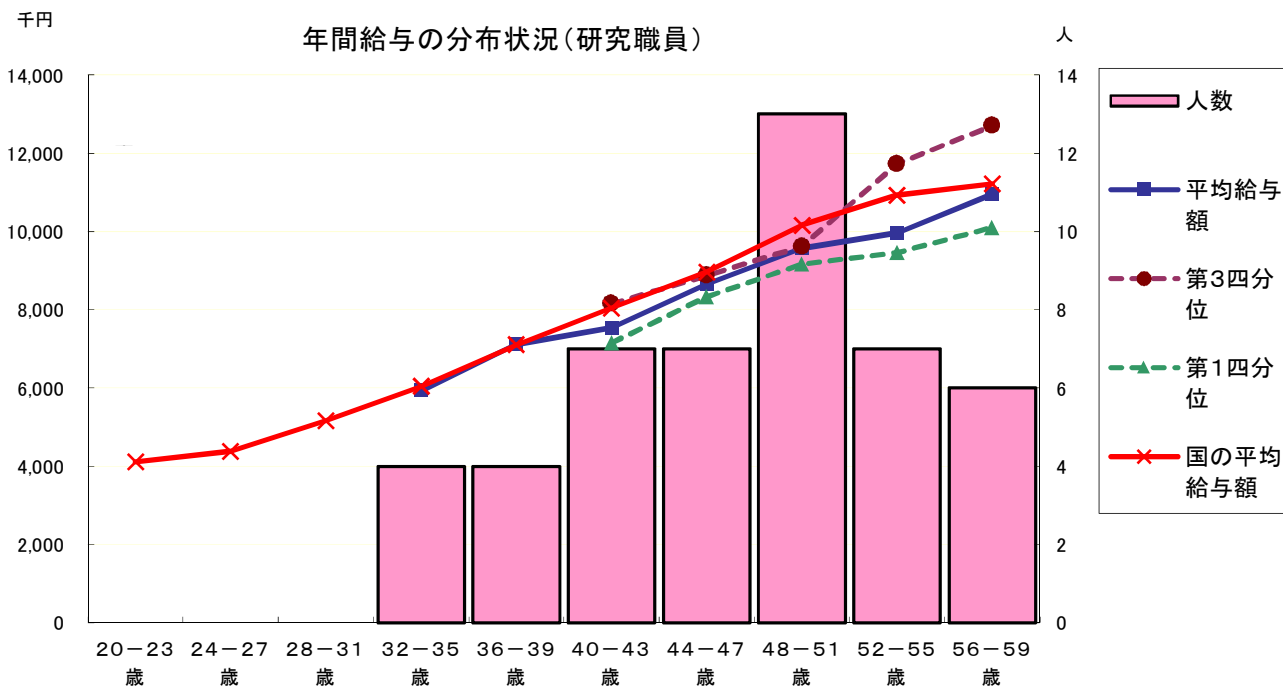
注4: 常勤職員、任期付職員、非常勤職員のうち医療職種(病院医師)、医療職種(病院看護師)及び教育職種(高等専門学校教員)、在外職員並びに再任用職員については、該当する者がいないため欄を省略した。

② 年齢別年間給与の分布状況(事務・技術職員／研究職員)〔在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。以下、④まで同じ。〕



注1: ①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、④まで同じ。

注2: 年齢24-27歳、40-43歳、48-51歳、52-55歳及び56歳-59歳の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、第1・第3四分位を表示していない。



注: 年齢32-35歳、36-39歳の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、第1・第3四分位を表示していない。

③ 職位別年間給与の分布状況(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額		
			平均	最高～最低	
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
本部課長	2	-	-	-	-
本部室長	1	-	-	-	-
本部係長	3	40.2	6,265	-	-
本部主任	1	-	-	-	-
本部係員	5	28.7	4,512	4,596	4,443
地方課長	4	52.8	8,954	-	-
地方室長	3	49.8	7,311	-	-
地方係長	12	45.0	6,546	7,829	5,314
地方主任	3	36.5	5,270	-	-
地方係員	7	29.2	4,337	4,689	3,562

注1: 本部係長、地方課長、地方室長、地方主任の該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、最高～最低を記載していない。

注2: 本部課長、本部室長、本部主任の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

(研究職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額		
			平均	最高～最低	
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
副館長	4	58.0	11,484	-	-
学芸課長	5	50.7	11,092	12,452	9,753
主任研究員	34	47.4	8,646	10,103	6,734
研究員	5	36.3	6,010	6,320	5,613

注1: 副館長の該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、最高～最低を記載していない。

④ 賞与(平成29年度)における査定部分の比率(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	%	%	%
	最高～最低	～	%	～
一般職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
		59.2	58.9	59.0
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	40.8	41.1	41.0
	最高～最低	46.2～38.2	44.2～38.3	43.1～38.3

注: 事務・技術職員の管理職員は2人以下のため、記載していない。

(研究職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	% 53.1	% 55.4	% 54.3
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 46.9	% 44.6	% 45.7
	最高～最低	% 52.4～39.6	% 48.4～39.6	% 50.1～39.6
一般職員	一律支給分(期末相当)	% 58.9	% 59.3	% 59.1
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	% 41.1	% 40.7	% 40.9
	最高～最低	% 46.2～38.5	% 45.5～38.5	% 43.1～38.5

3 給与水準の妥当性の検証等

事務・技術職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢勘案 99.7 ・年齢・地域勘案 90.6 ・年齢・学歴勘案 98.3 ・年齢・地域・学歴勘案 90.1
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	該当なし
給与水準の妥当性の 検証	<p>【国からの財政支出について】</p> <p>支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 83.7% (国からの財政支出額 9,547百万円、支出予算の総額 11,407百万円:平成29年度予算)</p> <p>累積欠損額 0円(平成29年度決算)</p> <p>支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 8.6% (支出総額(平成29年度決算ベース) 11,176,024千円、給与・報酬等支出総額 960,418千円)</p> <p>管理職の割合 0%(常勤職員数41名中0名)</p> <p>大卒以上の割合 82.9%(常勤職員数41名中34名)</p> <p>(法人の検証結果)</p> <p>俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており、国からの財政支出の割合は大きいものの、対国家公務員指数(年齢勘案)は国を0.3ポイント下回っており、平成29年度の事務職員の給与水準は適切なものであると認識している。</p> <p>(主務大臣の検証結果)</p> <p>給与水準の比較指標では国家公務員の水準未滿となっていること等から給与水準は適正であると考え、引き続き適正な給与水準の維持に努めていきたい。</p>
講ずる措置	引き続き適正な給与水準の維持に努める。

研究職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢勘案 95.1 ・年齢・地域勘案 93.0 ・年齢・学歴勘案 94.6 ・年齢・地域・学歴勘案 92.6
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	該当なし
給与水準の妥当性の 検証	<p>【国からの財政支出について】</p> <p>支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 83.7% (国からの財政支出額 9,547百万円、支出予算の総額 11,407百万円:平成29年度予算)</p> <p>累積欠損額 0円(平成29年度決算)</p> <p>支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 8.6% (支出総額(平成29年度決算ベース) 11,176,024千円、給与・報酬等支出総額 960,418千円)</p> <p>管理職の割合 8.3%(常勤職員数48名中4名) 大卒以上の割合 100%(常勤職員数48名中48名)</p> <p>(法人の検証結果)</p> <p>俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており、国からの財政支出の割合は大きいものの、対国家公務員指数(年齢勘案)は国を4.9ポイント下回っており、平成29年度の研究職員の給与水準は適切なものであると認識している。</p> <p>(主務大臣の検証結果)</p> <p>給与水準の比較指標では国家公務員の水準未滿となっていること等から給与水準は適正であると考え、引き続き適正な給与水準の維持に努めていきたい。</p>
講ずる措置	引き続き適正な給与水準の維持に努める。

4 モデル給与

(扶養親族がない場合)

- 22歳(大卒初任給)
月額 179,200円 年間給与 2,665,000円
- 35歳(本部主任)
月額 316,920円 年間給与 5,178,000円
- 50歳(本部室長)
月額 443,400円 年間給与 7,437,000円

※扶養親族がいる場合には、扶養手当(配偶者10,000円、子1人につき8,000円)を支給

5 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の判定については、規則に基づく勤務の評定、または業務において特に優秀な成績を修めた職員の勤務成績を考慮している。

Ⅲ 総人件費について

区 分	平成28年度	平成29年度
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 947,002	千円 960,418
退職手当支給額 (B)	千円 119,129	千円 48,505
非常勤役員等給与 (C)	千円 415,260	千円 475,256
福利厚生費 (D)	千円 198,057	千円 205,031
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 1,679,448	千円 1,689,210

注: 中期目標管理法人及び国立研究開発法人については中期目標期間又は中長期目標期間の開始年度分から当年度分までを記載する。行政執行法人については当年度分を記載する。

総人件費について参考となる事項

① 人事院勧告を踏まえた俸給水準及び勤勉手当支給率の引き上げ等の影響により「給与、報酬等支給総額」は対前年度比1.4%増となった。また、上記の他、非常勤職員数の増加や保険料率の引き上げ等に伴う「非常勤職員等給与」(前年度比14.4%)及び「福利厚生費」(前年度比3.5%)の増加、並びに「退職手当支給額」の減少(前年度比△59.3%)により、「最広義人件費」は対前年度比0.6%増となり、昨年度とほぼ同水準となった。

② 「公務員の給与改定に関する取扱いについて」(平成29年11月17日閣議決定)に基づき、平成30年1月から以下の措置を講じた。

役員に関する講じた措置の概要: 国家公務員の退職手当において行われた調整率の改定と同様の措置を講じ、退職手当額の算出に用いる支給率の引き下げを行った。

職員に関する講じた措置の概要: 国家公務員の退職手当において行われた調整率の改定と同様の措置を講じ、退職手当額を算出する際に用いる支給率の引き下げを行った。

Ⅳ その他

特になし。